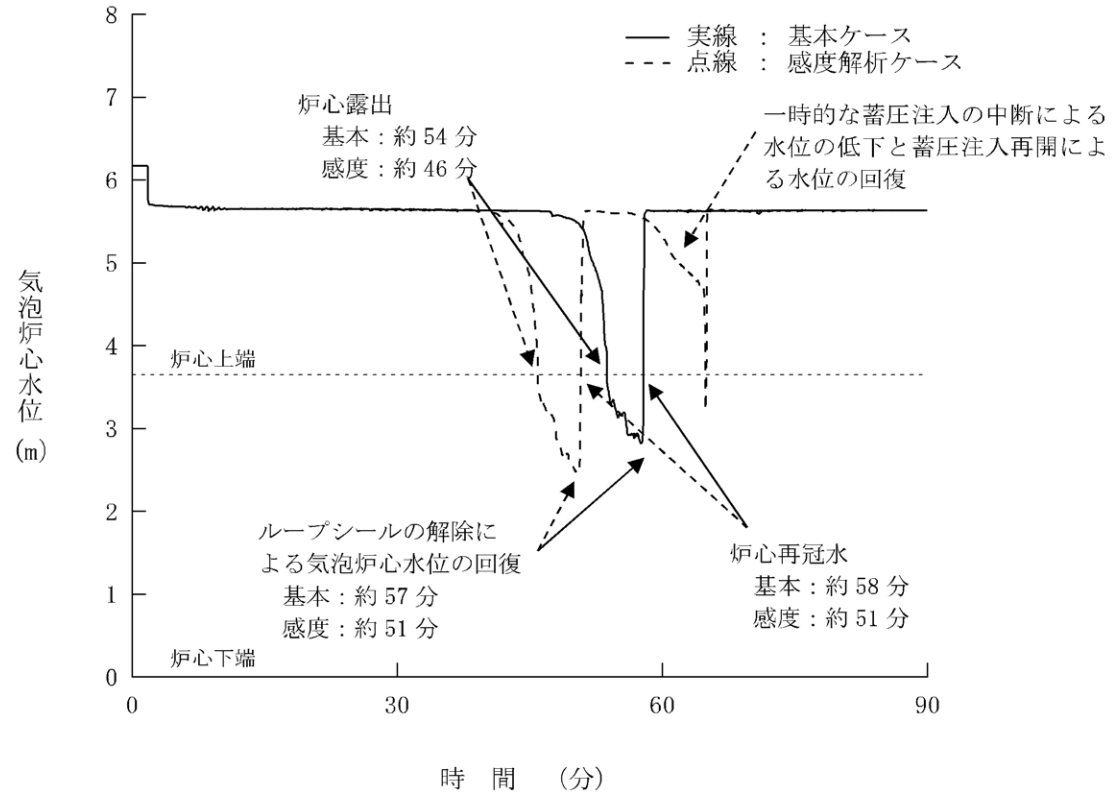
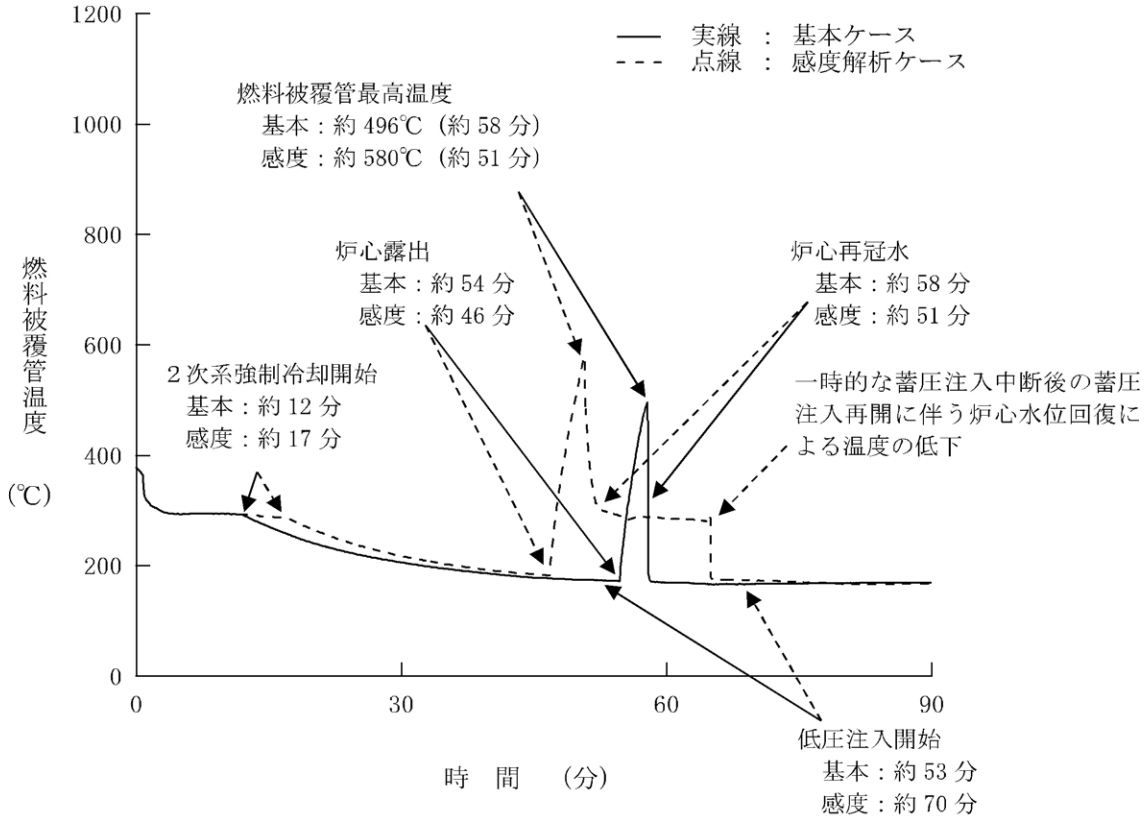
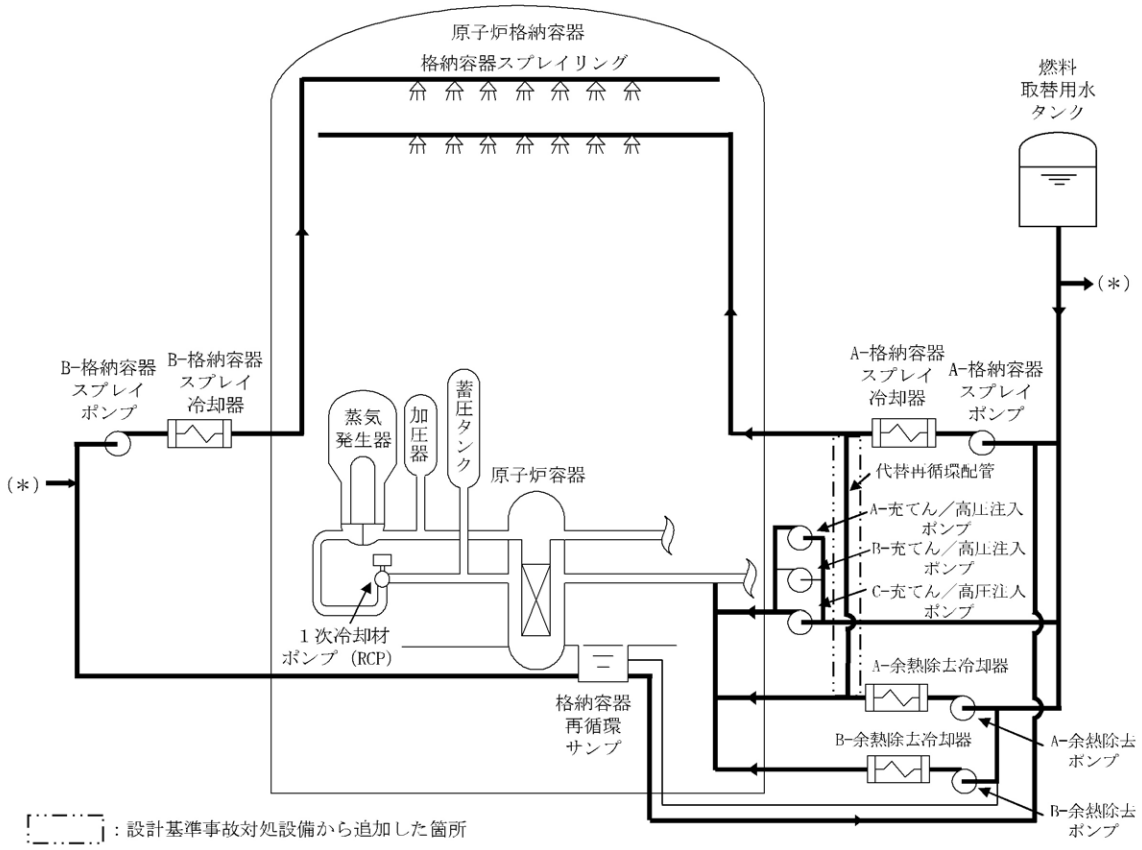


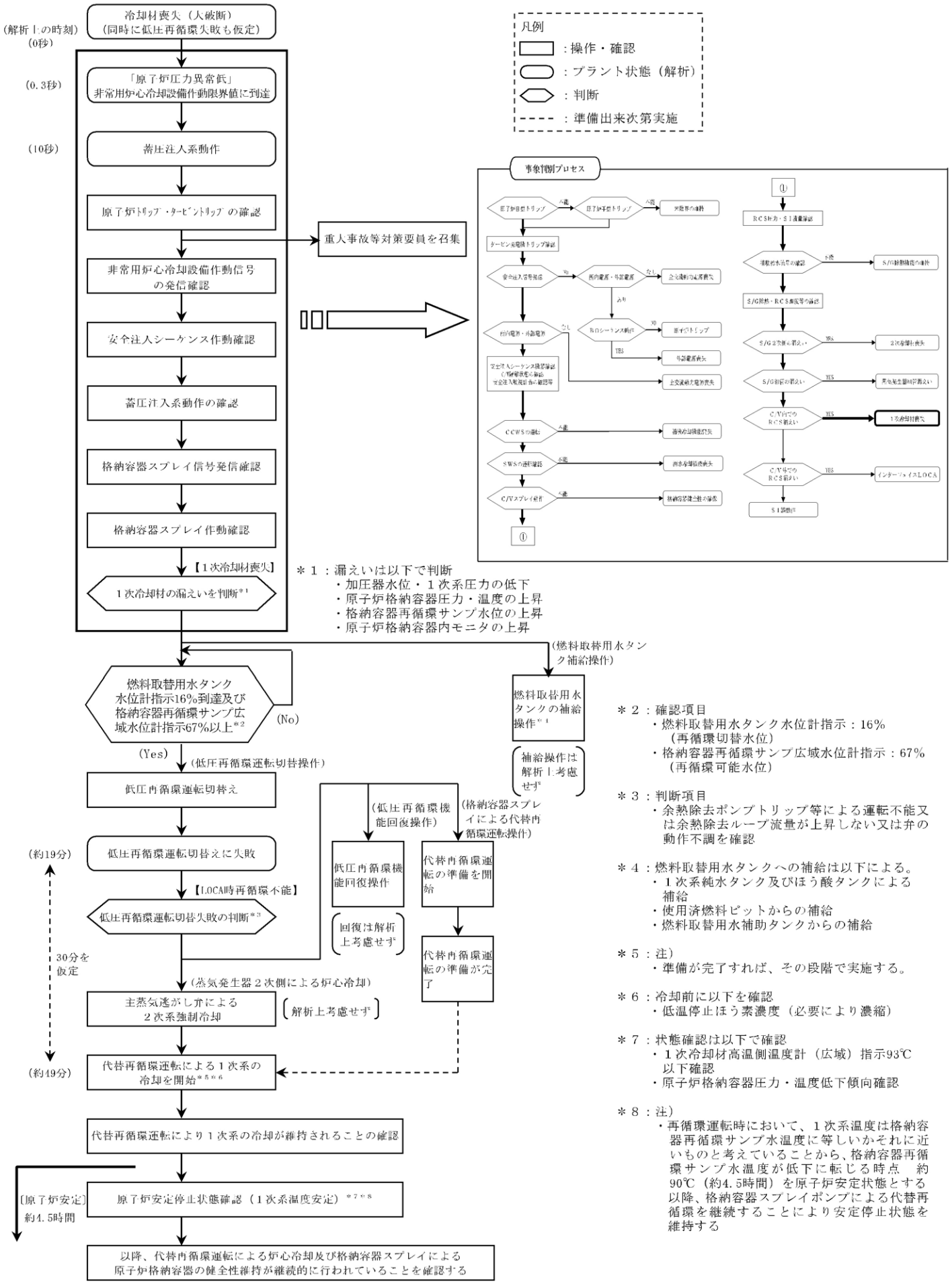
第 7.1.6.50 図　気泡炉心水位の推移（２インチ破断）
（２次系強制冷却操作時間余裕確認）



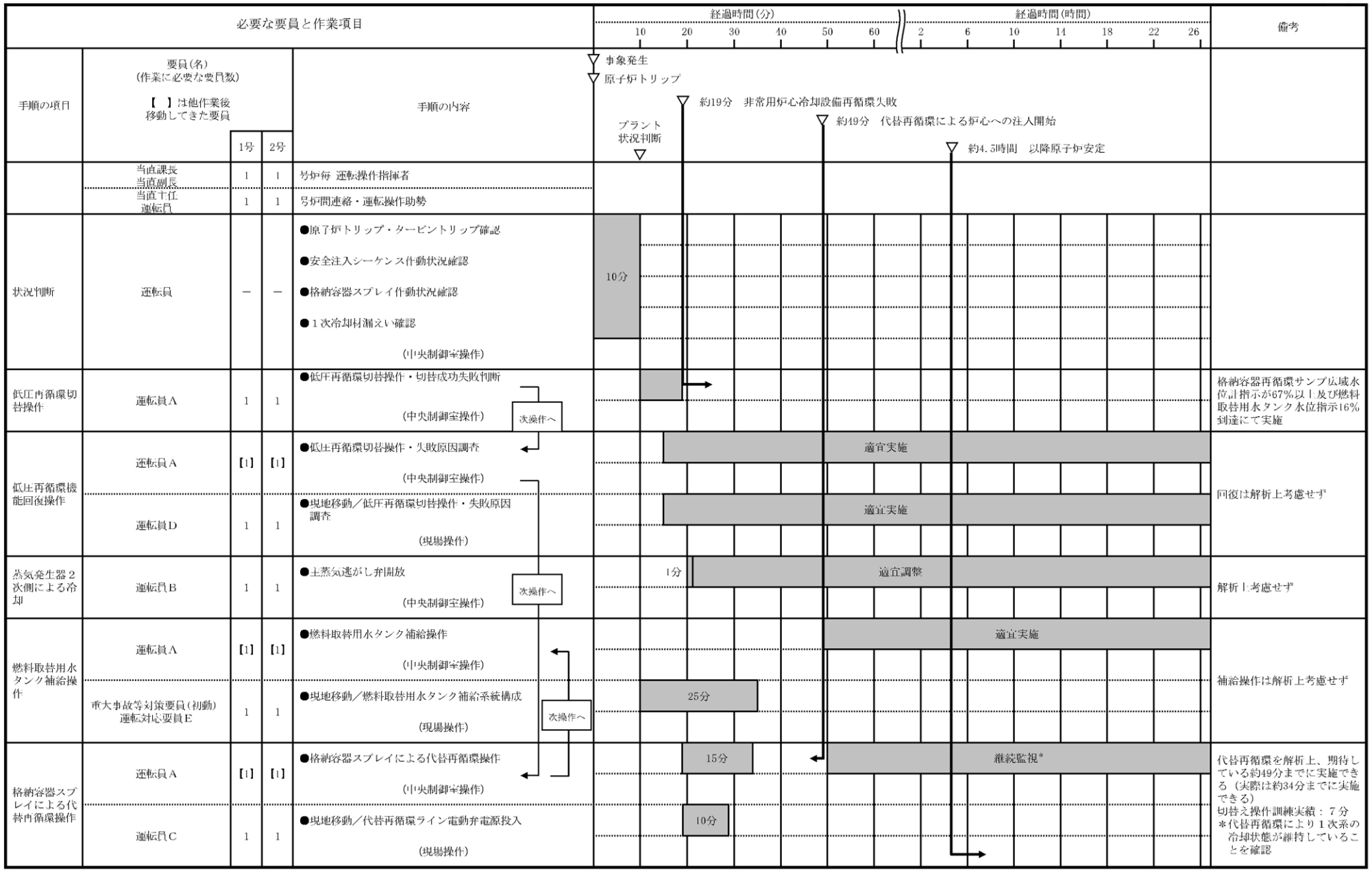
第 7.1.6.51 図　燃料被覆管温度の推移（２インチ破断）
（２次系強制冷却操作時間余裕確認）



第 7.1.7.1 図　ECCS 再循環機能喪失時の重大事故等対策の概略系統図

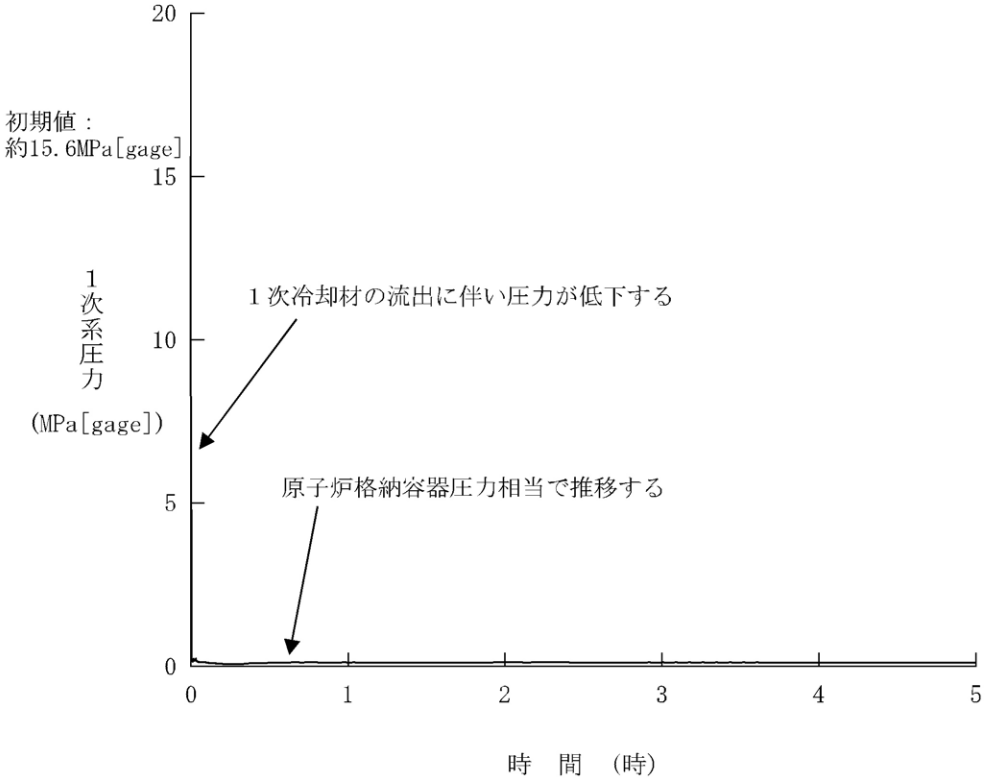


第7.1.7.2図　事故シーケンスグループ「ECCS再循環機能喪失」の対応手順の概要
（重要事故シーケンス「大破断LOCA＋低圧再循環失敗」の事象進展）

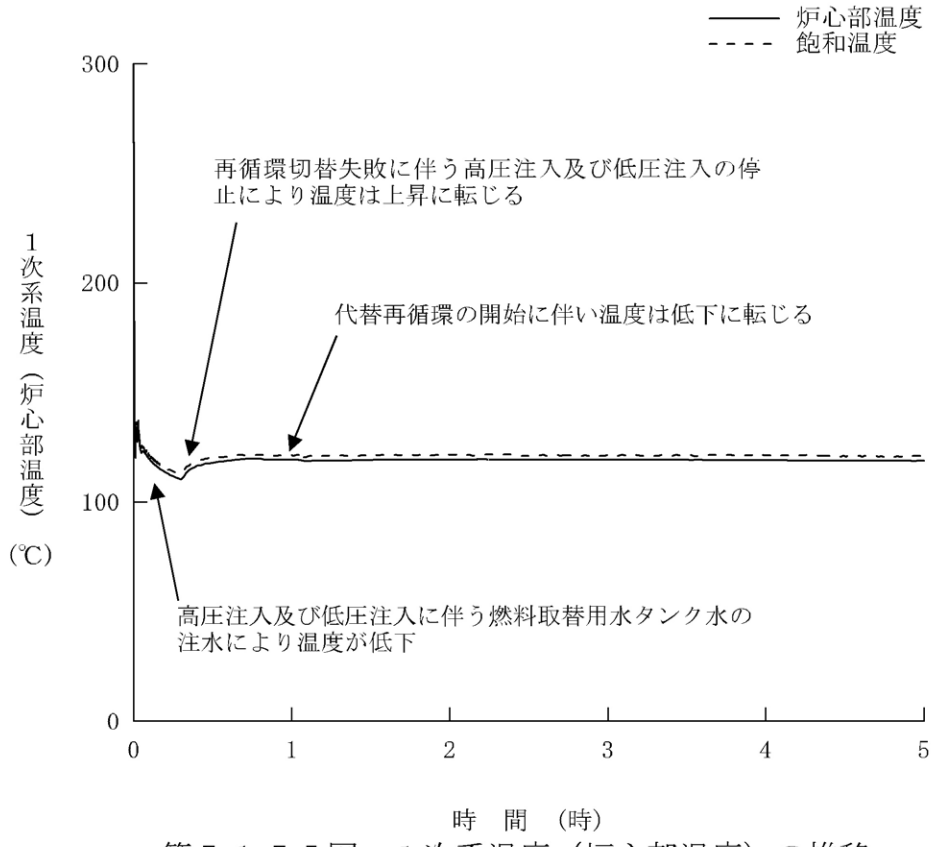


・各操作・作業の必要時間算定については、実際の現場移動時間または作業時間を確認した上で算出している（一部、未配備の機器については想定時間により算出）
・緊急時対策本部要員は４名であり、全体指揮、通報連絡等を行う。

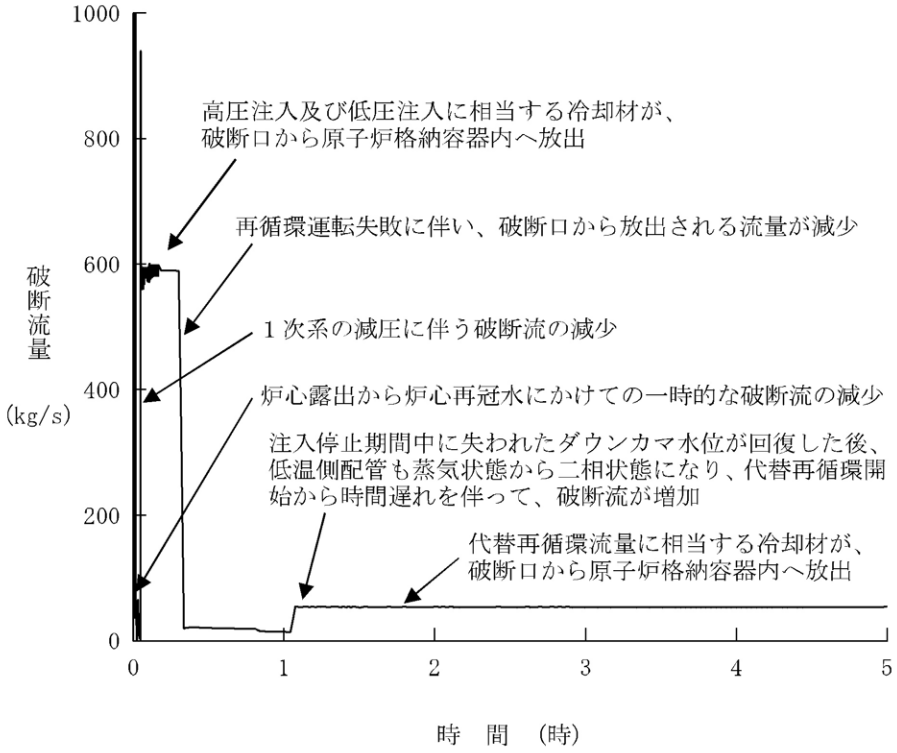
第 7.1.7.3 図　ECCS 再循環機能喪失時（大破断 LOCA＋低圧再循環失敗）の作業と所要時間



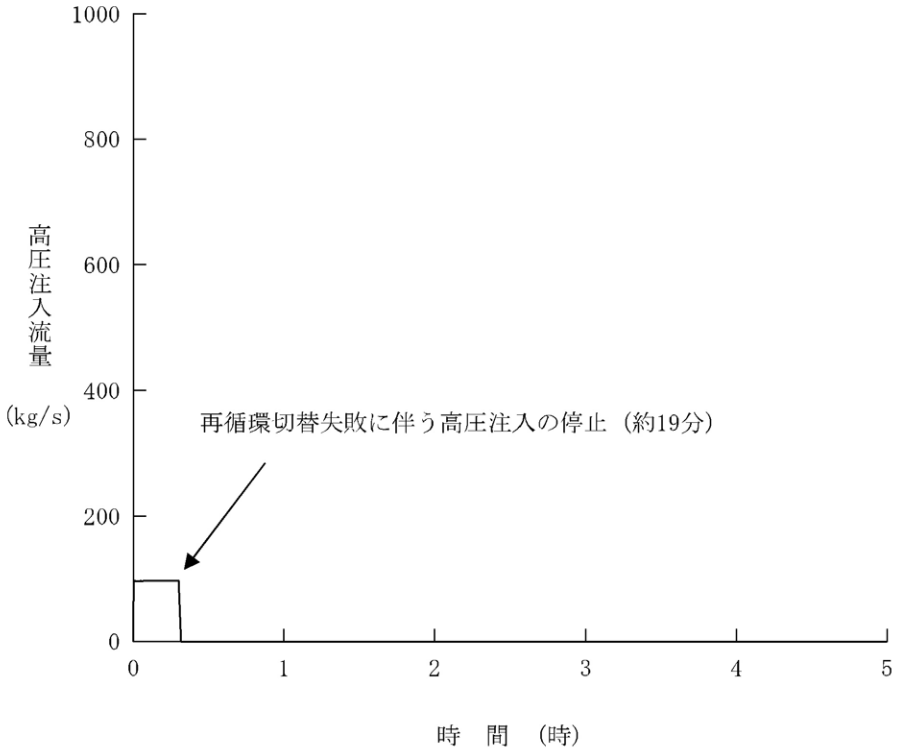
第7.1.7.4図　1次系圧力の推移



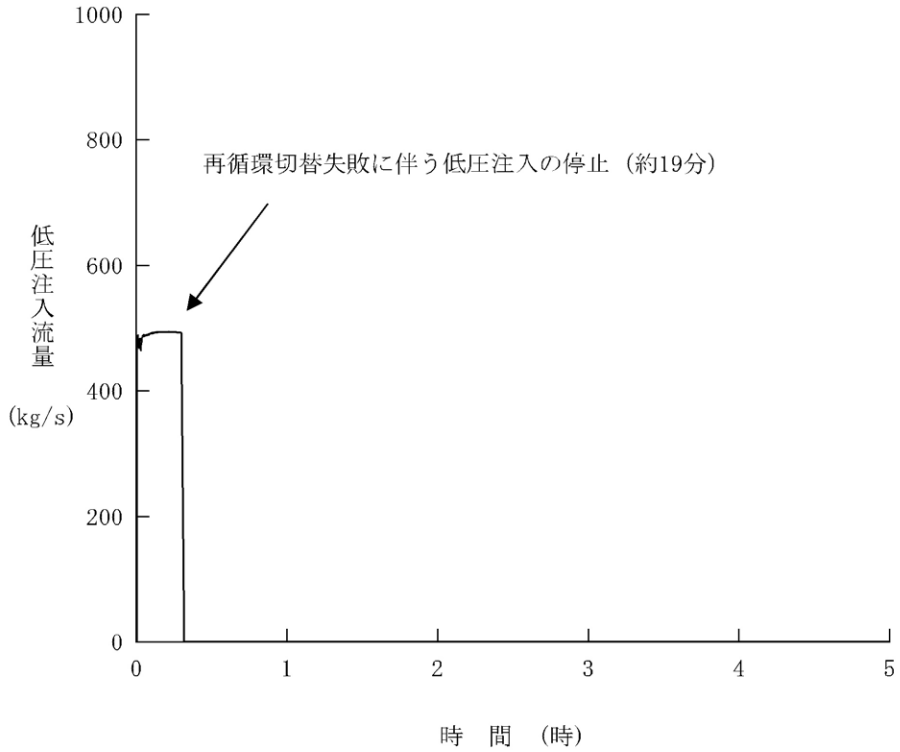
第7.1.7.5図　1次系温度（炉心部温度）の推移



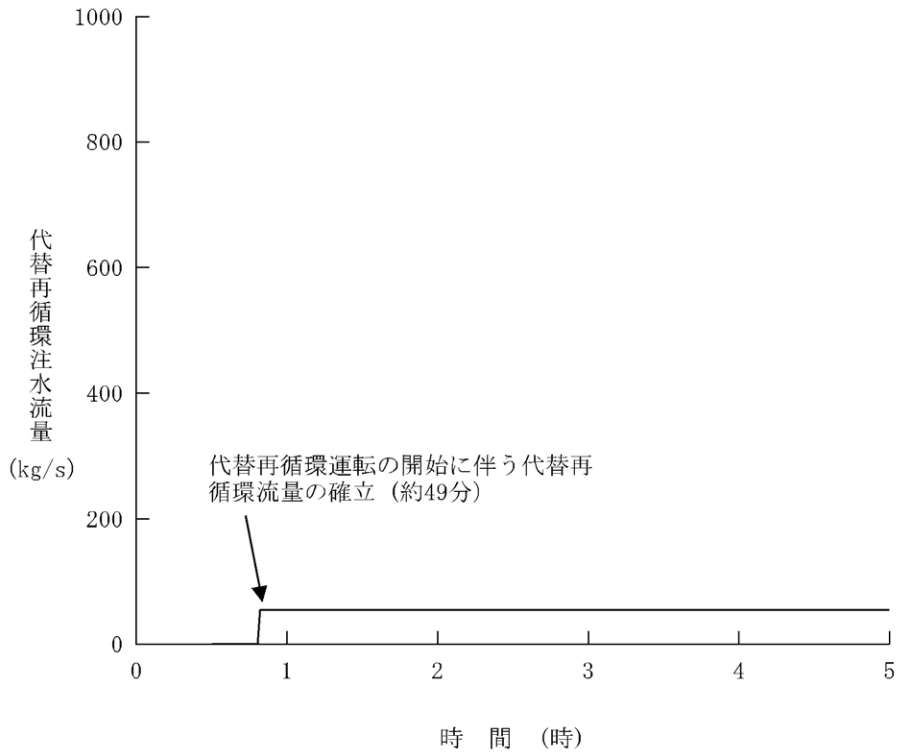
第 7.1.7.6 図　破断流量の推移



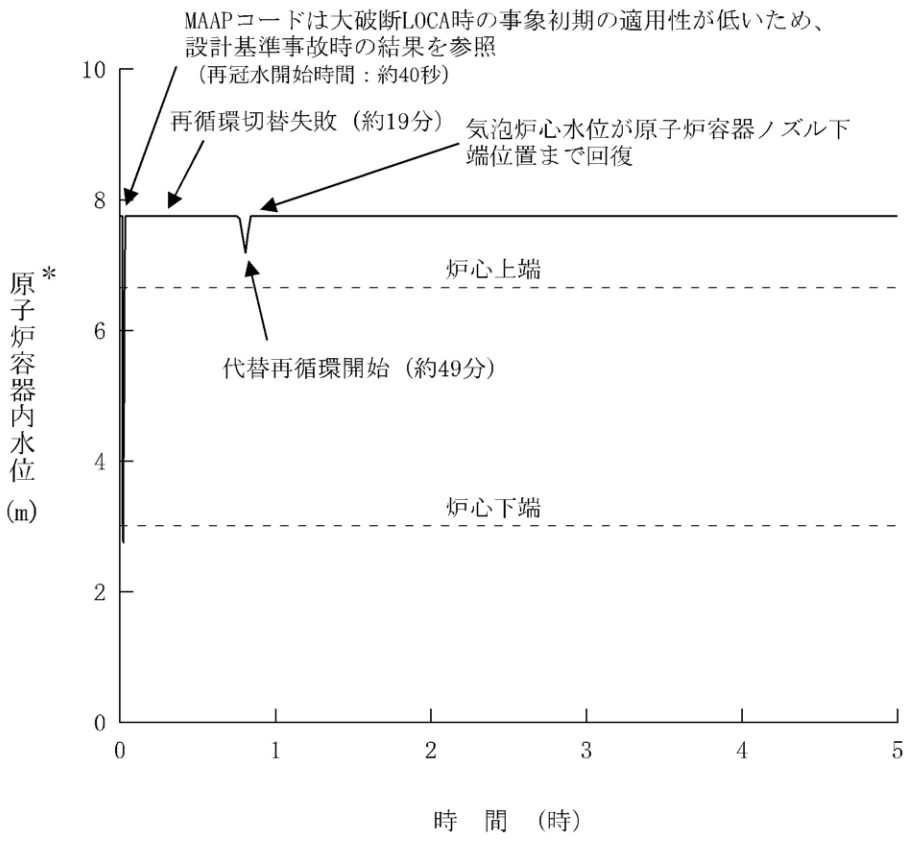
第 7.1.7.7 図　高圧注入流量の推移



第 7.1.7.8 図　低圧注入流量の推移

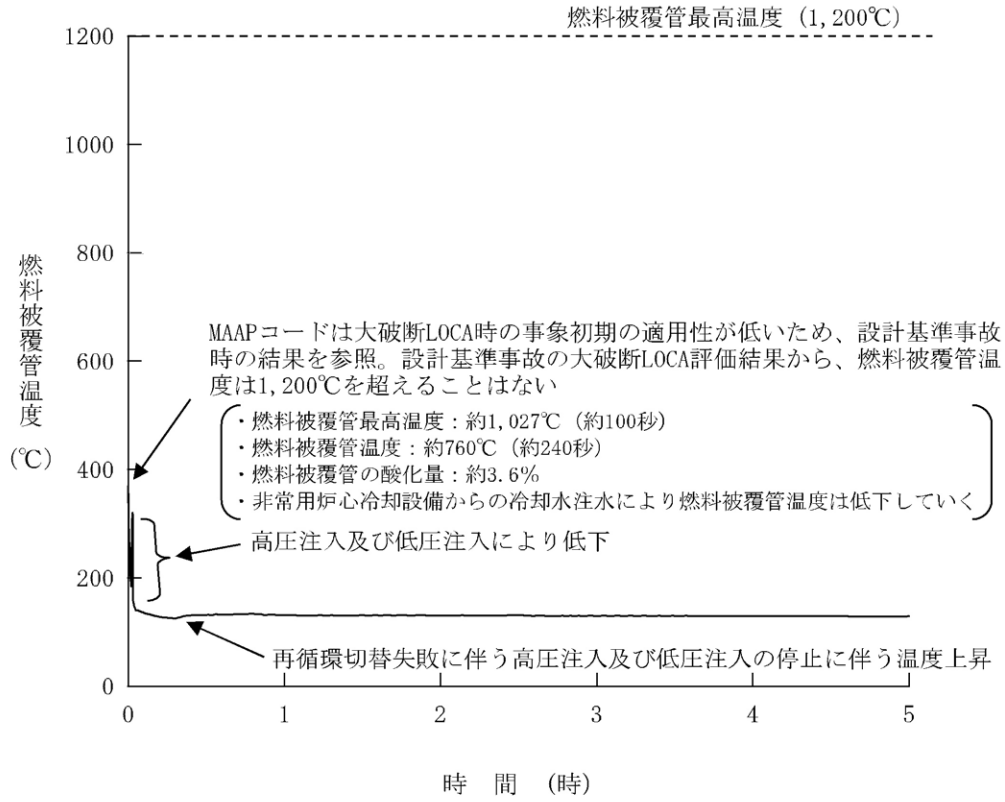


第 7.1.7.9 図　代替再循環注水流量の推移

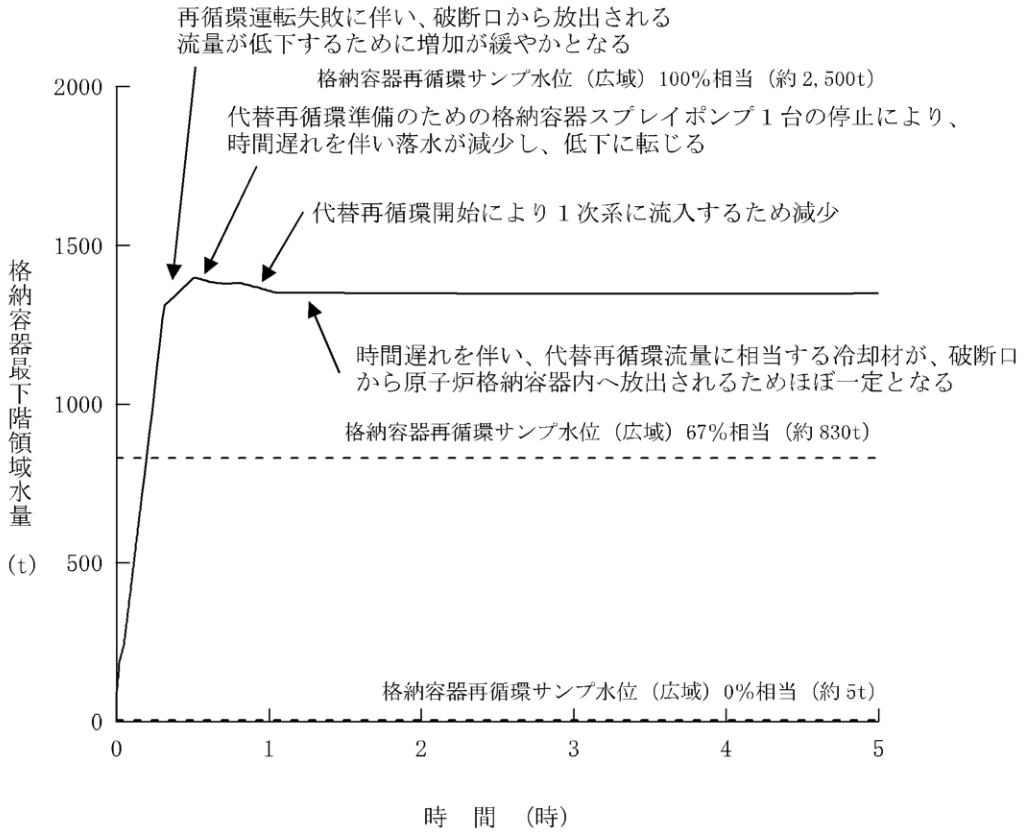


＊：原子炉容器内水位は入口ノズル下端を上限とした気泡炉心水位を表示

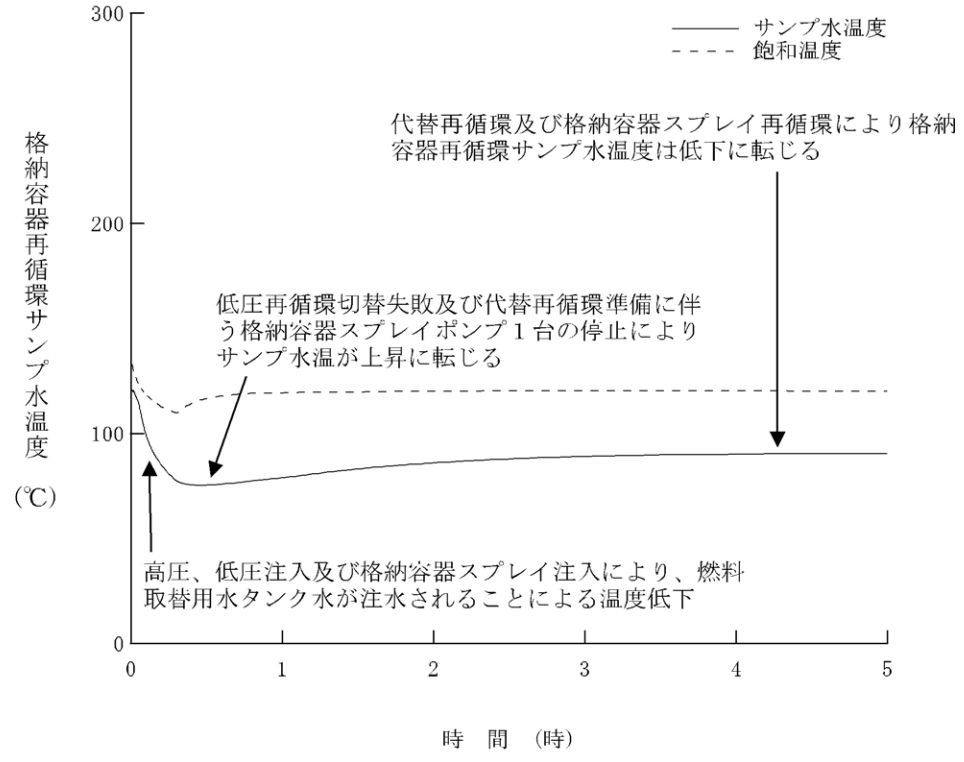
第 7.1.7.10 図　原子炉容器内水位の推移



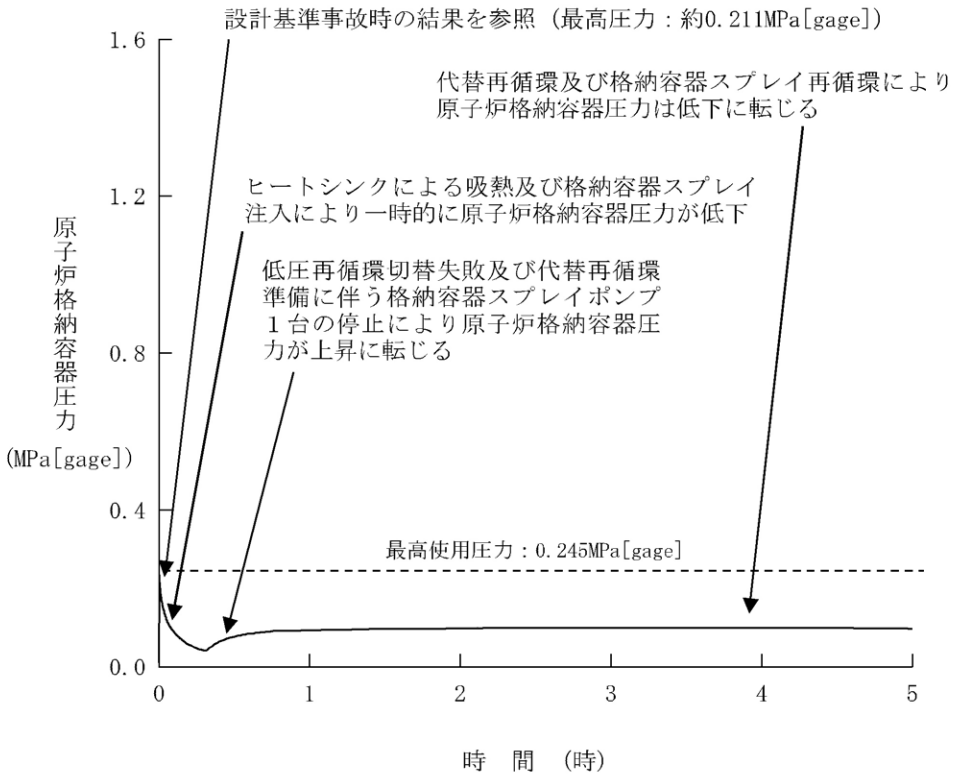
第 7.1.7.11 図　燃料被覆管温度の推移



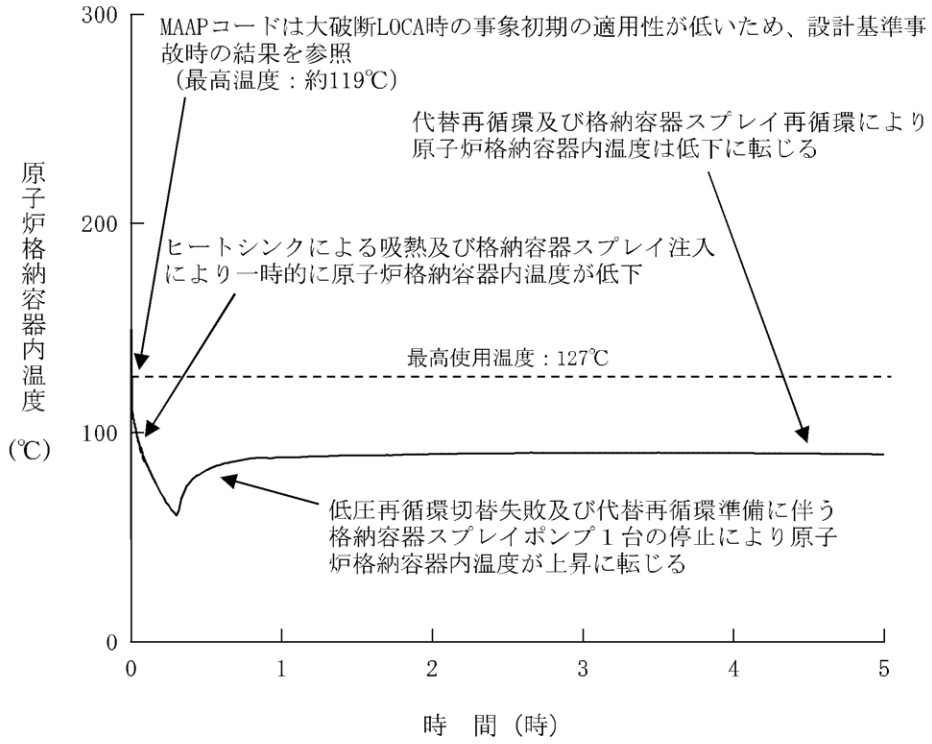
第 7.1.7.12 図　格納容器最下階領域水量の推移



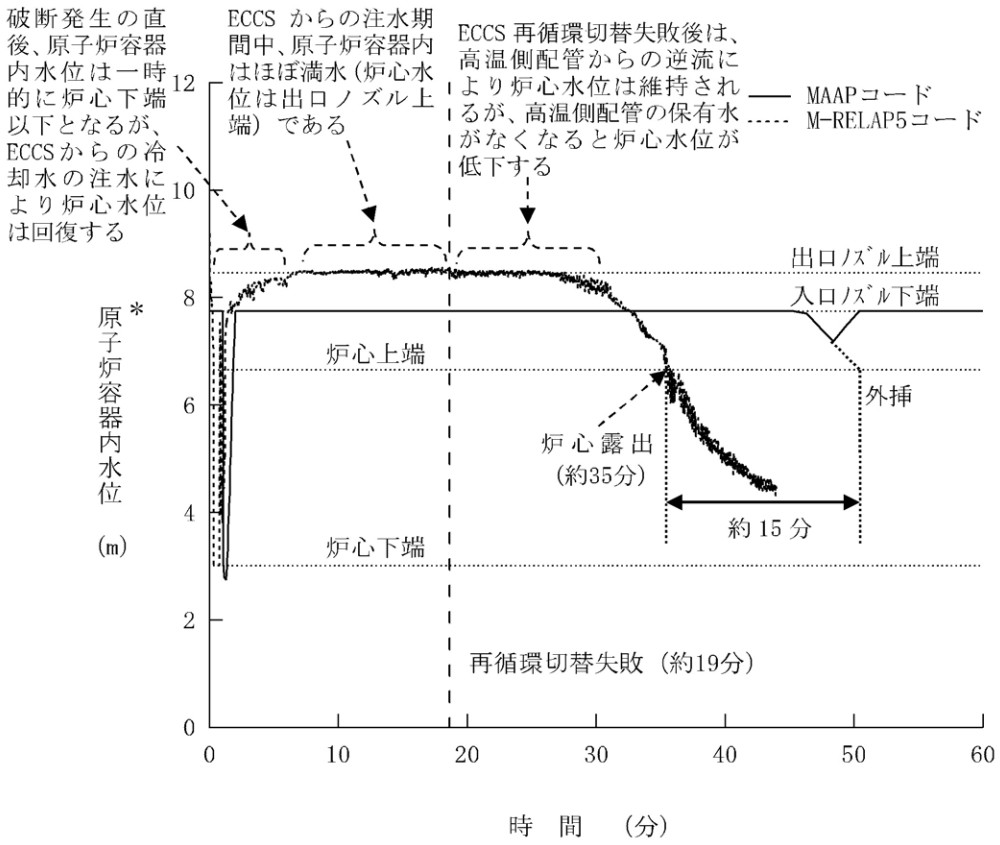
第 7.1.7.13 図　格納容器再循環サンプ水温度の推移



第 7.1.7.14 図　原子炉格納容器圧力の推移

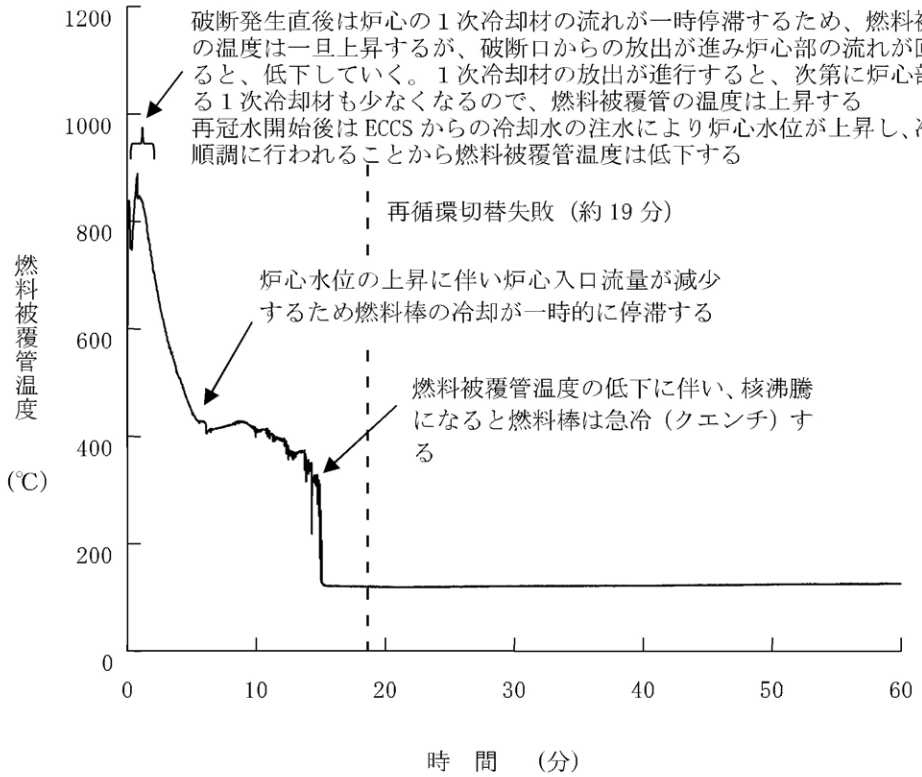


第 7.1.7.15 図　原子炉格納容器内温度の推移

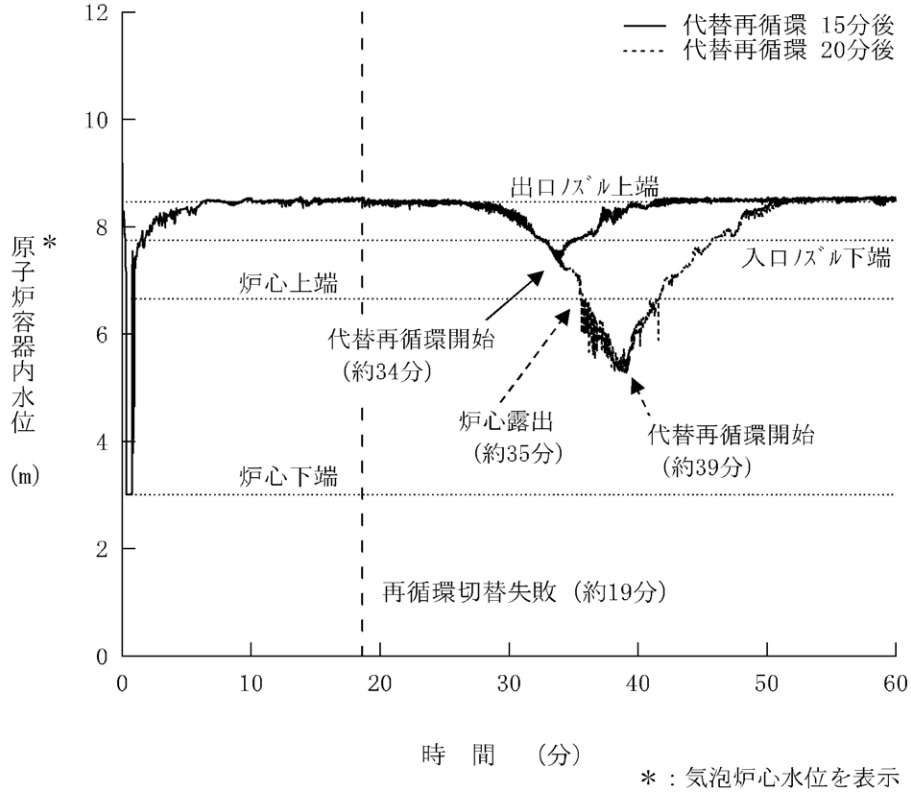


＊：MAAP コードによる原子炉容器内水位は入口ノズル下端を上限とした気泡炉心水位を表示

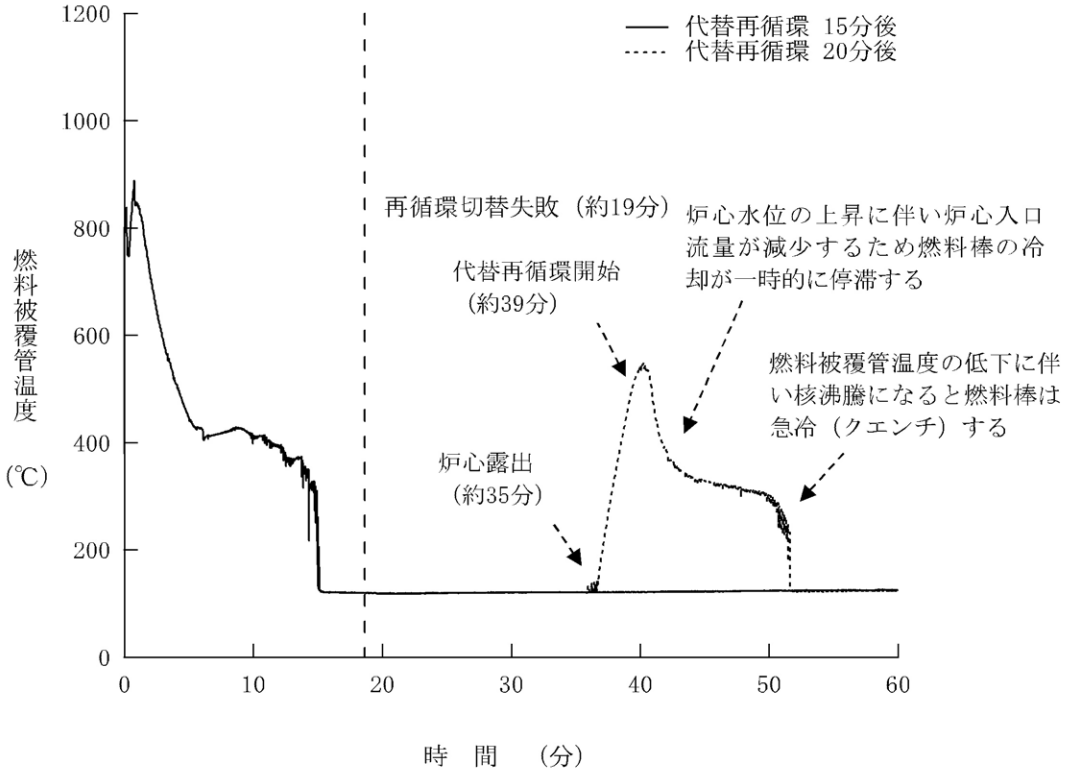
第 7.1.7.16 図　原子炉容器内水位の推移（コード間比較）



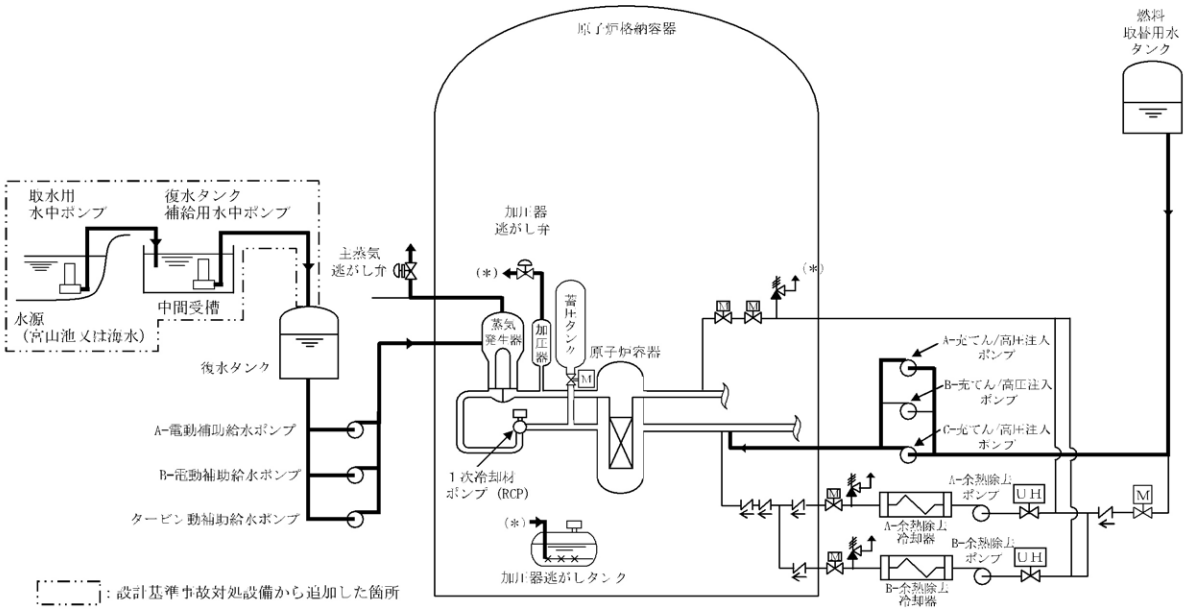
第 7.1.7.17 図　燃料被覆管温度の推移（M-RELAP5 コード）



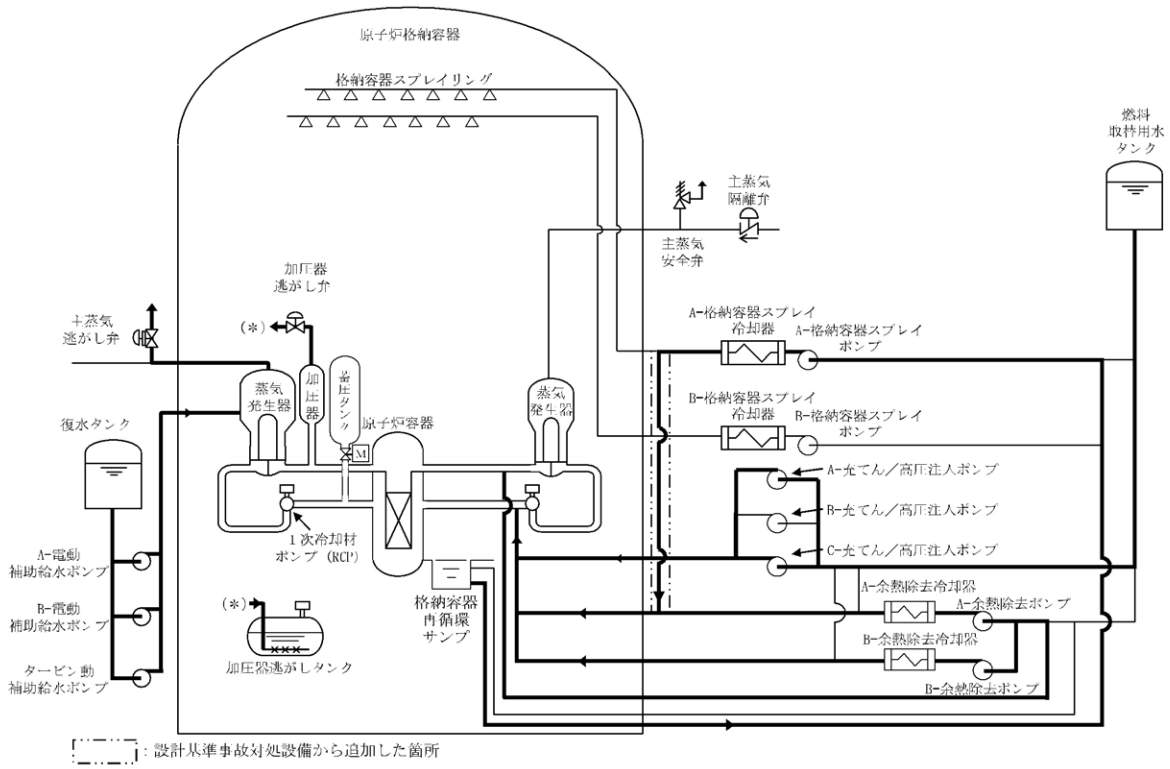
第 7.1.7.18 図　原子炉容器内水位の推移（代替再循環操作時間余裕確認）
(M-RELAP5 コード)



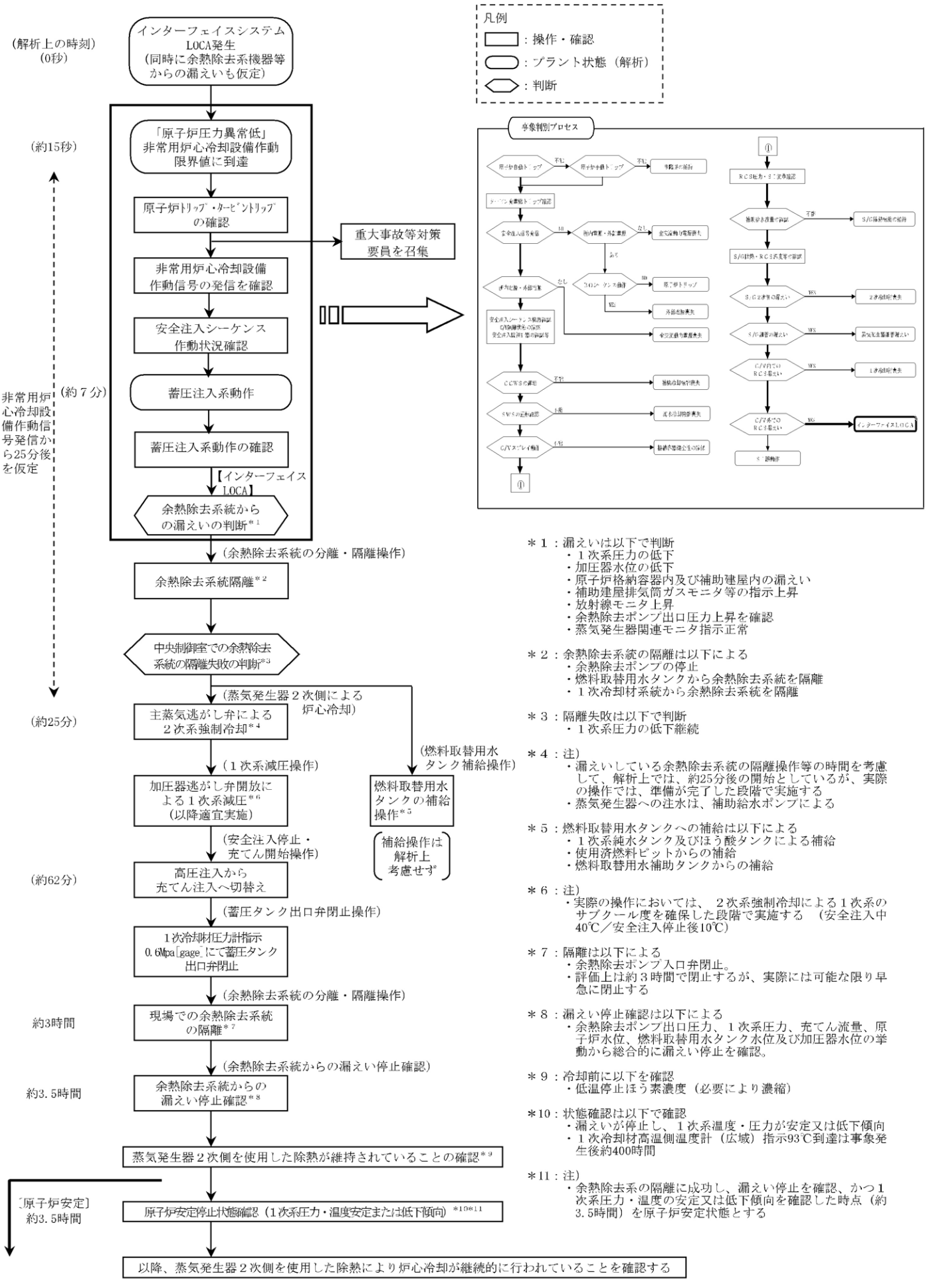
第 7.1.7.19 図　燃料被覆管温度の推移（代替再循環操作時間余裕確認）
(M-RELAP5 コード)



第 7.1.8.1 図　格納容器バイパス時の重大事故等対策の概略系統図
（インターフェイスシステムLOCA）



第 7.1.8.2 図　格納容器バイパス時の重大事故等対策の概略系統図
（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）



＊１：漏えいは以下で判断
・１次系圧力の低下
・加圧器水位の低下
・原子炉格納容器内及び補助建屋内の漏えい
・補助建屋排気筒ガスモニタ等の指示上昇
・放射線モニタ上昇
・余熱除去ポンプ出口圧力上昇を確認
・蒸気発生器関連モニタ指示正常

＊２：余熱除去系統の隔離は以下による
・余熱除去ポンプの停止
・燃料取替用水タンクから余熱除去系統を隔離
・１次冷却材系統から余熱除去系統を隔離

＊３：隔離失敗は以下で判断
・１次系圧力の低下継続

＊４：注）
・漏えいしている余熱除去系統の隔離操作等の時間を考慮して、解析上では、約25分後の開始としているが、実際の操作では、準備が完了した段階で実施する
・蒸気発生器への注水は、補助給水ポンプによる

＊５：燃料取替用水タンクへの補給は以下による
・１次系純水タンク及びほう酸タンクによる補給
・使用済燃料ピットからの補給
・燃料取替用水補助タンクからの補給

＊６：注）
・実際の操作においては、２次系強制冷却による１次系のサブクール度を確保した段階で実施する（安全注入中40℃／安全注入停止後10℃）

＊７：隔離は以下による
・余熱除去ポンプ入口弁閉止。
・評価上は約３時間で閉止するが、実際には可能な限り早急に閉止する

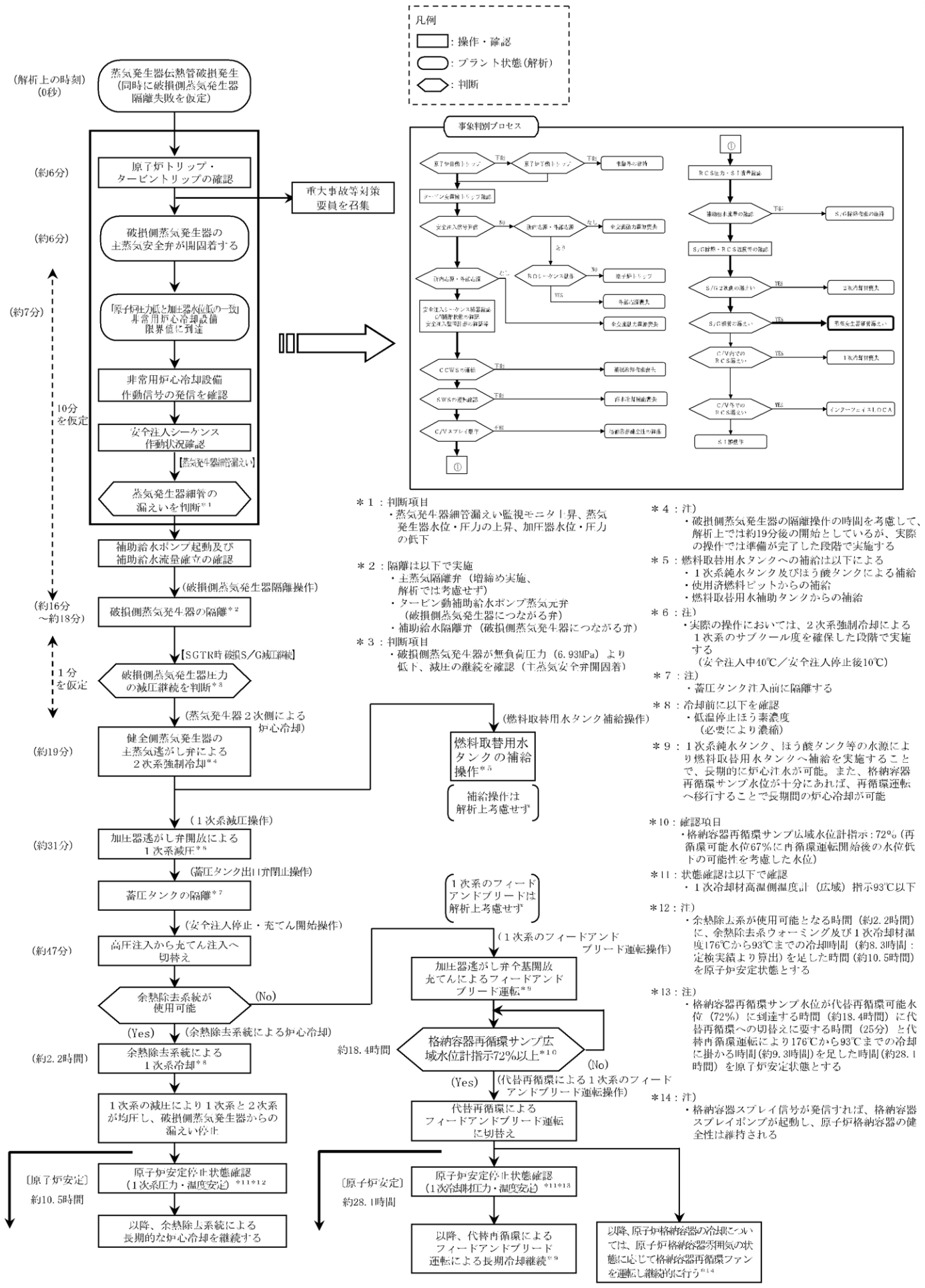
＊８：漏えい停止確認は以下による
・余熱除去ポンプ出口圧力、１次系圧力、充てん流量、原子炉水位、燃料取替用水タンク水位及び加圧器水位の挙動から総合的に漏えい停止を確認。

＊９：冷却前に以下を確認
・低温停止ほう素濃度（必要により濃縮）

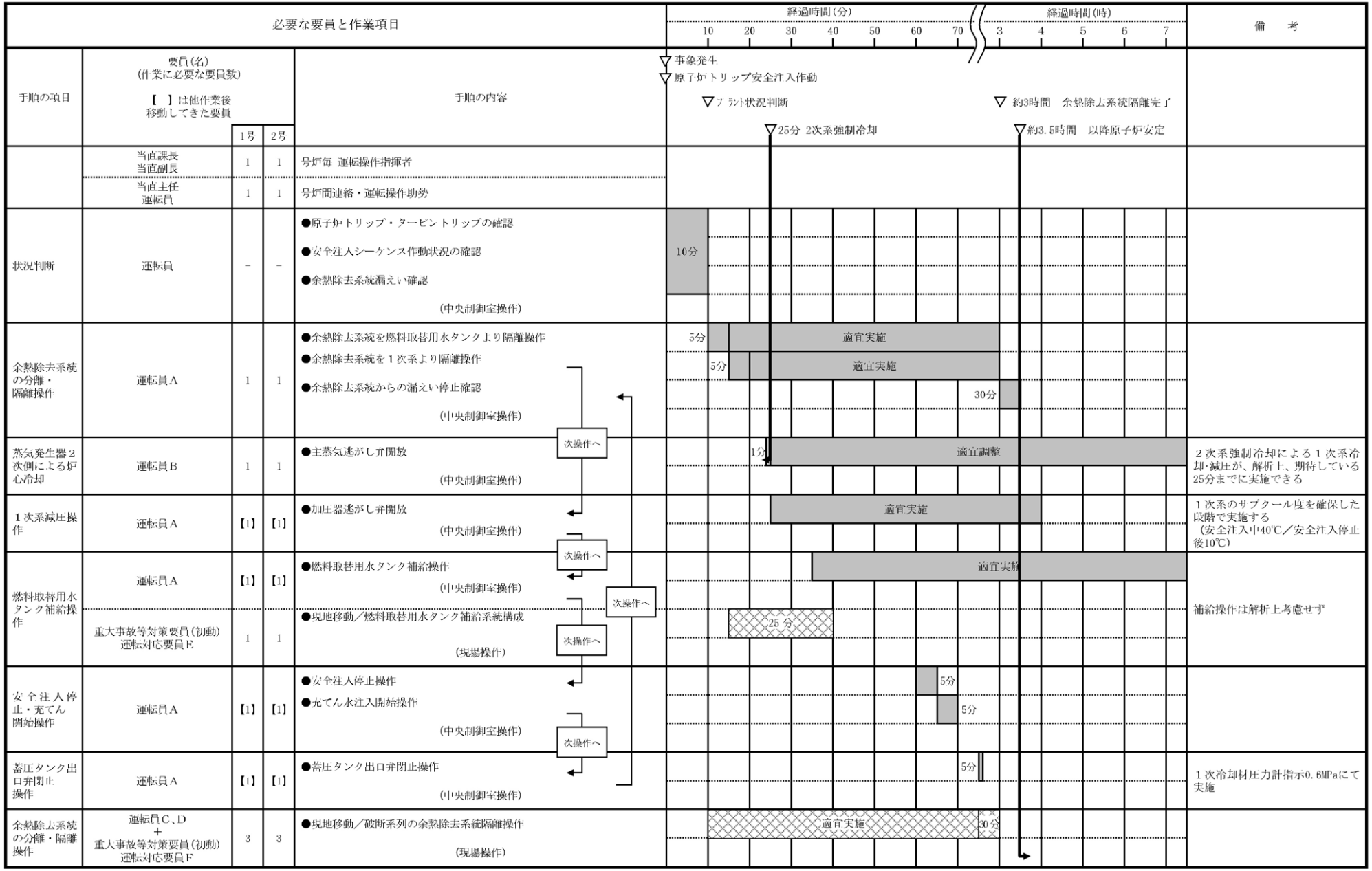
＊10：状態確認は以下で確認
・漏えいが停止し、１次系温度・圧力が安定又は低下傾向
・１次冷却材高温側温度計（広域）指示93℃到達は事象発生後約400時間

＊11：注）
・余熱除去系の隔離に成功し、漏えい停止を確認、かつ１次系圧力・温度の安定又は低下傾向を確認した時点（約3.5時間）を原子炉安定状態とする

第 7.1.8.3 図　事故シーケンスグループ「格納容器バイパス（インターフェイスシステム LOCA）」の対応手順の概要
（重要事故シーケンス「インターフェイスシステム LOCA」の事象進展）



第 7.1.8.4 図　事故シーケンスグループ「格納容器バイパス（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）」の対応手順の概要
（重要事故シーケンス「蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗」の事象進展）

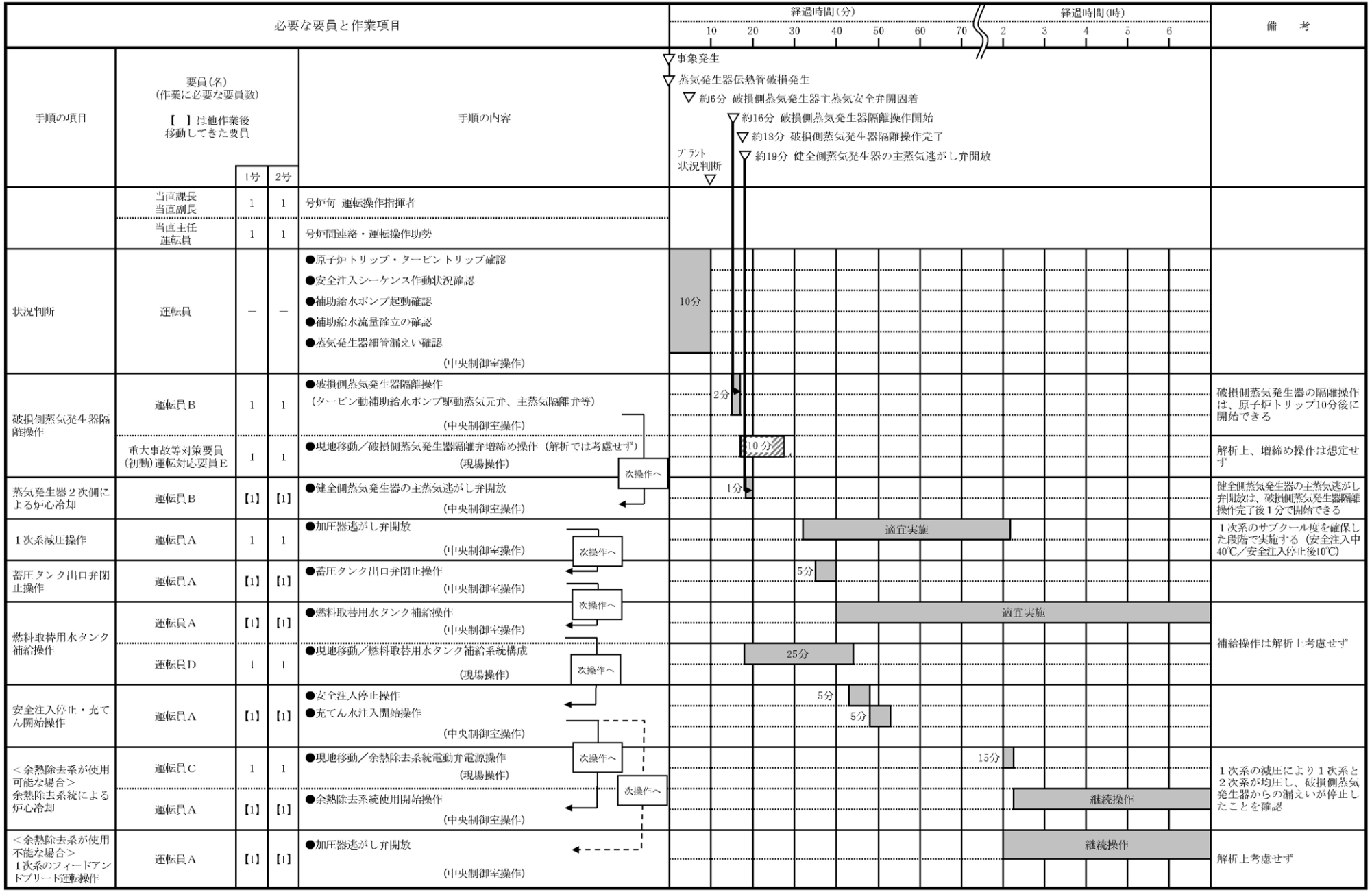


・各操作・作業の必要時間算定については、実際の現場移動時間又は作業時間を確認した上で算出している
　(　部、未配備の機器については想定時間により算出)
・緊急時対策本部要員は4名であり、全体指揮、通報連絡等を行う

汚染防護服（タイベック・ゴム手袋等）、全面マスク、ポケット線量計等着用

放射線防護具着用なし

第7.1.8.5図　格納容器バイパス時（インターフェイスシステムLOCA）の作業と所要時間



・各操作・作業の必要時間算定については、実際の現場移動時間又は作業時間を確認した上で算出している（一部、未配備の機器については想定時間により算出）
・緊急時対策本部要員は4名であり、全体指揮、通報連絡等を行う

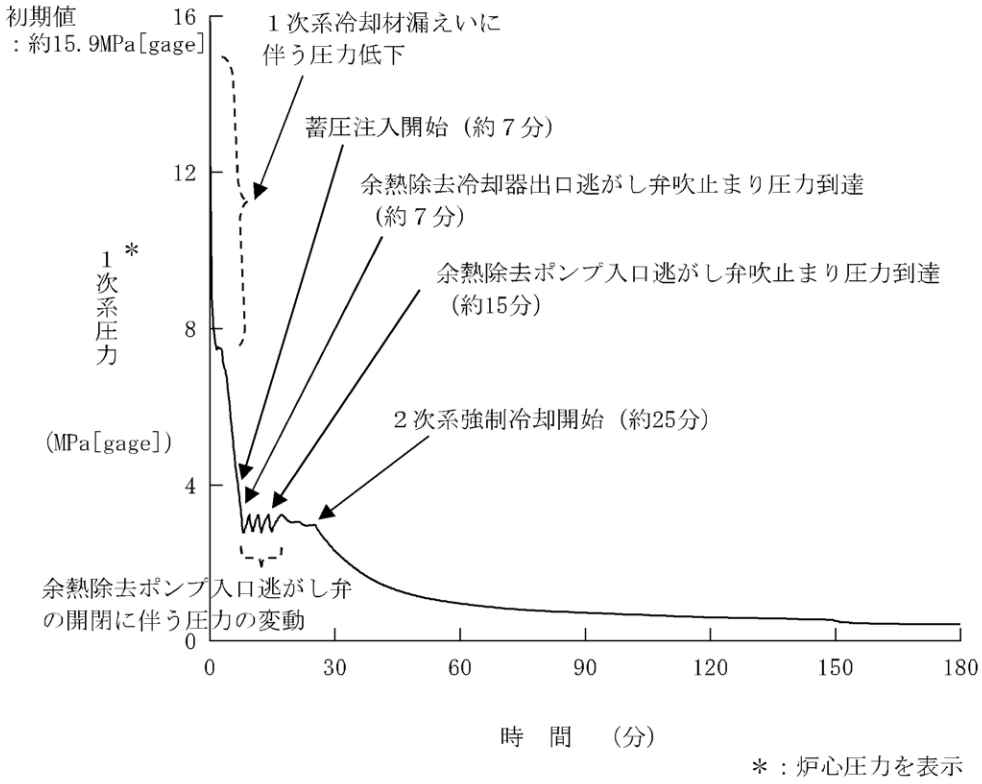
全面マスク、ポケット線量計着用
放射線防護具着用なし

第 7.1.8.6 図　格納容器バイパス時（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）の作業と所要時間（1／2）

必要な要員と作業項目					経過時間(時間) 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26 28 30	備　考
手順の項目	要員(名) (作業に必要な要員数) 【　】は他作業後 移動してきた要員	1号	2号	手順の内容	＜余熱除去系が使用不能な場合＞ 約18.4時間　代替再循環による フィードアンドブリード運転へ切替え ＜余熱除去系が使用可能な場合＞ 約10.5時間　以降原子炉安定 ＜余熱除去系が使用不能な場合＞ 約28.1時間　以降原子炉安定	
燃料取替用水タンク補給操作	運転員Ａ	【1】	【1】	●燃料取替用水タンク補給操作 (中央制御室操作)	適宜実施	解析上考慮せず
＜余熱除去系が使用可能な場合＞ 余熱除去系統による炉心冷却	運転員Ａ	【1】	【1】	●余熱除去系統による冷却継続監視 (中央制御室操作)	継続監視	
＜余熱除去系が使用不能な場合＞ 代替再循環による１次系のフィードアンドブリード運転	運転員Ａ	【1】	【1】	●加圧器逃がし弁開放 (中央制御室操作)	継続操作	解析上考慮せず
＜余熱除去系が使用不能な場合＞ 代替再循環による１次系のフィードアンドブリード運転	運転員Ｃ	【1】	【1】	●現地移動／代替再循環ライン電動弁電源投入 (現地操作)	10分	格納容器再循環サンプ広域水位計指示が72%以上となれば実施
	運転員Ａ	【1】	【1】	●代替再循環切替操作 (中央制御室操作)	15分	解析上考慮せず

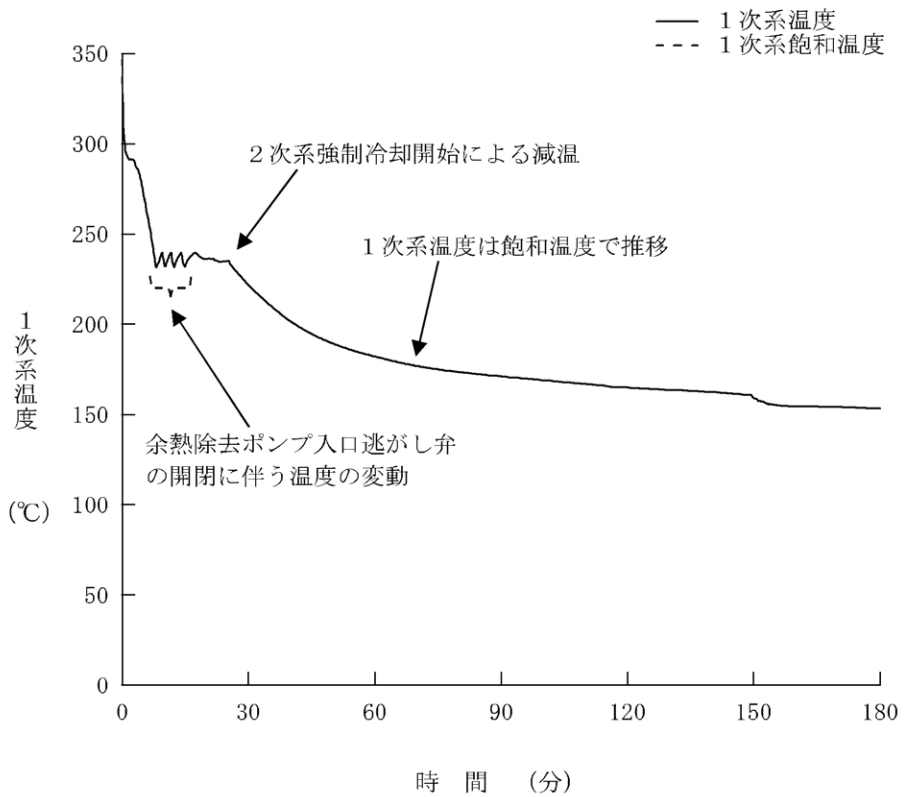
・各操作・作業の必要時間算定については、実際の現場移動時間又は作業時間を確認した上で算出している（一部、未配備の機器については想定時間により算出）
・緊急時対策本部要員は4名であり、全体指揮、通報連絡等を行う

第7.1.8.6図　格納容器バイパス時（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）の作業と所要時間（2／2）

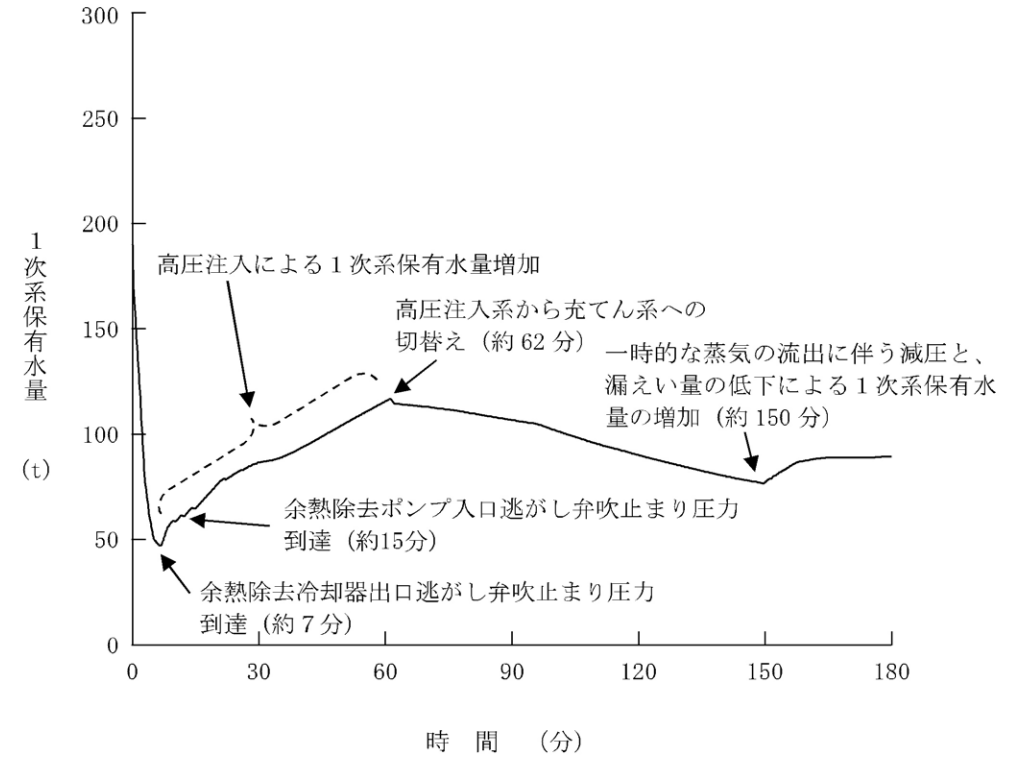


＊：炉心圧力を表示

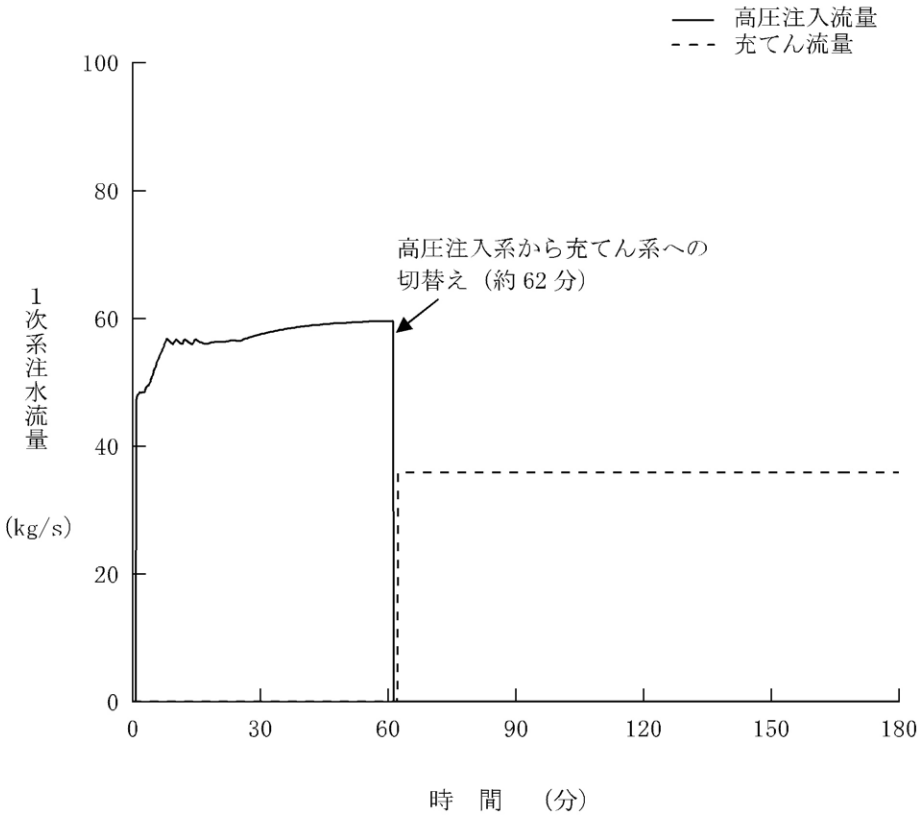
第 7.1.8.7 図　１次系圧力の推移（インターフェイスシステム LOCA）



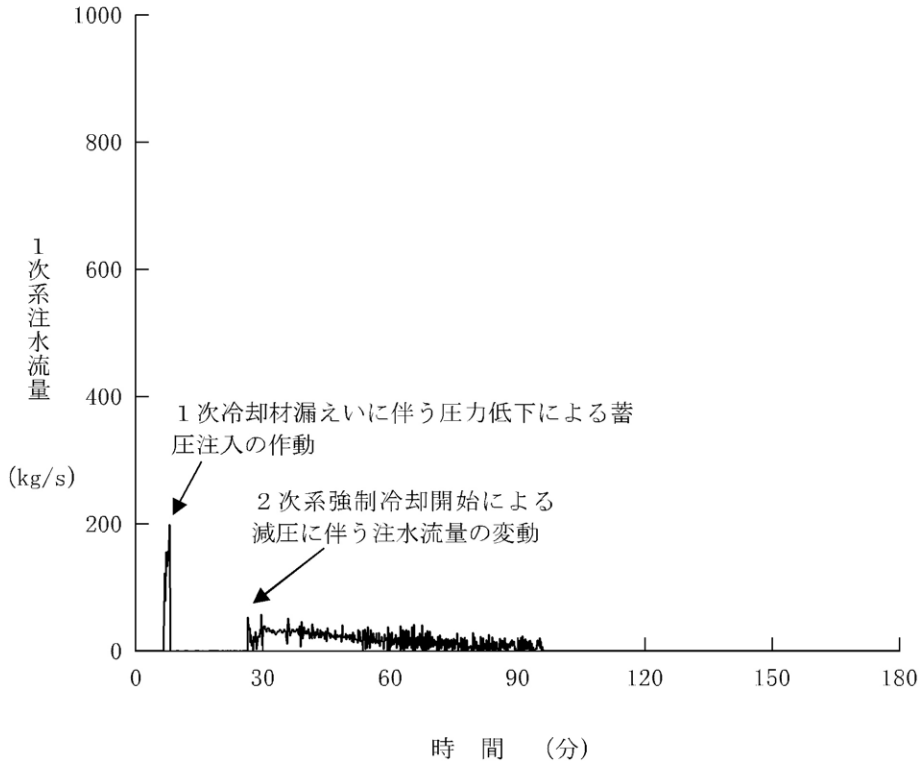
第 7.1.8.8 図　１次系温度の推移（インターフェイスシステム LOCA）



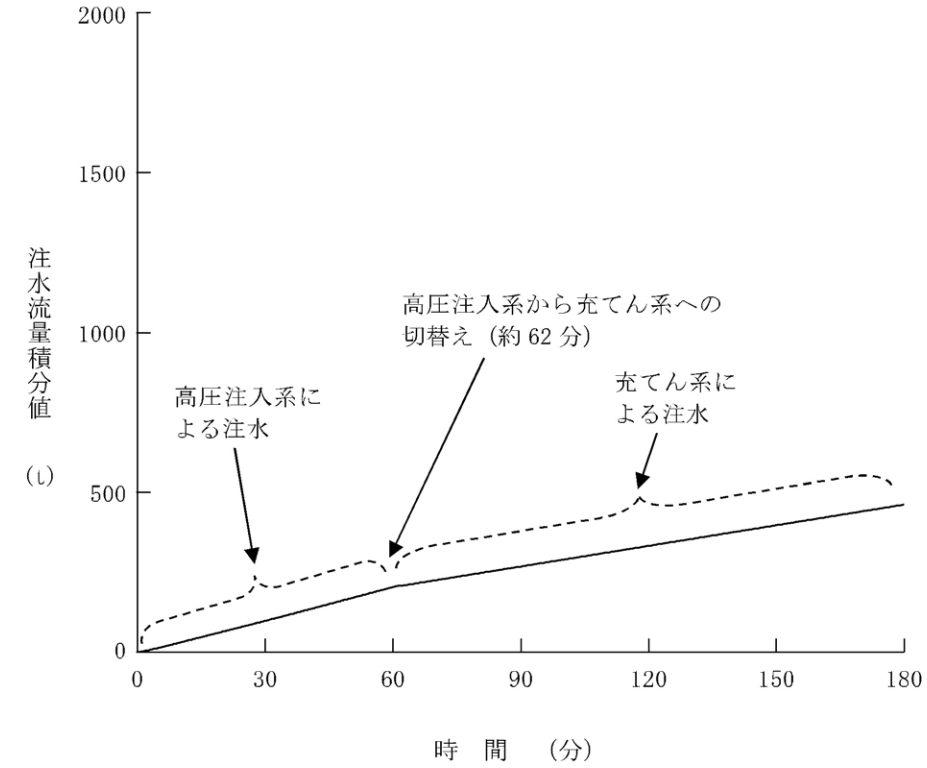
第7.1.8.9図　1次系保有水量の推移（インターフェイスシステムLOCA）



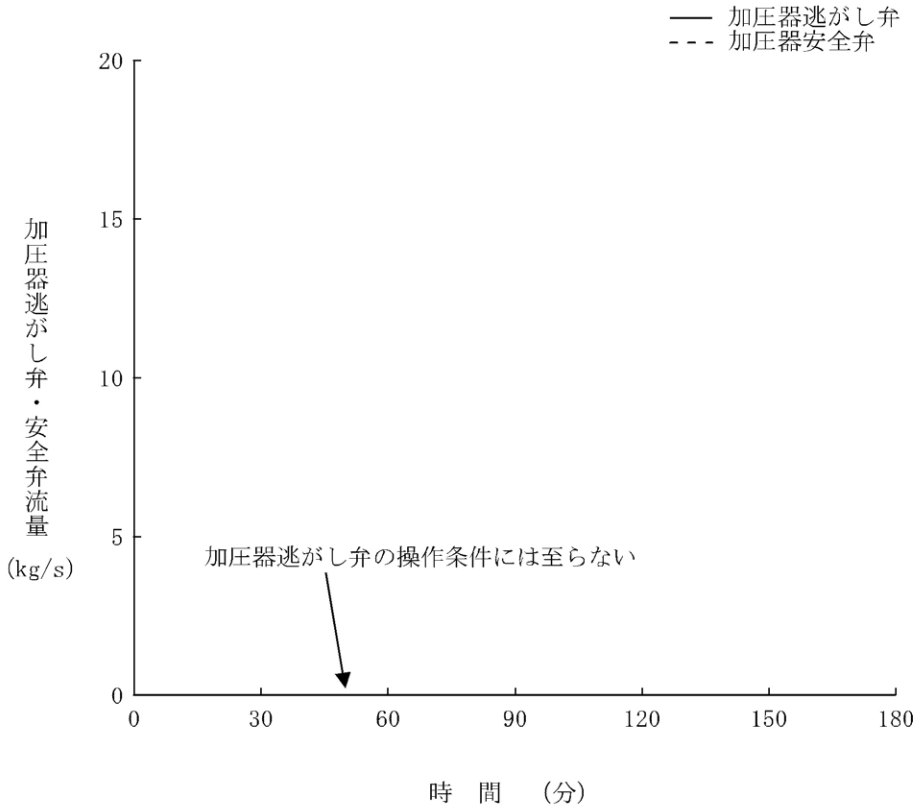
第7.1.8.10図　1次系注水流量（高圧及び充てん）の推移
（インターフェイスシステムLOCA）



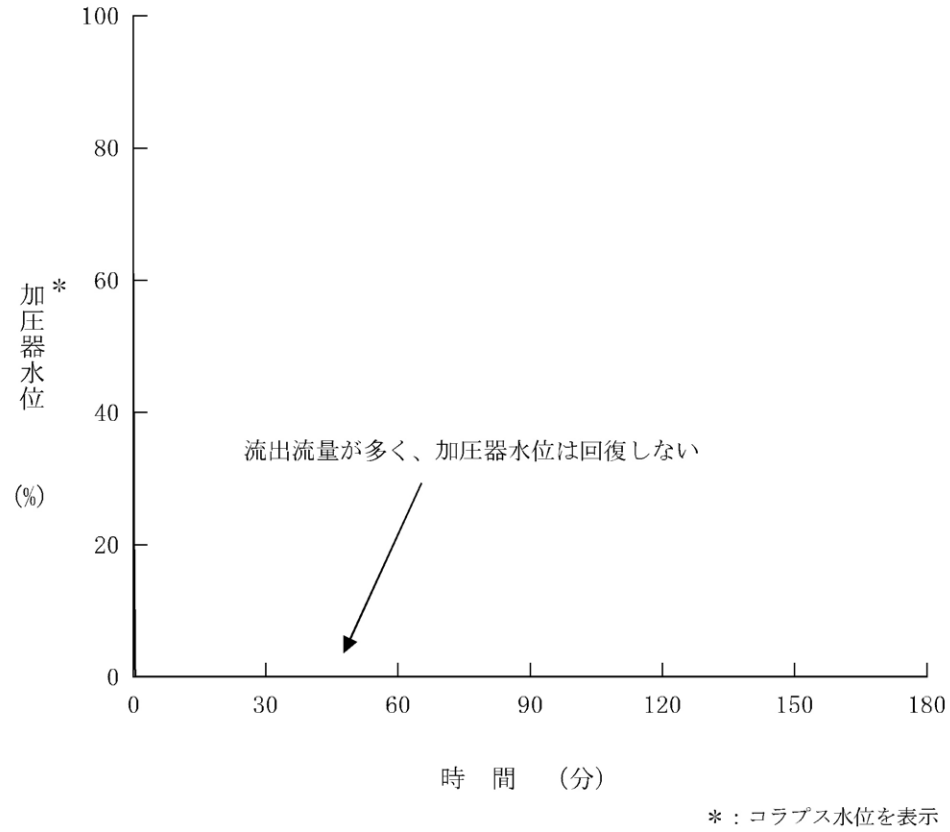
第 7.1.8.11 図　１次系注水流量（蓄圧注入）の推移
（インターフェイスシステムLOCA）



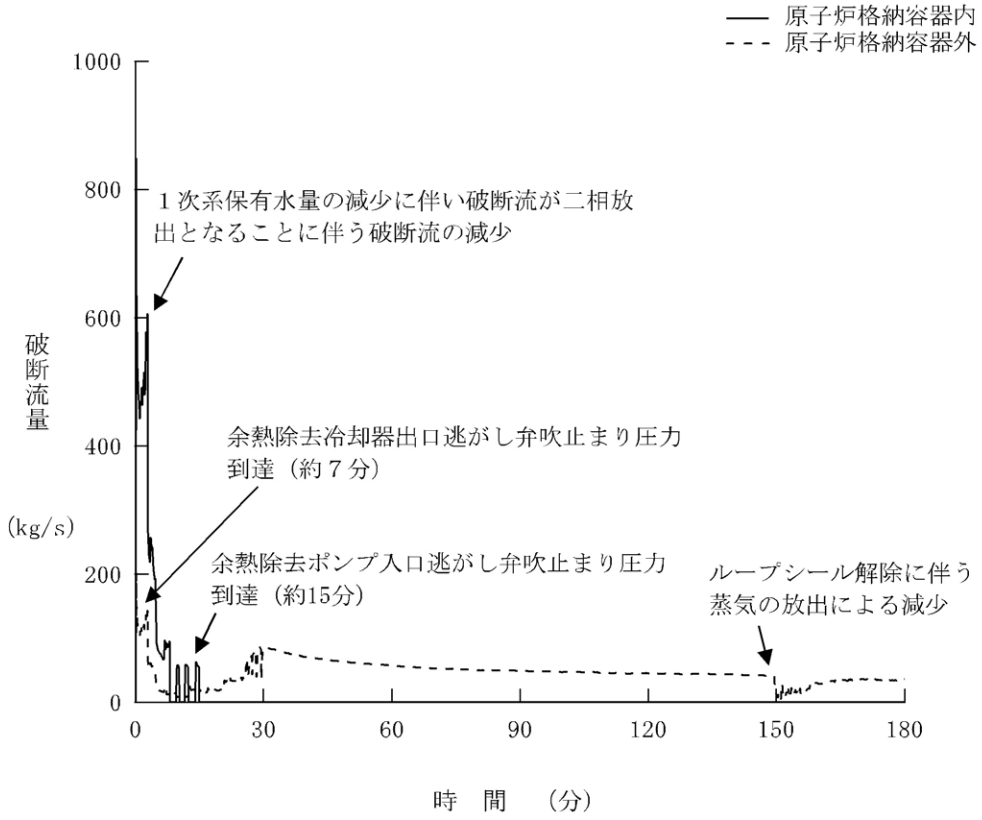
第 7.1.8.12 図　注水流量積分値の推移（インターフェイスシステム LOCA）



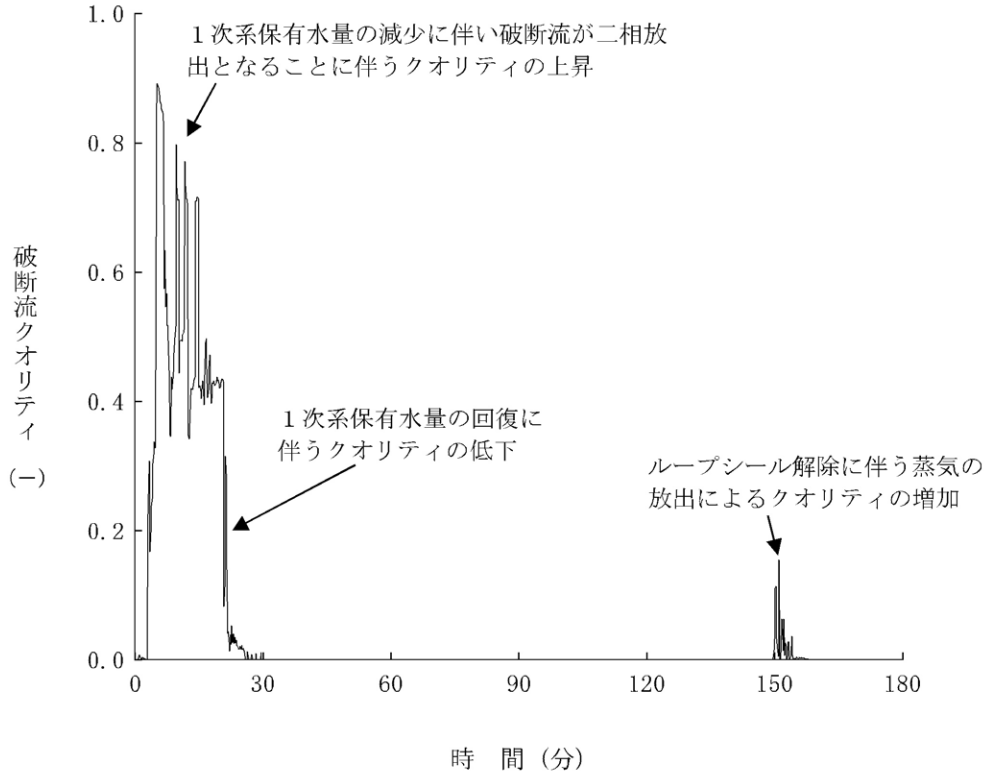
第 7.1.8.13 図　加圧器逃がし弁・安全弁流量の推移
（インターフェイスシステムLOCA）



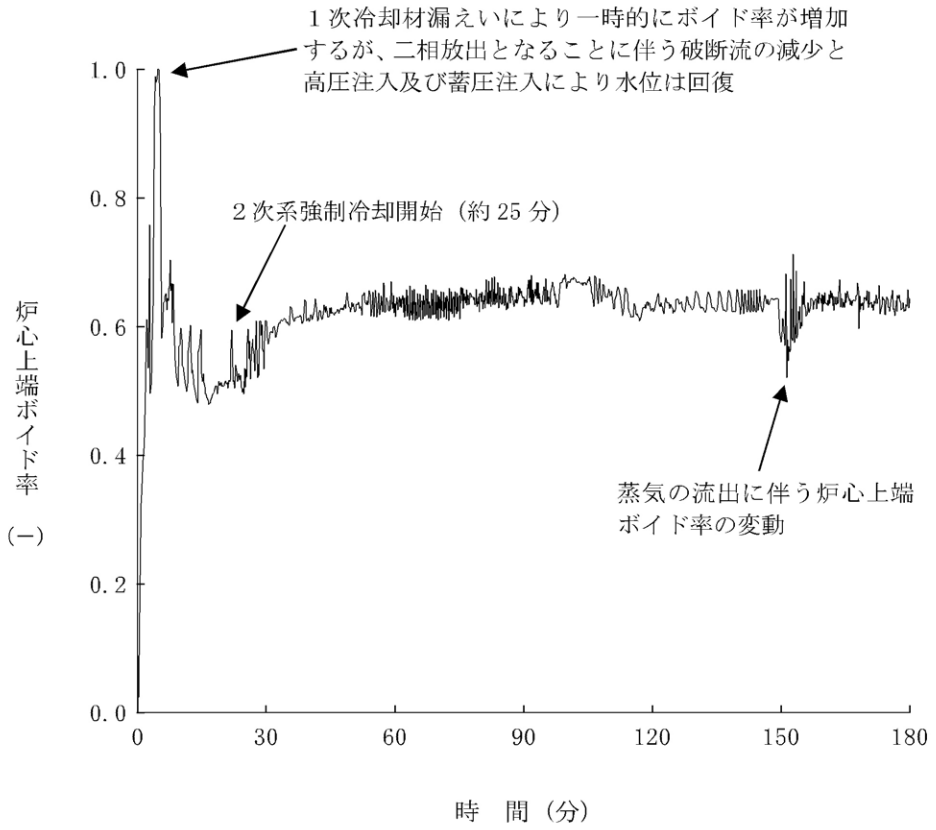
第 7.1.8.14 図　加圧器水位の推移（インターフェイスシステム LOCA）



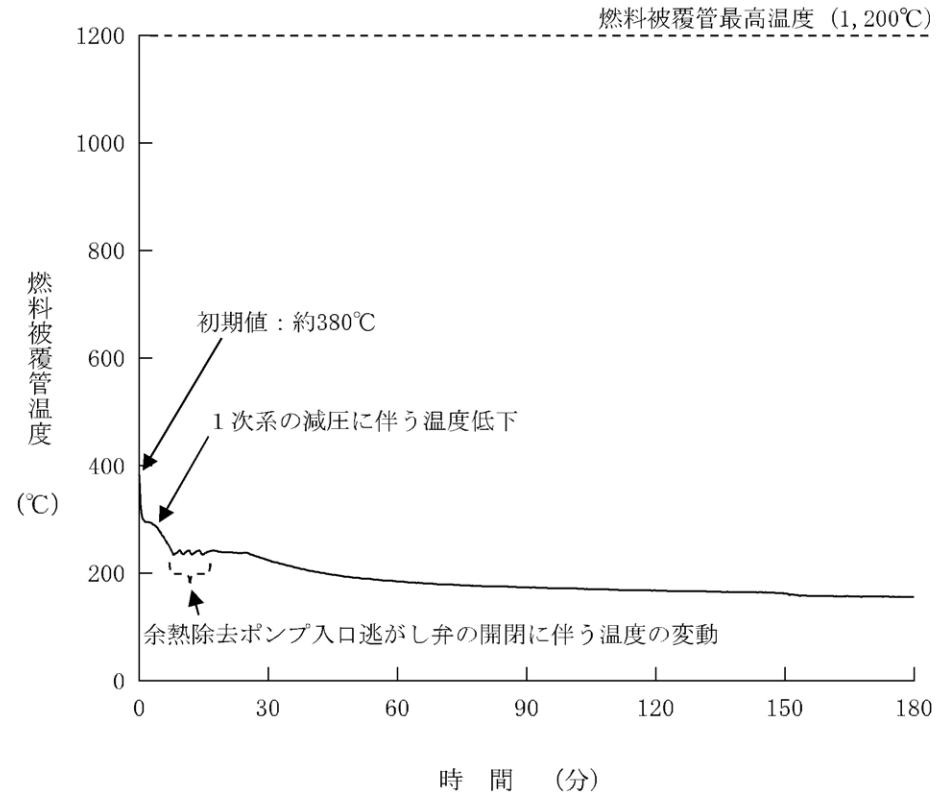
第 7.1.8.15 図　破断流量の推移（インターフェイスシステム LOCA）



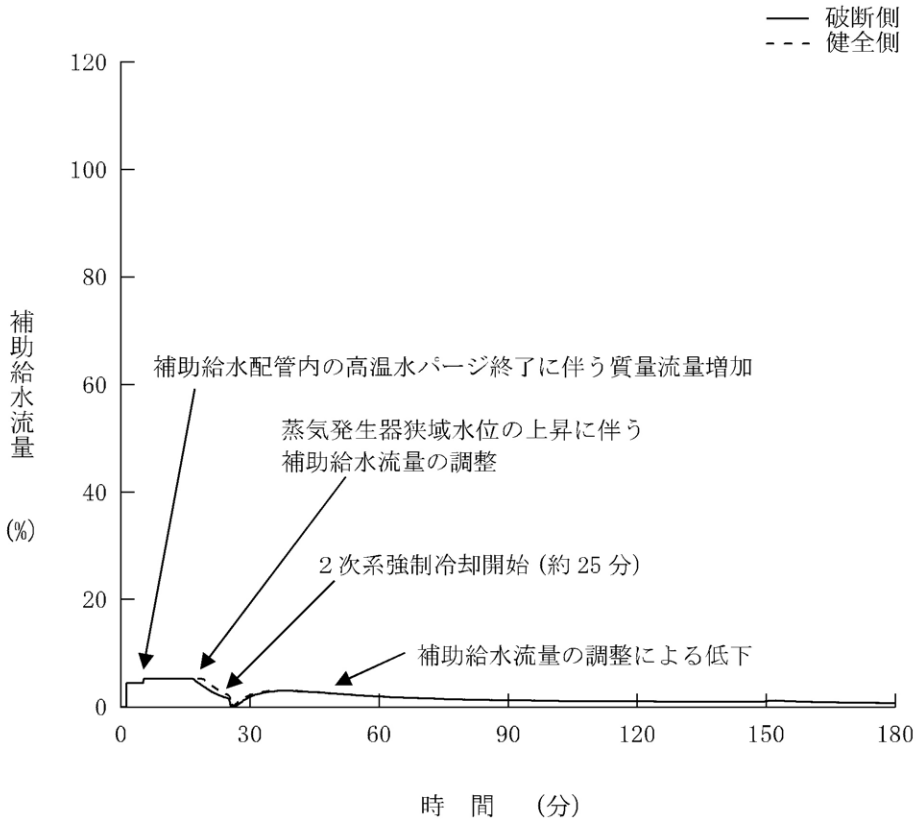
第 7.1.8.16 図　破断流クオリティの推移（インターフェイスシステム LOCA）



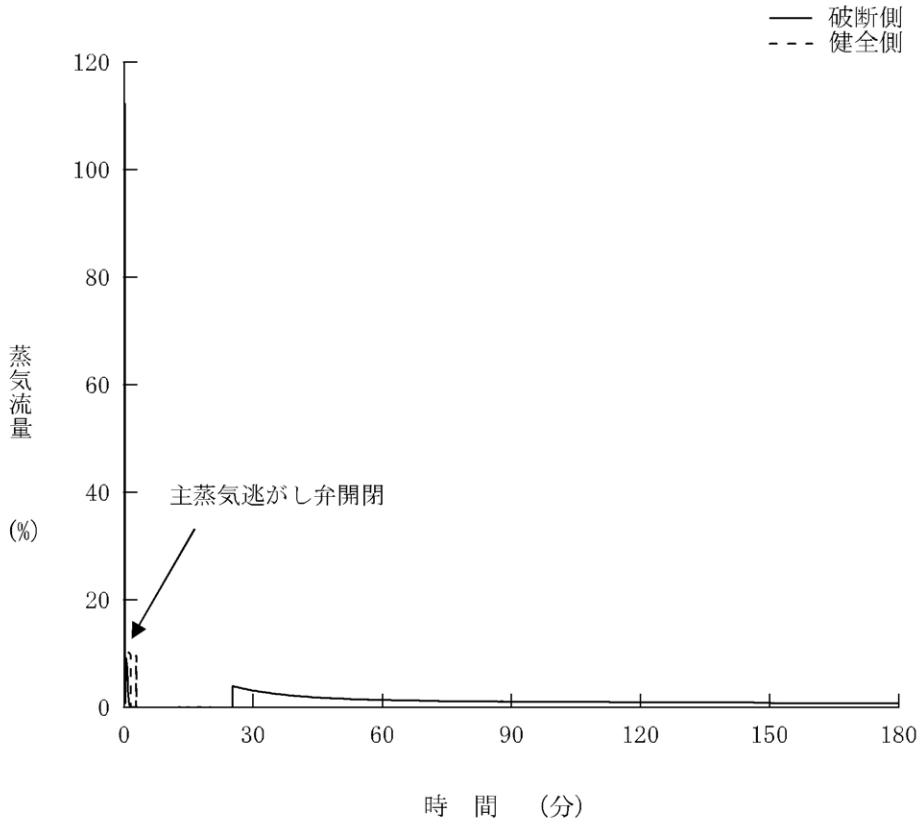
第7.1.8.17図　炉心上端ボイド率の推移（インターフェイスシステムLOCA）



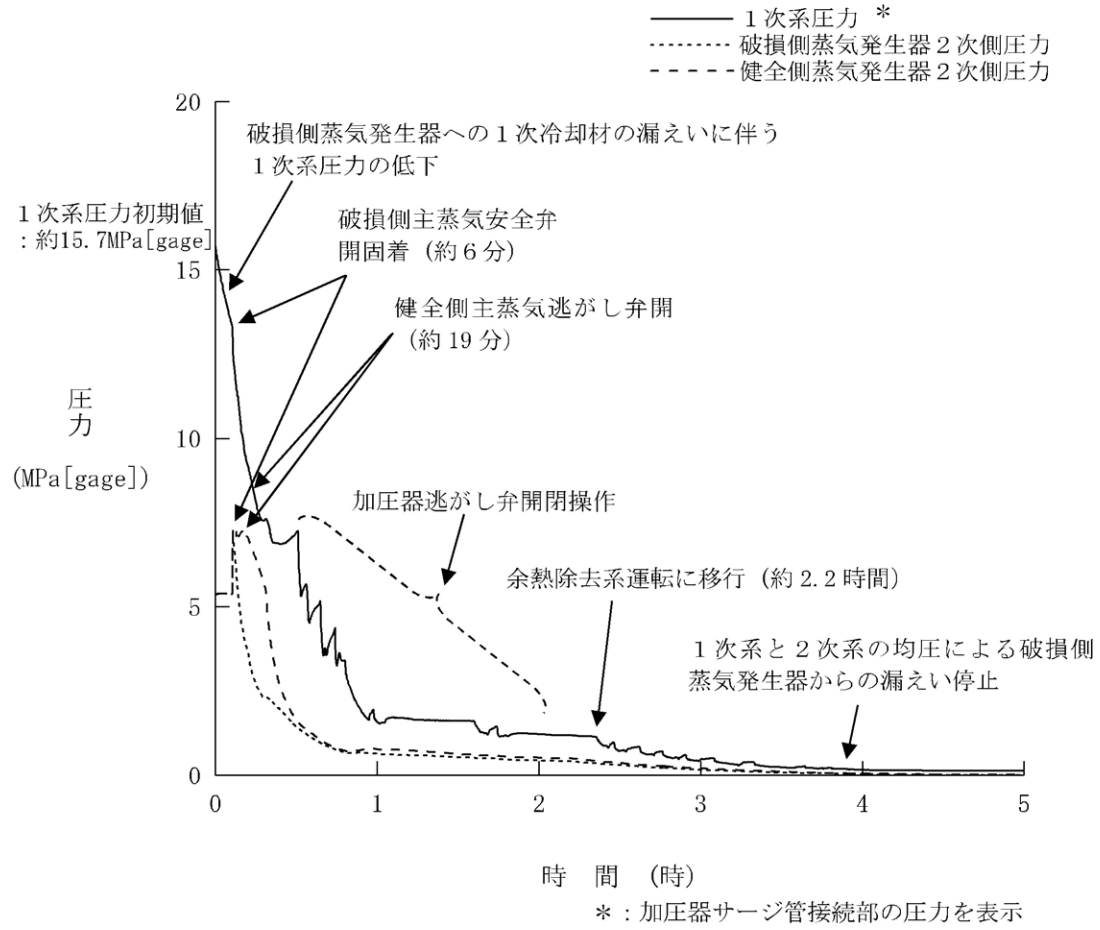
第7.1.8.18図　燃料被覆管温度の推移（インターフェイスシステムLOCA）



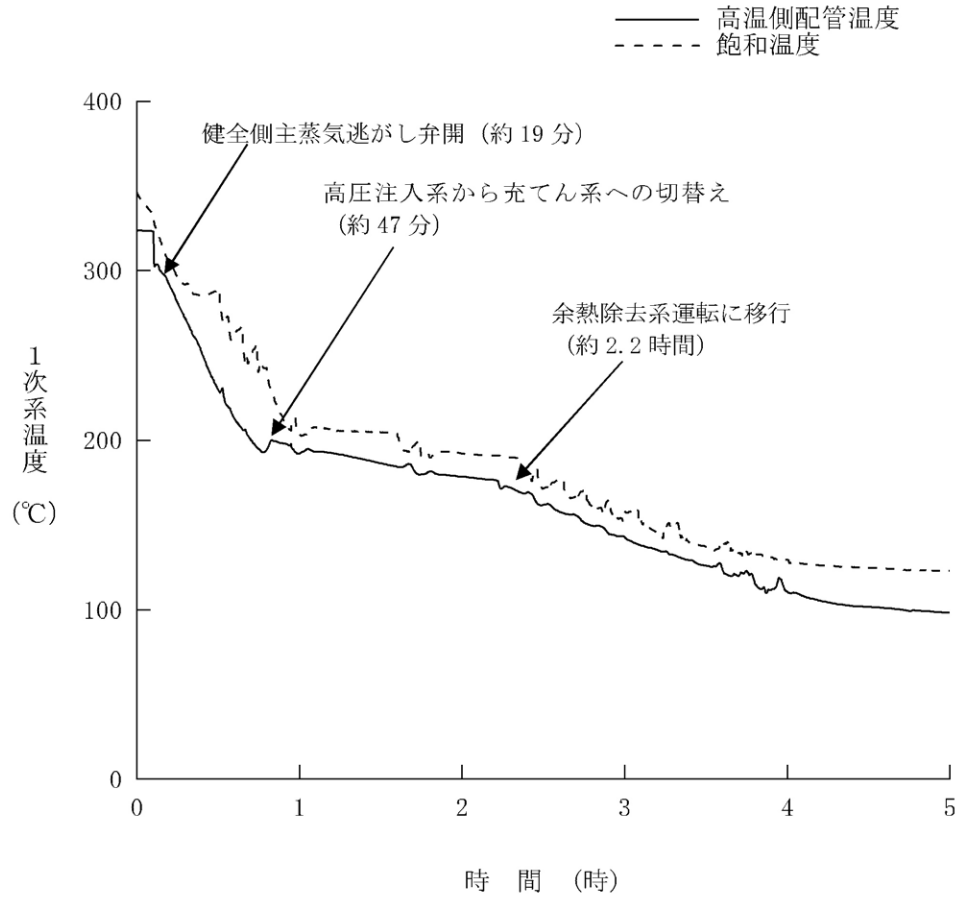
第 7.1.8.19 図　補助給水流量の推移（インターフェイスシステム LOCA）



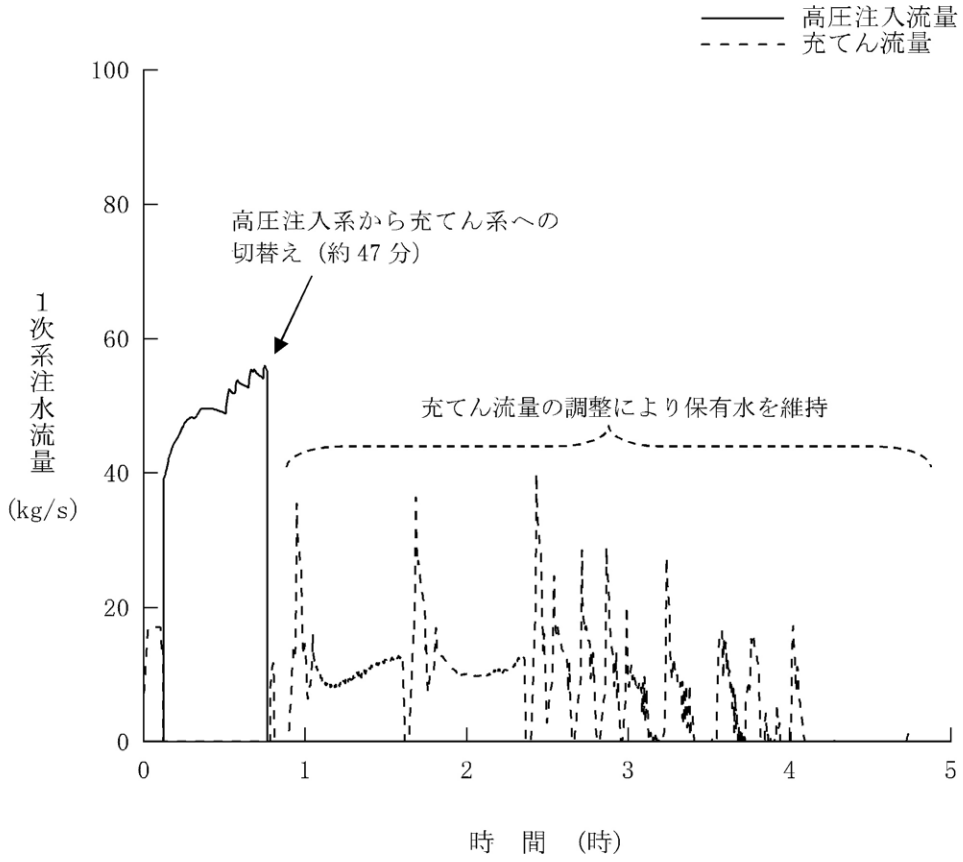
第 7.1.8.20 図　蒸気流量の推移（インターフェイスシステム LOCA）



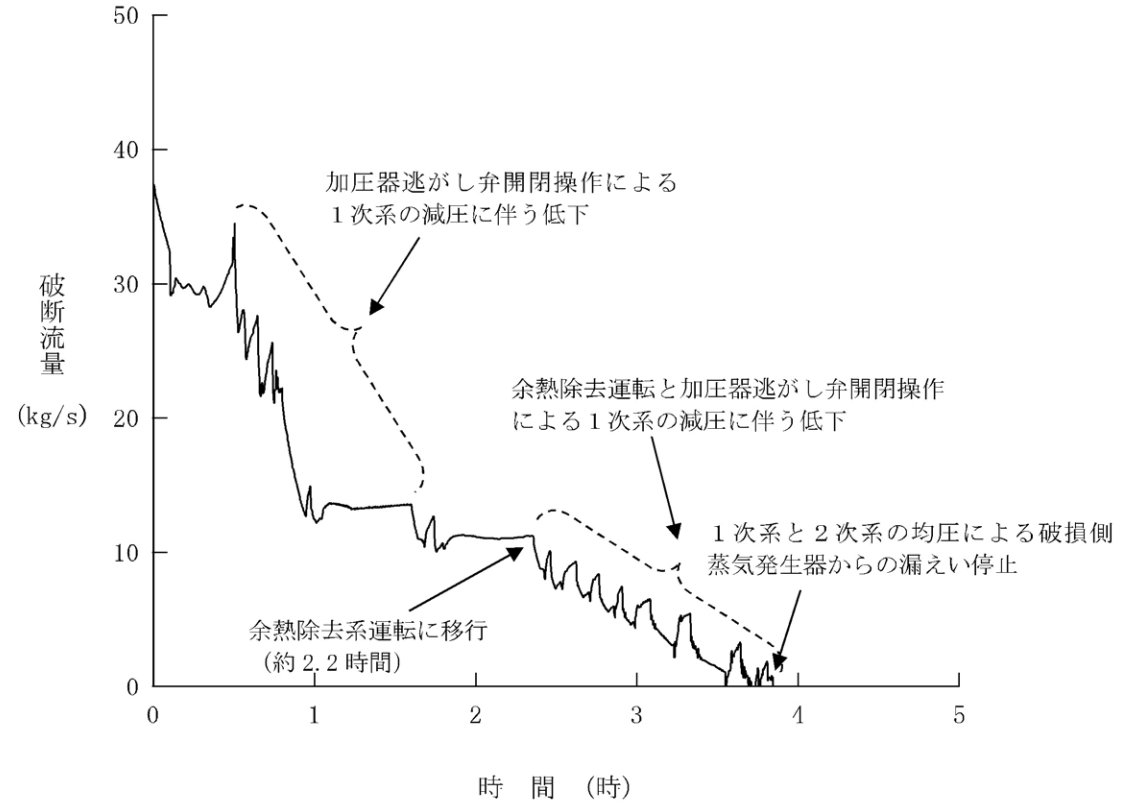
第 7.1.8.21 図　１、２次系圧力の推移（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）



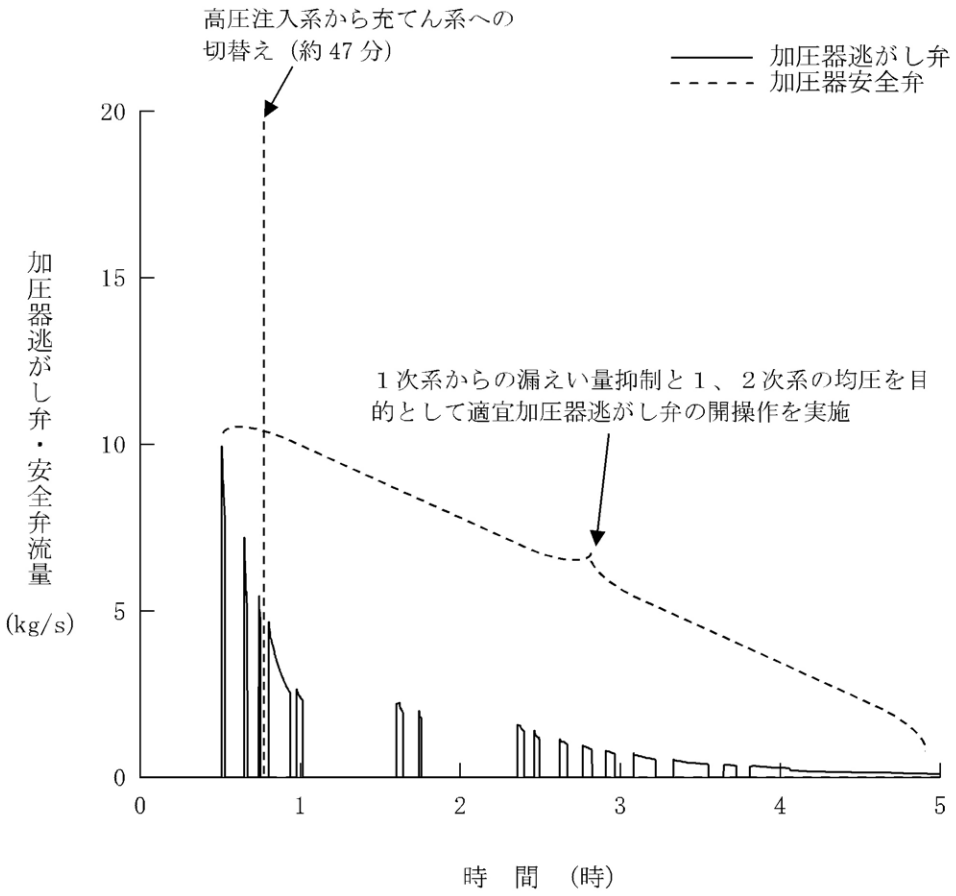
第 7.1.8.22 図　１次系温度の推移（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）



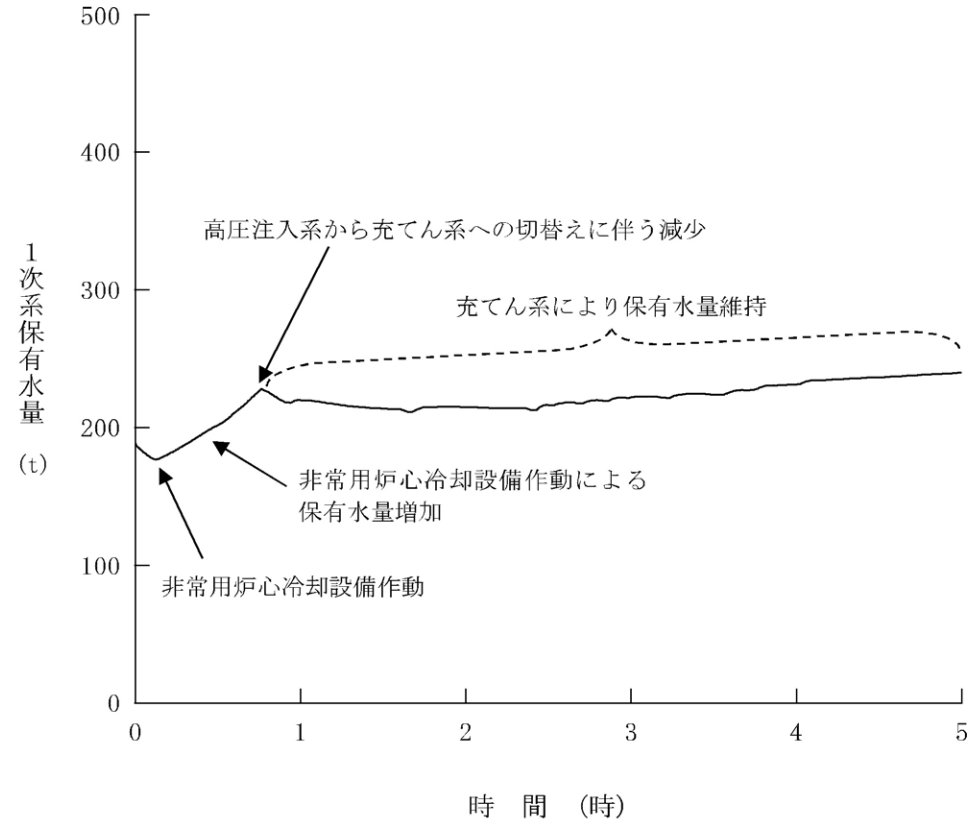
第 7.1.8.23 図　１次系注水流量の推移
（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）



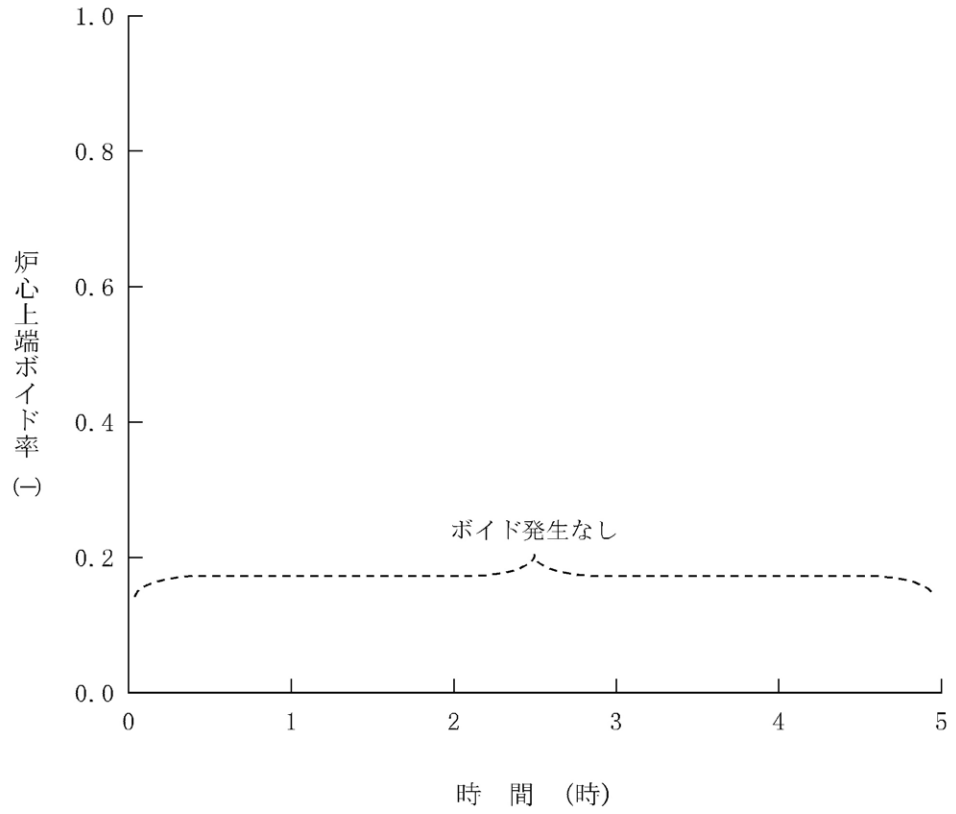
第 7.1.8.24 図　破断流量の推移
（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）



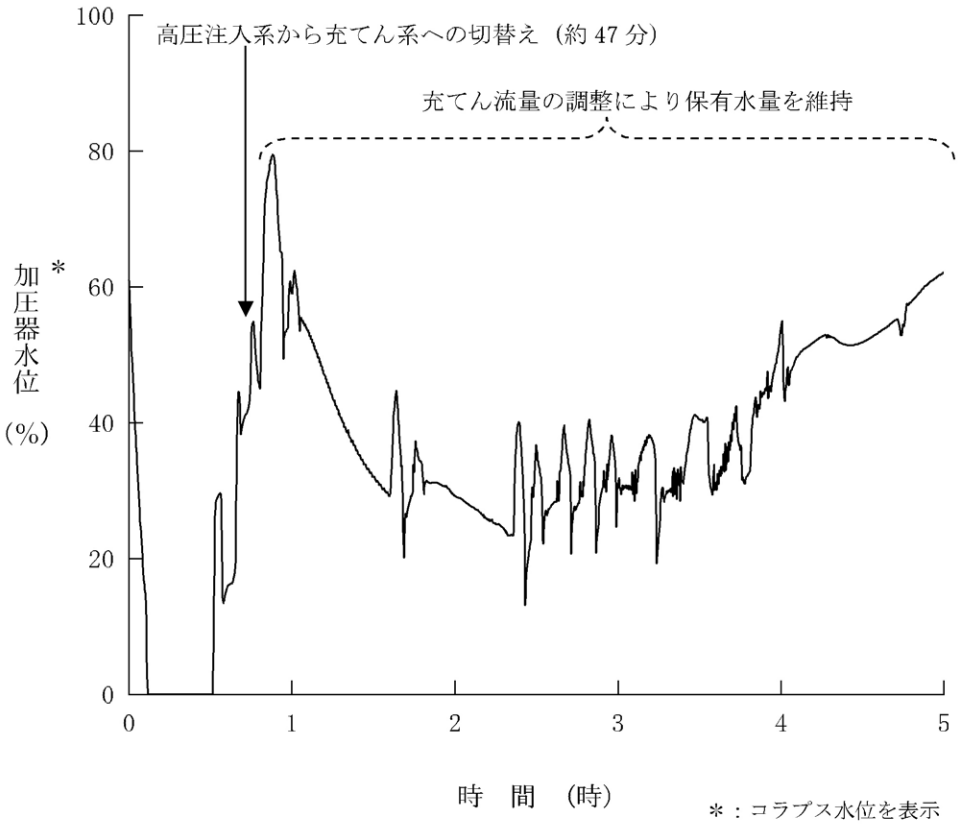
第 7.1.8.25 図　加圧器逃がし弁・安全弁流量の推移
（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）



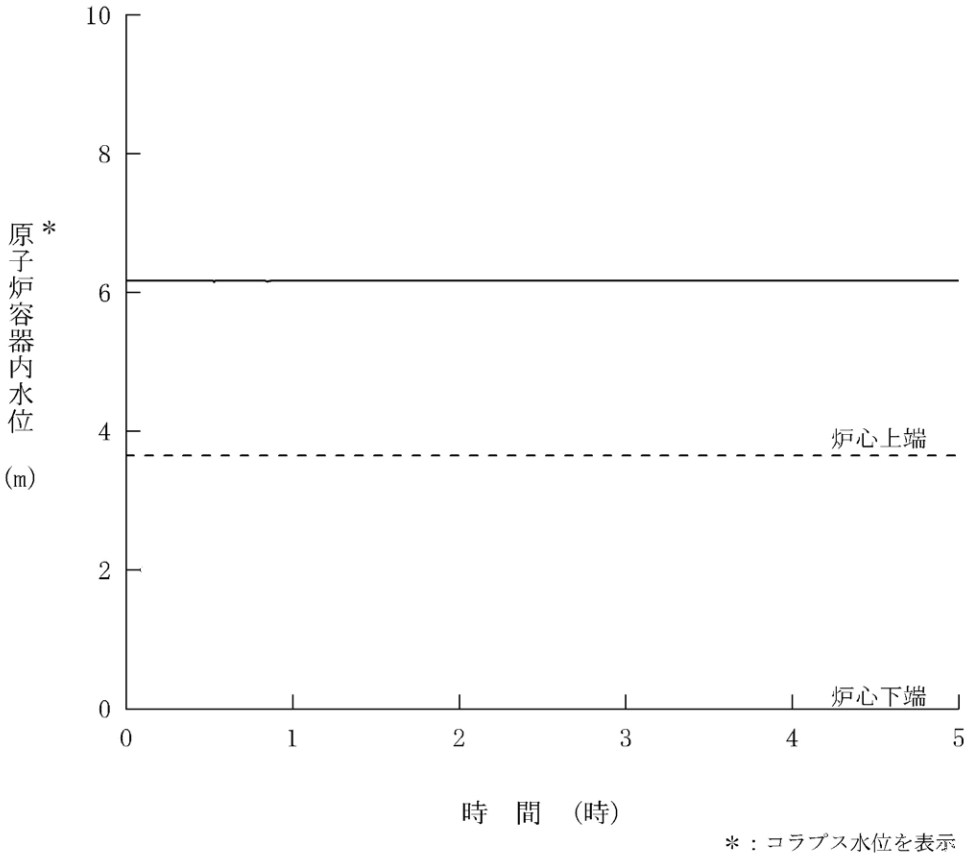
第 7.1.8.26 図　１次系保有水量の推移
（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）



第 7.1.8.27 図　炉心上端ボイド率の推移
（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）

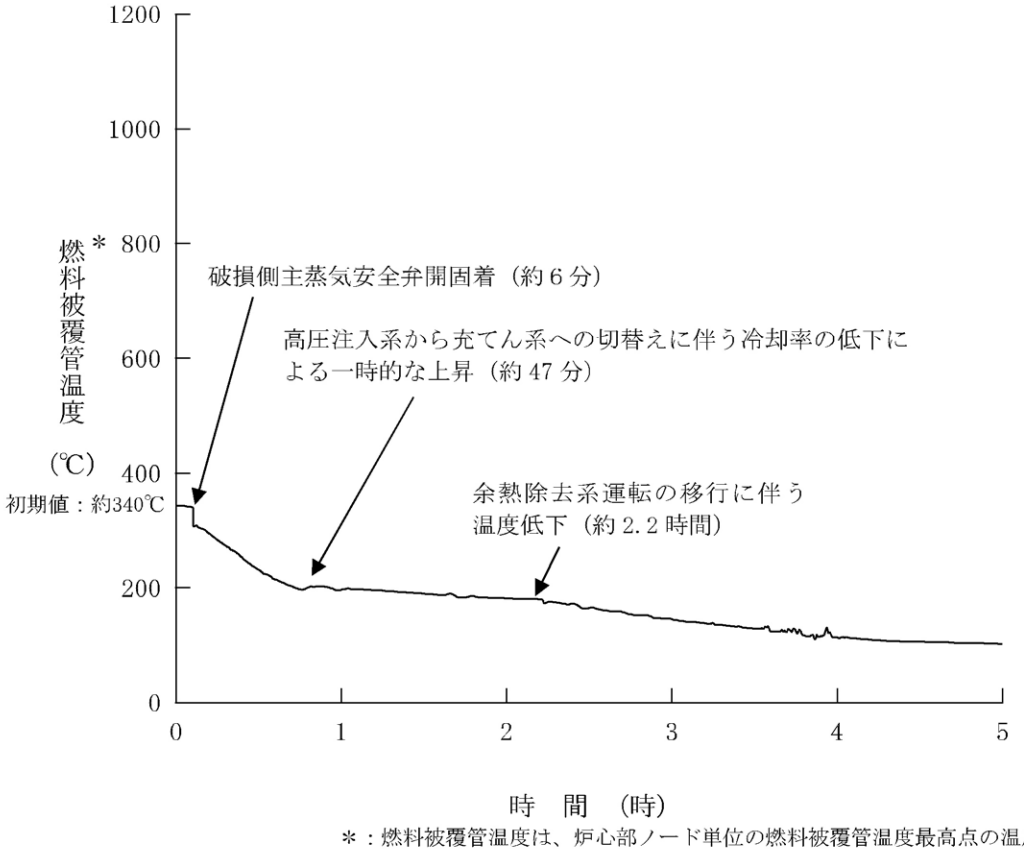


第 7.1.8.28 図　加圧器水位の推移
（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）



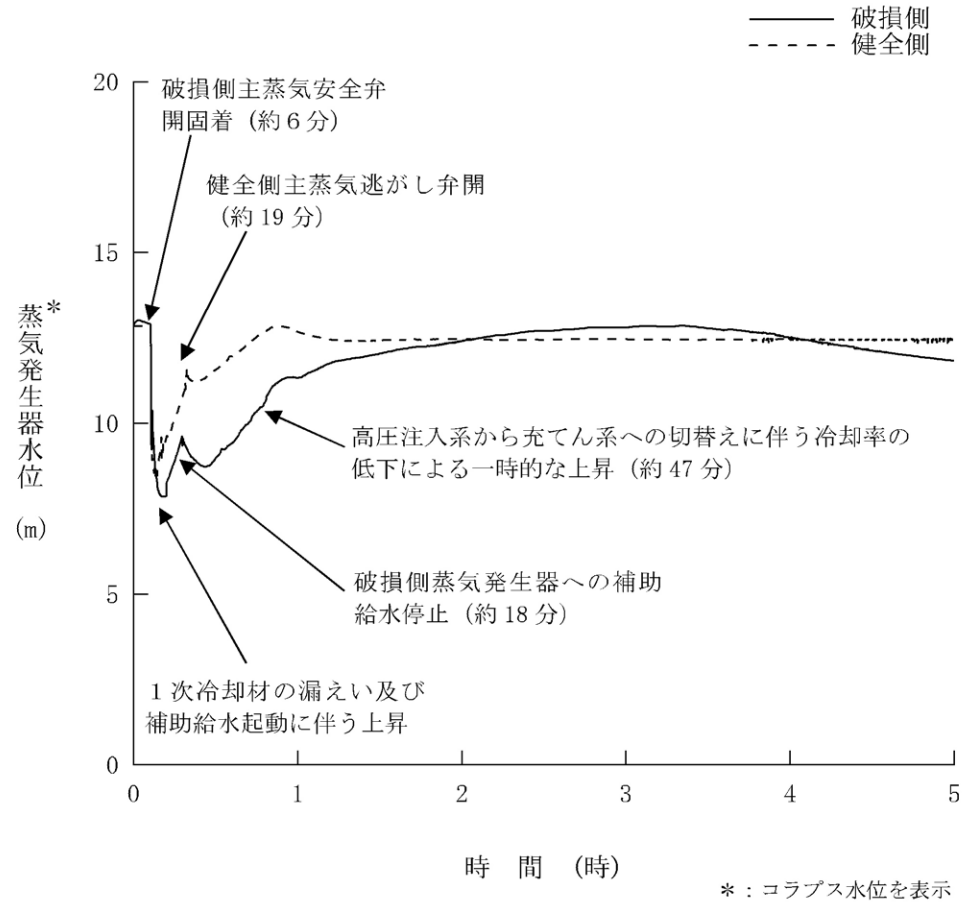
＊：コラプス水位を表示

第 7.1.8.29 図　原子炉容器内水位の推移
（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）

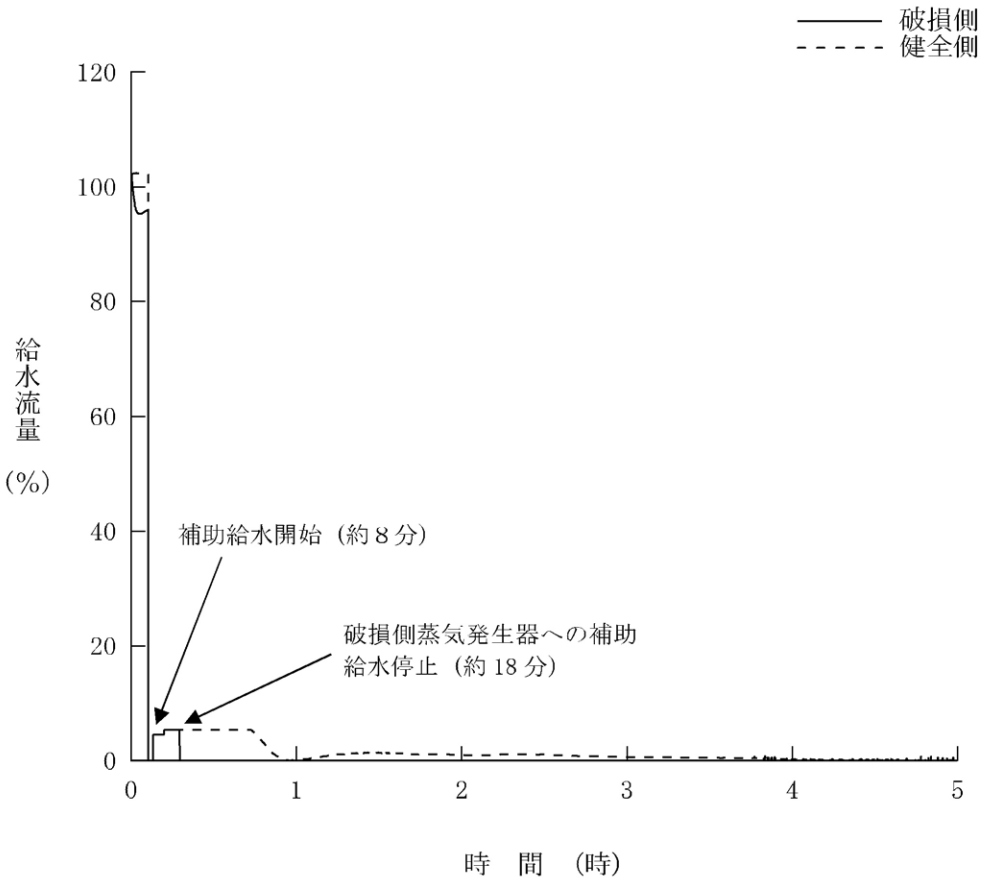


＊：燃料被覆管温度は、炉心部ノード単位の燃料被覆管温度最高点の温度を示す。

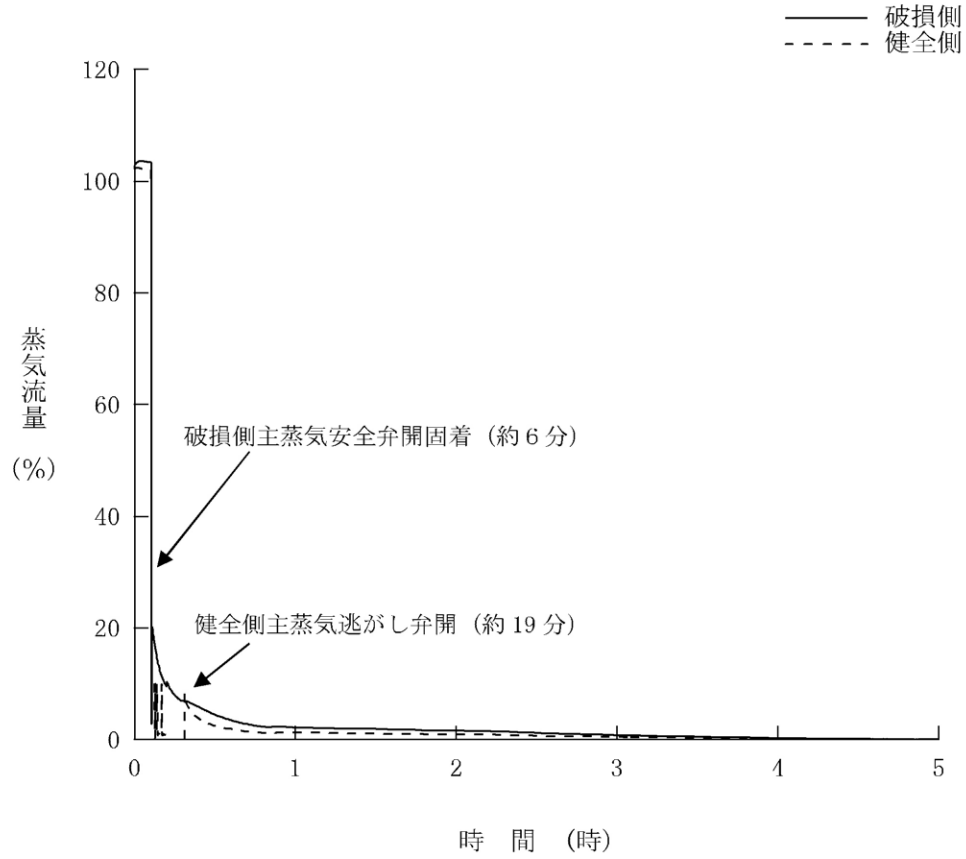
第 7.1.8.30 図　燃料被覆管温度の推移
（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）



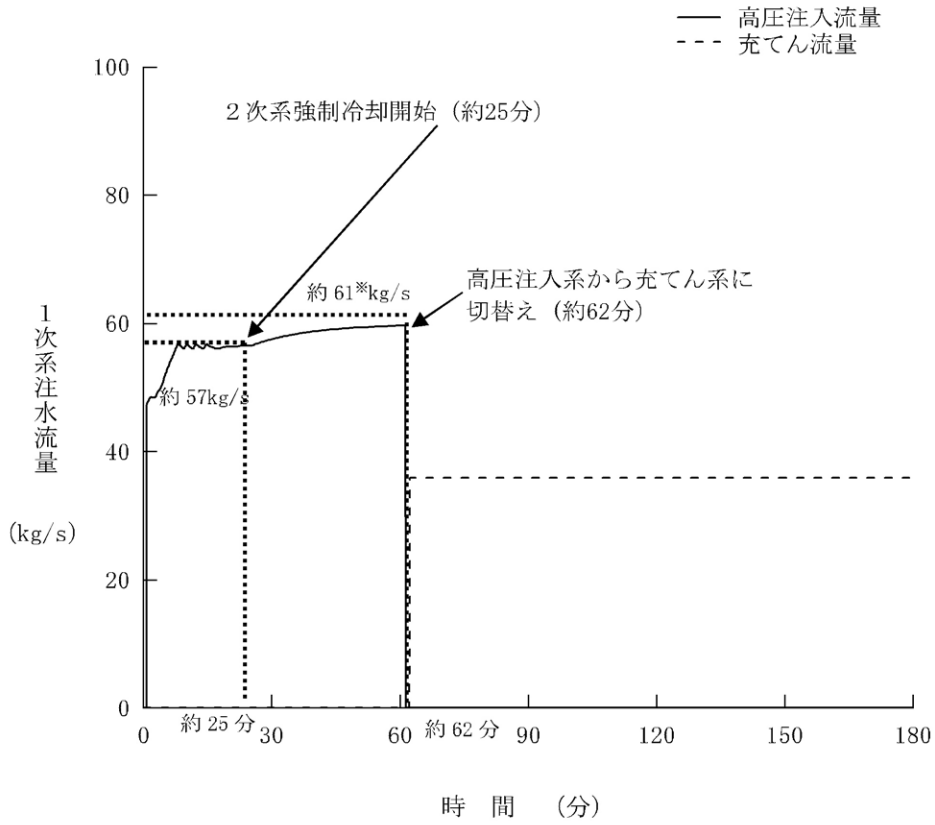
第 7.1.8.31 図　蒸気発生器水位の推移
（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）



第 7.1.8.32 図　給水流量の推移
（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）

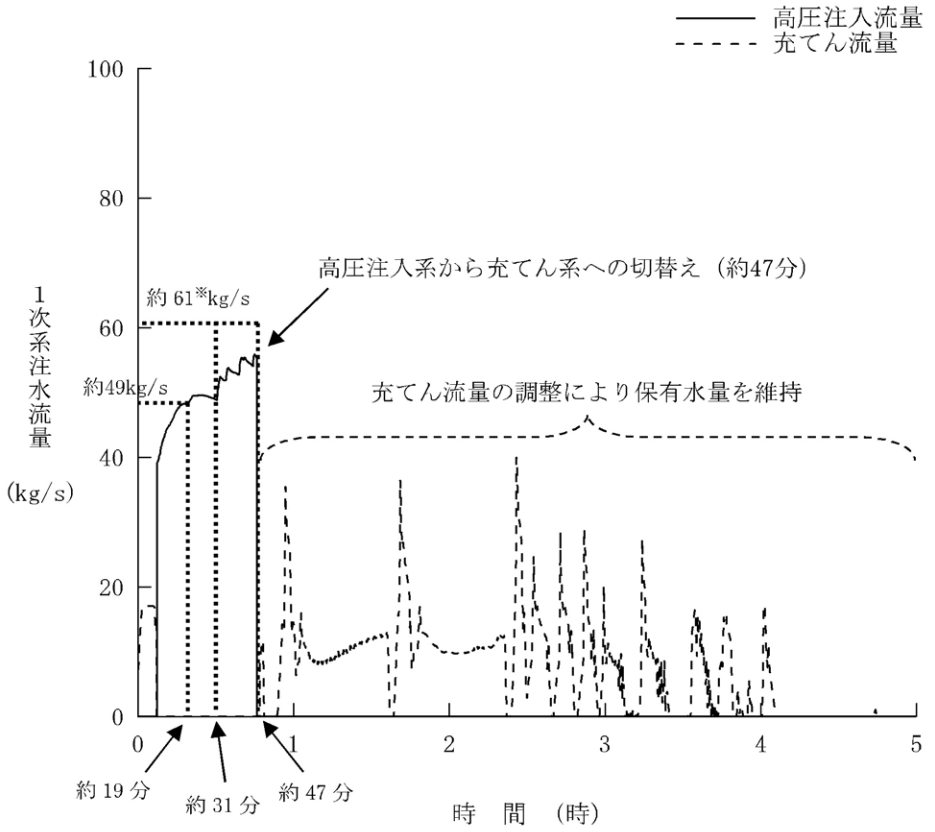


第 7.1.8.33 図　蒸気流量の推移
（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）



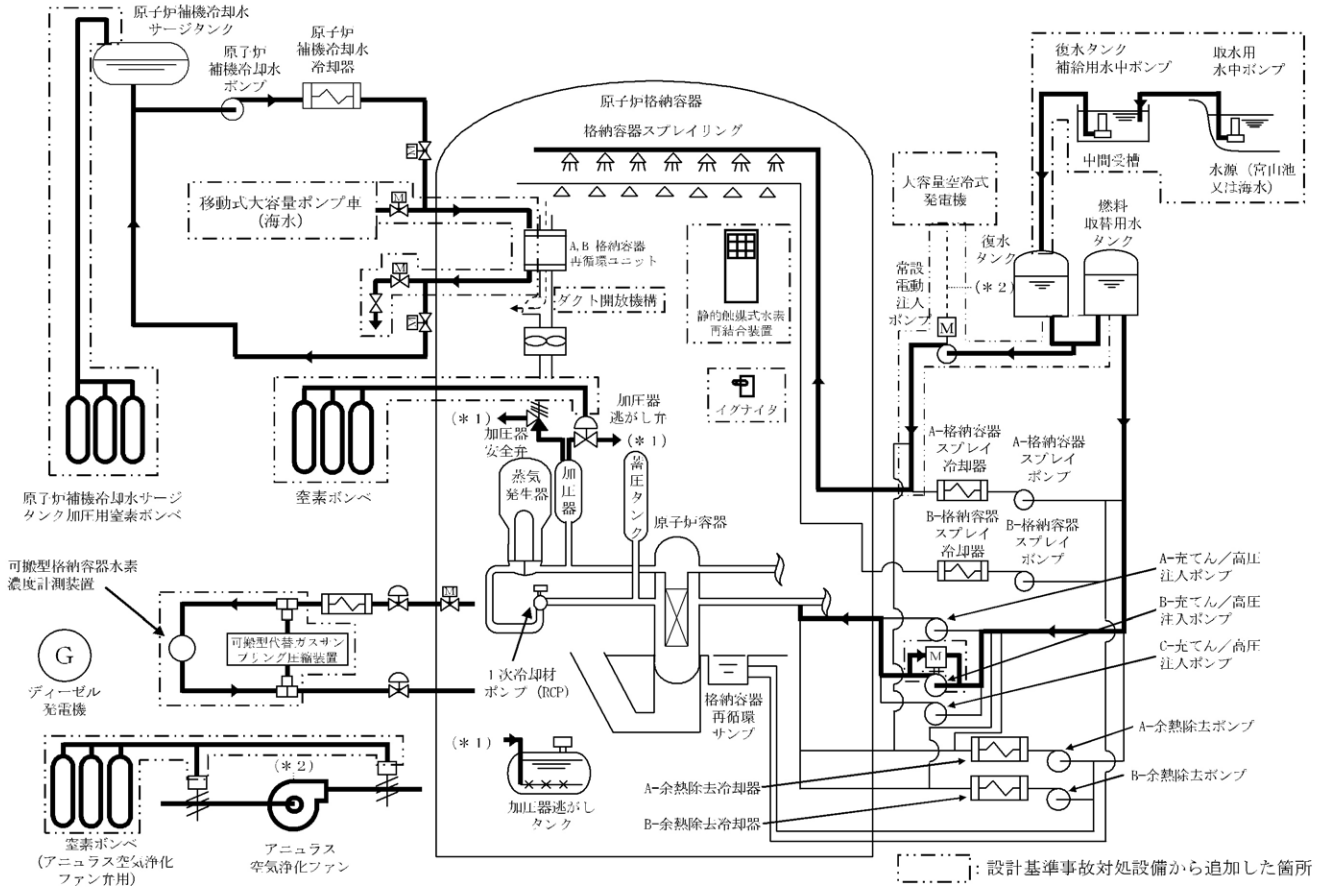
※：主蒸気逃がし弁開による１次系の減温、減圧を考慮し、１次系が大気圧時点の注水流量を想定

第 7.1.8.34 図　１次系注水流量（高圧及び充てん）の推移
（インターフェイスシステムLOCA）（操作時間余裕確認）

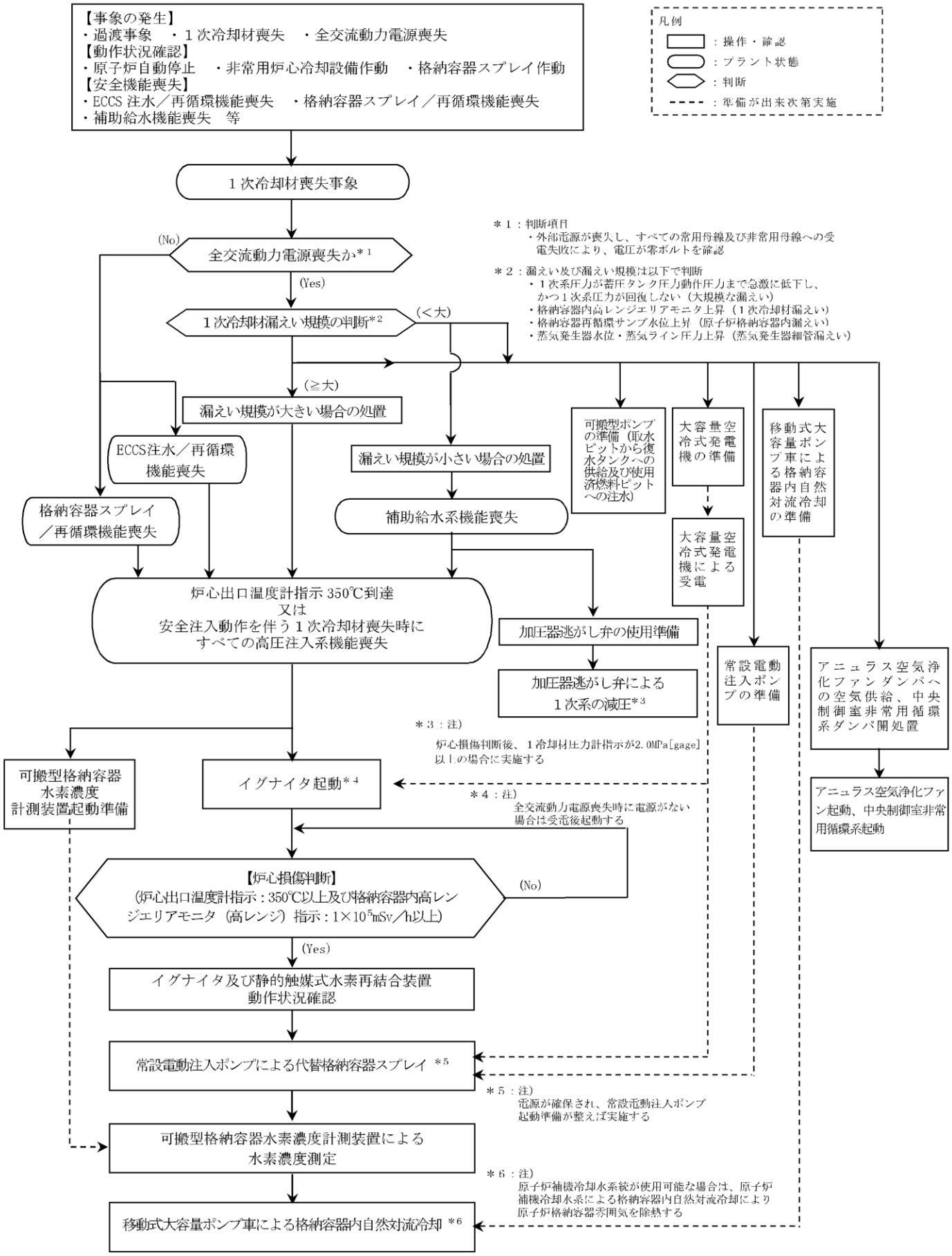


※：健全側主蒸気逃がし弁開による１次系の減温、減圧を考慮し、１次系が大気圧時点の注水流量を想定

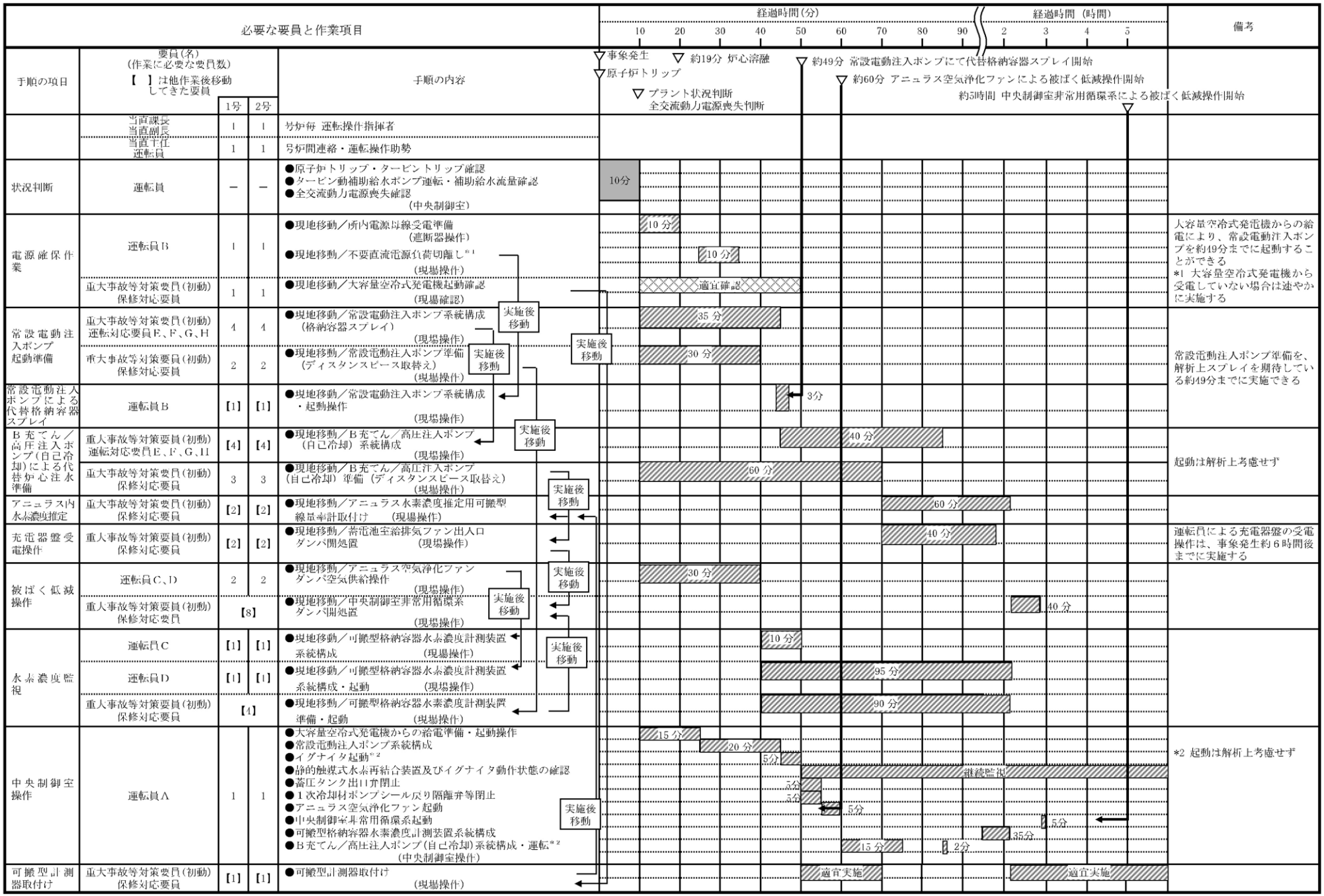
第 7.1.8.35 図　１次系注水流量の推移
（蒸気発生器伝熱管破損＋破損側蒸気発生器隔離失敗）（操作時間余裕確認）



第 7.2.1.1.1 図　雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）モードでの
重大事故等対策の概略系統図



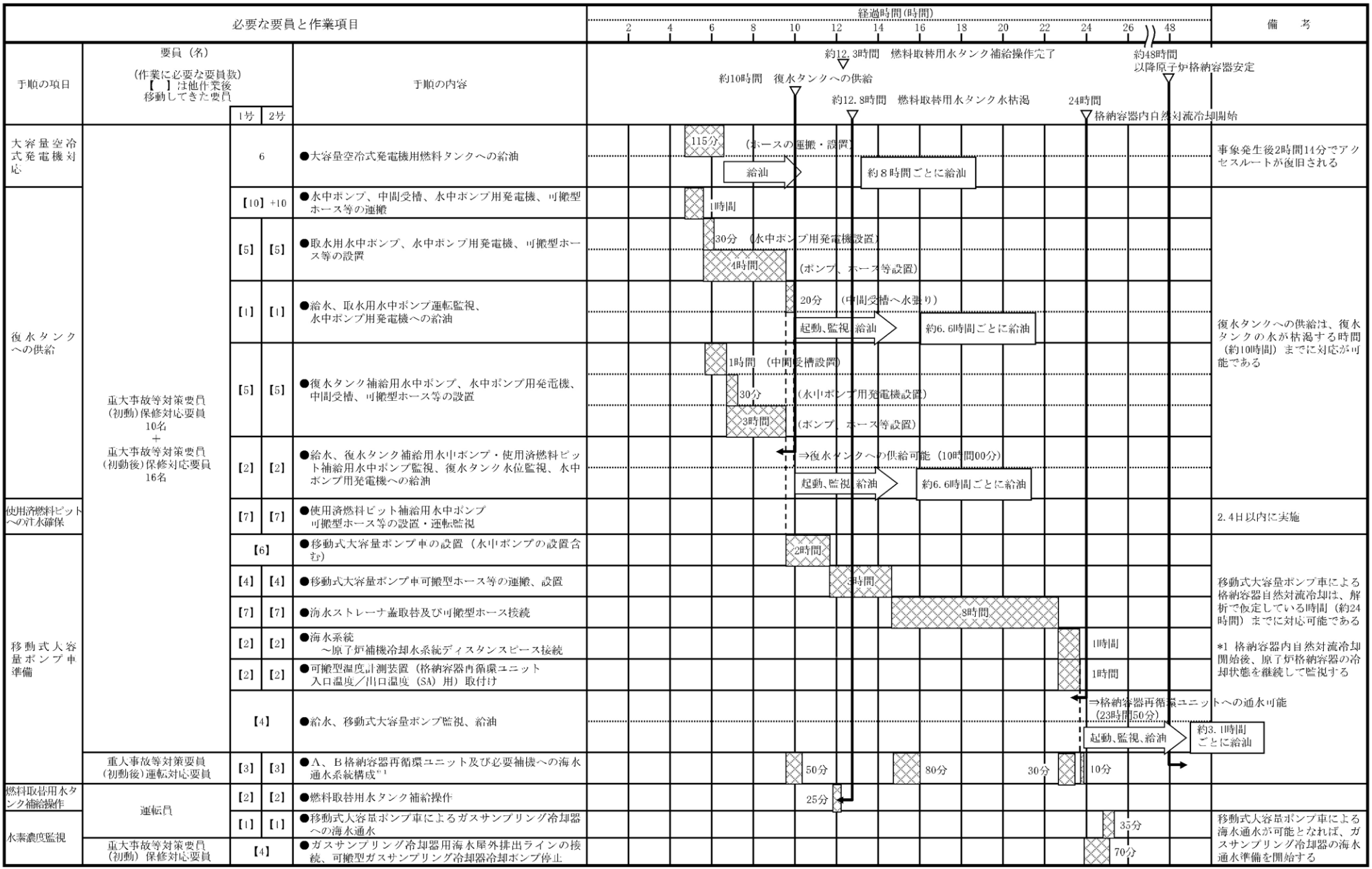
第 7.2.1.1.2 図　格納容器破損モードの対応手順の概要
（雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損））



・各操作・作業の必要時間算定については、実際の現場移動時間又は作業時間を確認した上で算出している（一部、未配備の機器については想定時間により算出）
・緊急時対策本部要員は4名であり、全体指揮、通報連絡等を行う

汚染防護服（タイベック・ゴム手袋等）、全面マスク、ポケット線量計着用
全面マスク、ポケット線量計着用
放射線防護具着用なし

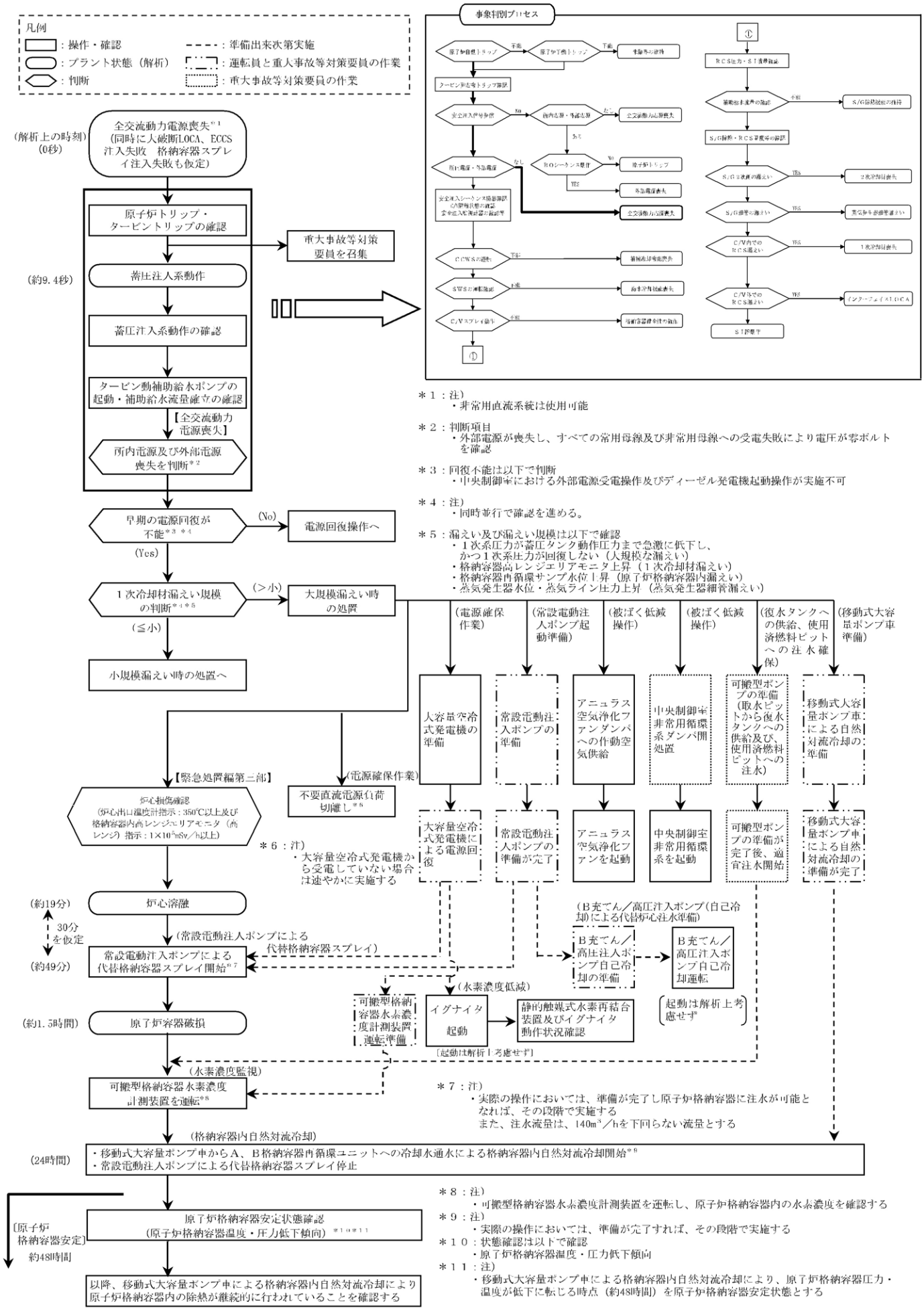
第7.2.1.1.3図　雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）（大破断LOCA＋ECCS注入失敗＋格納容器スプレイ注入失敗）時の作業と所要時間（1／2）



・給油間隔は発電機等定格負荷連続運転時の日安時間を記載
・移動式大容量ポンプ車準備：ホース接続口を２ヶ所（海水ストレーナ側、ラプチャーディスク側）設けているが、ラプチャーディスク側のホース接続作業については、布設距離は長くなるもののホース展張回収車により容易に布設可能であり、またラプチャーディスクのフランジ取替が、海水ストレーナ蓋取替に比べ短時間で可能であるため、海水ストレーナ側の作業時間に包括されることから、海水ストレーナ側の接続を記載
・上記対応の他、緊急時対策所（指揮所）又は緊急時対策所（緊急時対策指内）の電源確保対応者：４名（重大事故等対策要員（初動後）保修対応要員のうち４名が対応）

汚染防護服（タイベック・ゴム手袋等）、全面マスク、ポケット線量計着用

第 7.2.1.1.3 図　雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）
（大破断 LOCA＋ECCS 注入失敗＋格納容器スプレイ注入失敗）時の作業と所要時間（2／2）



＊1：注）
・非常用直流系統は使用可能

＊2：判断項目
・外部電源が喪失し、すべての常用母線及び非常用母線への受電失敗により電圧が零ボルトを確認

＊3：回復不能は以下で判断
・中央制御室における外部電源受電操作及びディーゼル発電機起動操作が実施不可

＊4：注）
・同時並行で確認を進める。

＊5：漏えい及び漏えい規模は以下で確認
・1次系圧力が蓄圧タンク動作圧力まで急激に低下し、かつ1次系圧力が回復しない（大規模な漏えい）
・格納容器高レンジエリアモニタ上昇（1次冷却材漏えい）
・格納容器内循環サンプル水位上昇（原子炉格納容器内漏えい）
・蒸気発生器水位・蒸気ライン圧力上昇（蒸気発生器細管漏えい）

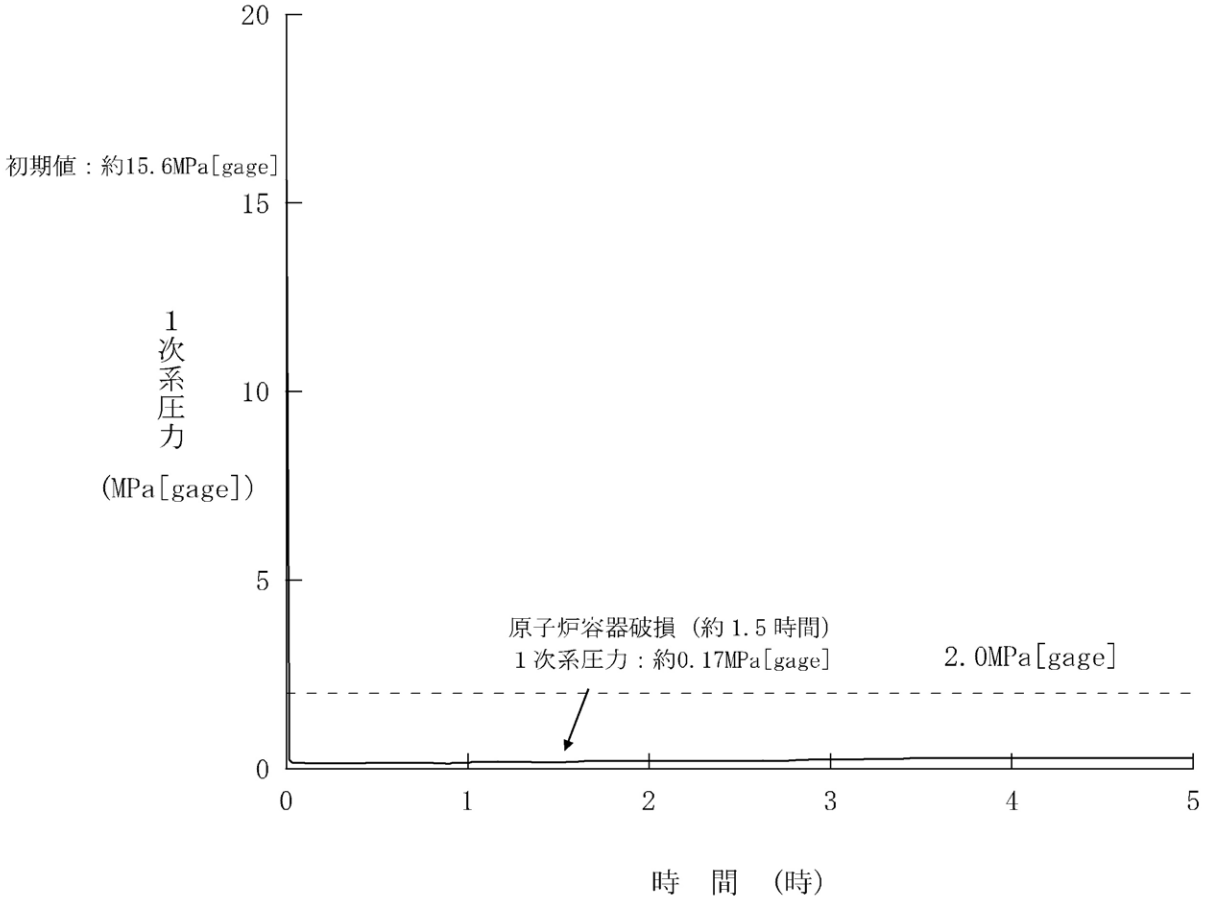
＊8：注）
・可搬型格納容器水素濃度計測装置を運転し、原子炉格納容器内の水素濃度を確認する

＊9：注）
・実際の操作においては、準備が完了すれば、その段階で実施する

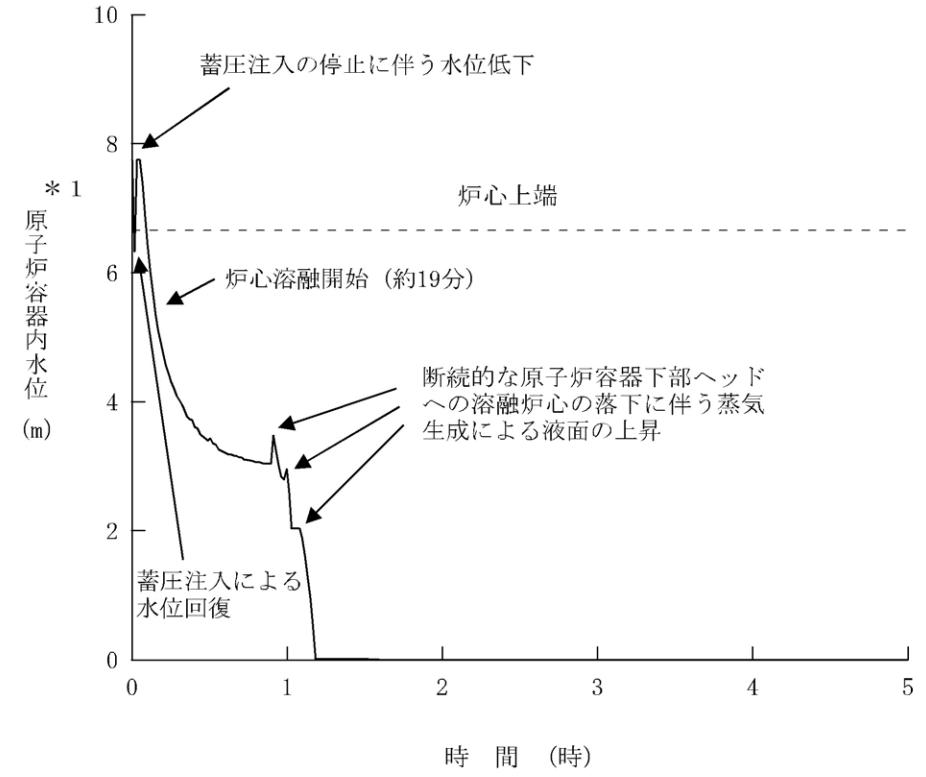
＊10：状態確認は以下で確認
・原子炉格納容器温度・圧力低下傾向

＊11：注）
・移動式大容量ポンプ車による格納容器内自然対流冷却により、原子炉格納容器圧力・温度が低下に転じる時点（約48時間）を原子炉格納容器安定状態とする

第7.2.1.1.4図　雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損）
（大破断LOCA＋ECCS注入失敗＋格納容器スプレイ注入失敗）における事象進展の概要



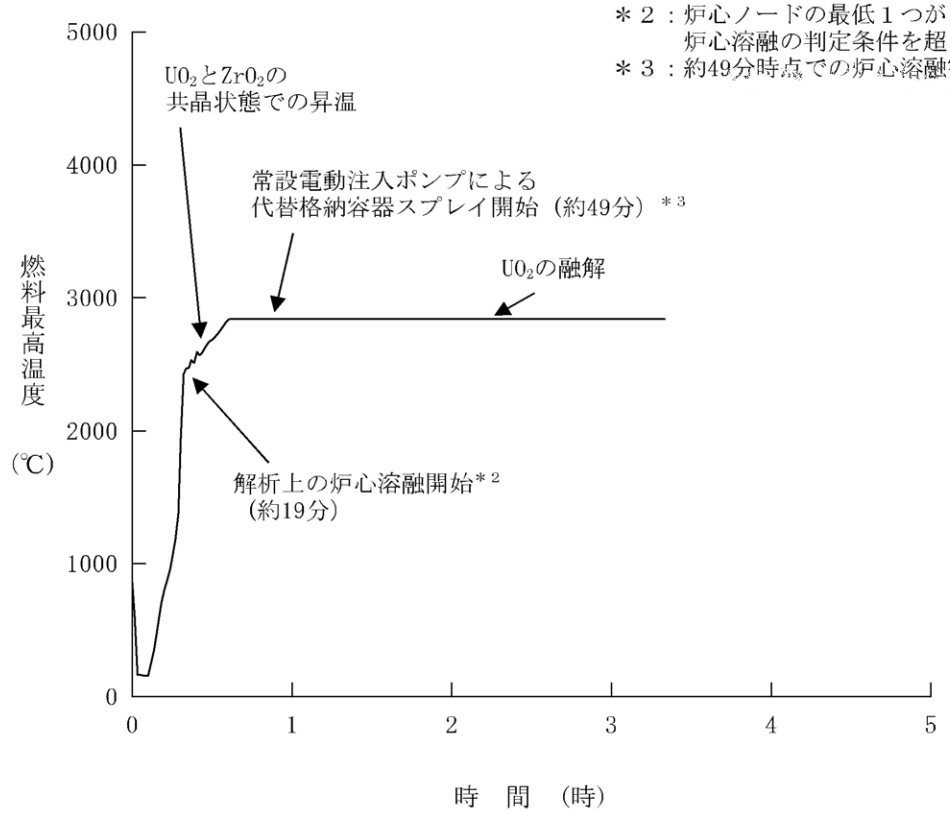
第7.2.1.1.5図　1次系圧力の推移



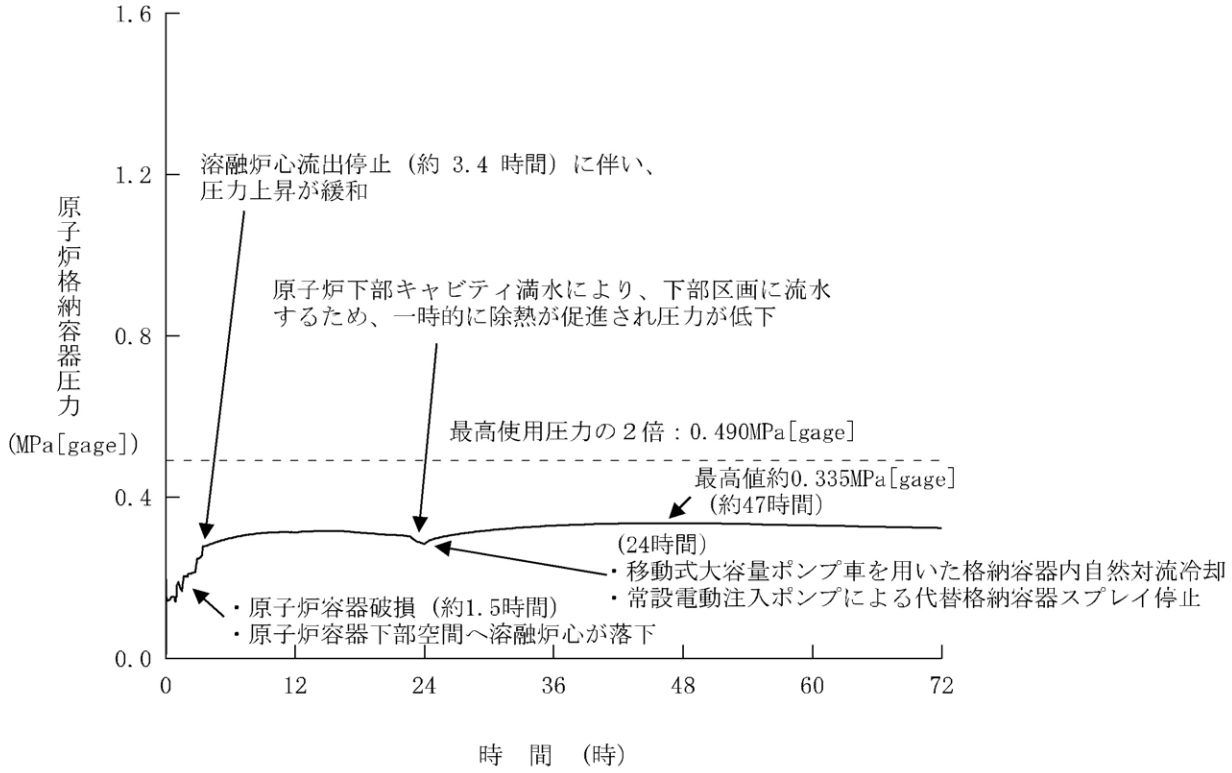
＊１：原子炉容器内水位は入口ノズル下端を上限とした気泡水位を表示

第 7.2.1.1.6 図　原子炉容器内水位の推移

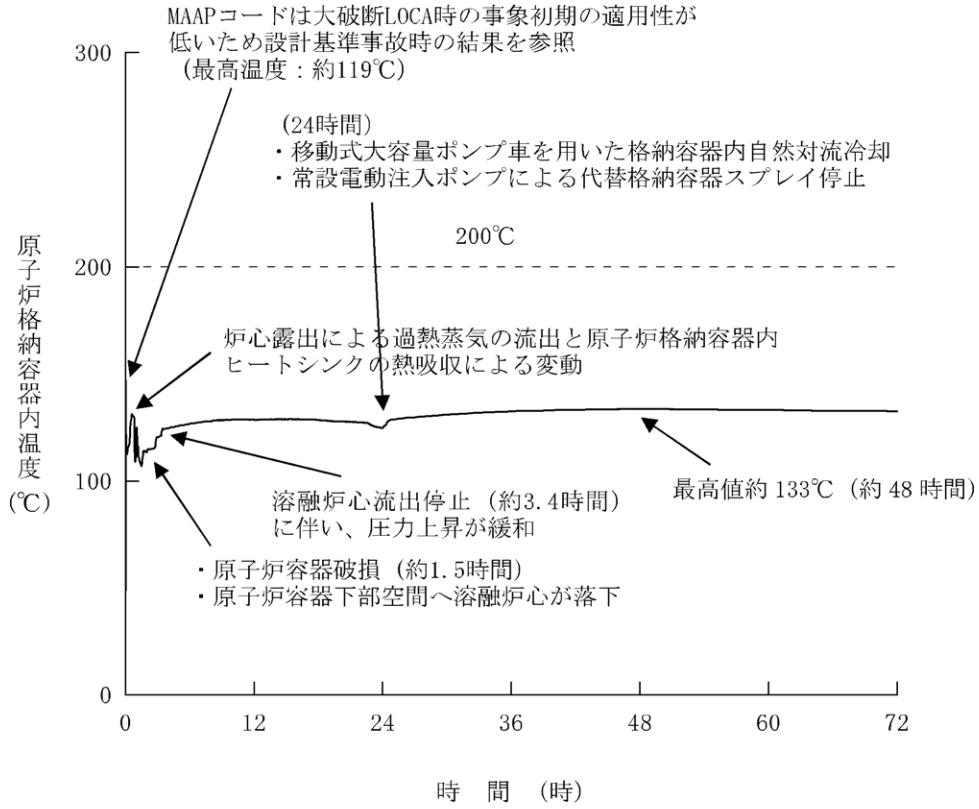
＊２：炉心ノードの最低１つが
　　炉心溶融の判定条件を超える時点
＊３：約49分時点での炉心溶融割合約27%



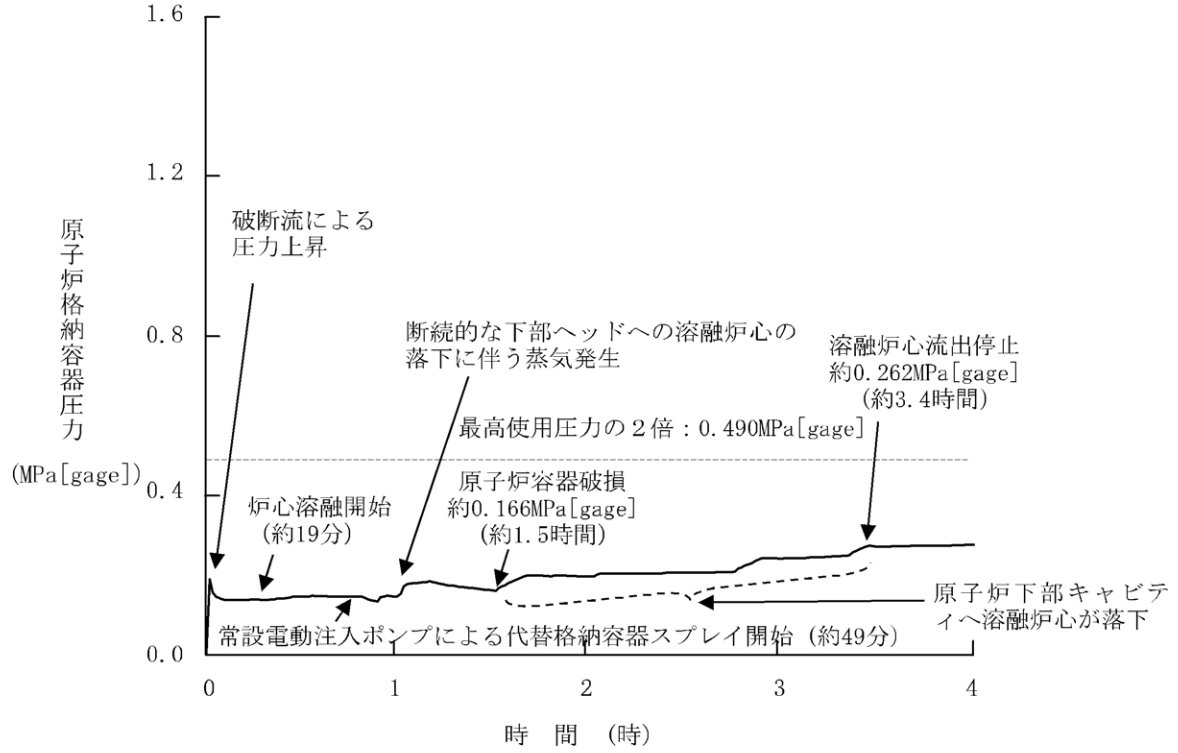
第 7.2.1.1.7 図　燃料最高温度の推移



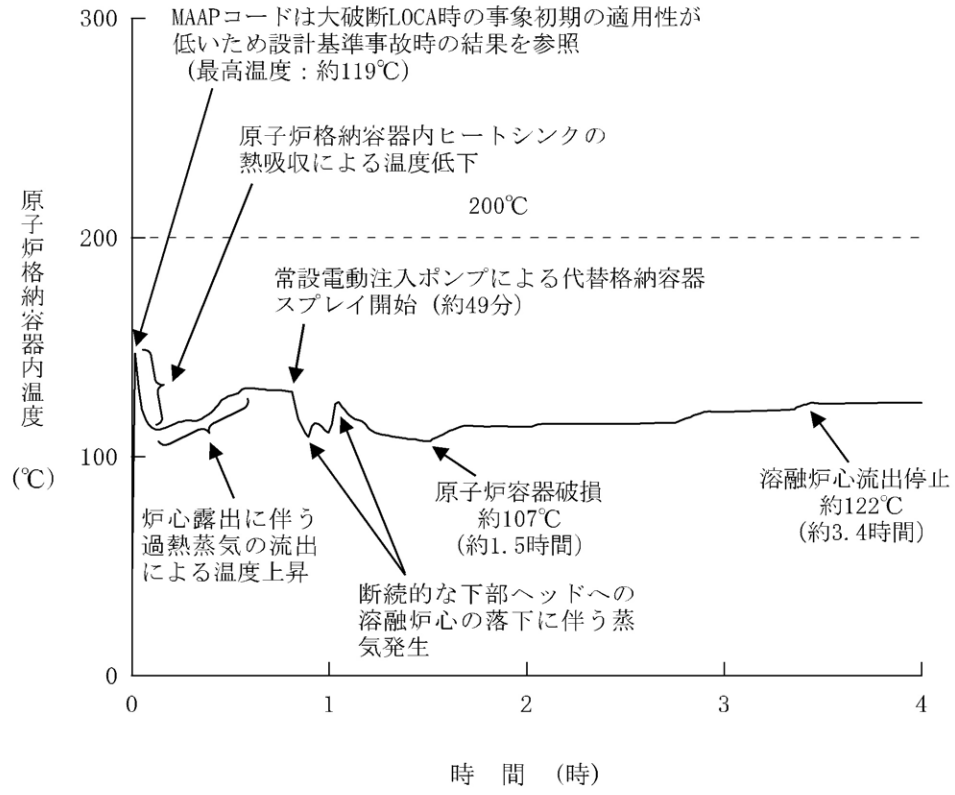
第 7.2.1.1.8 図　原子炉格納容器圧力の推移



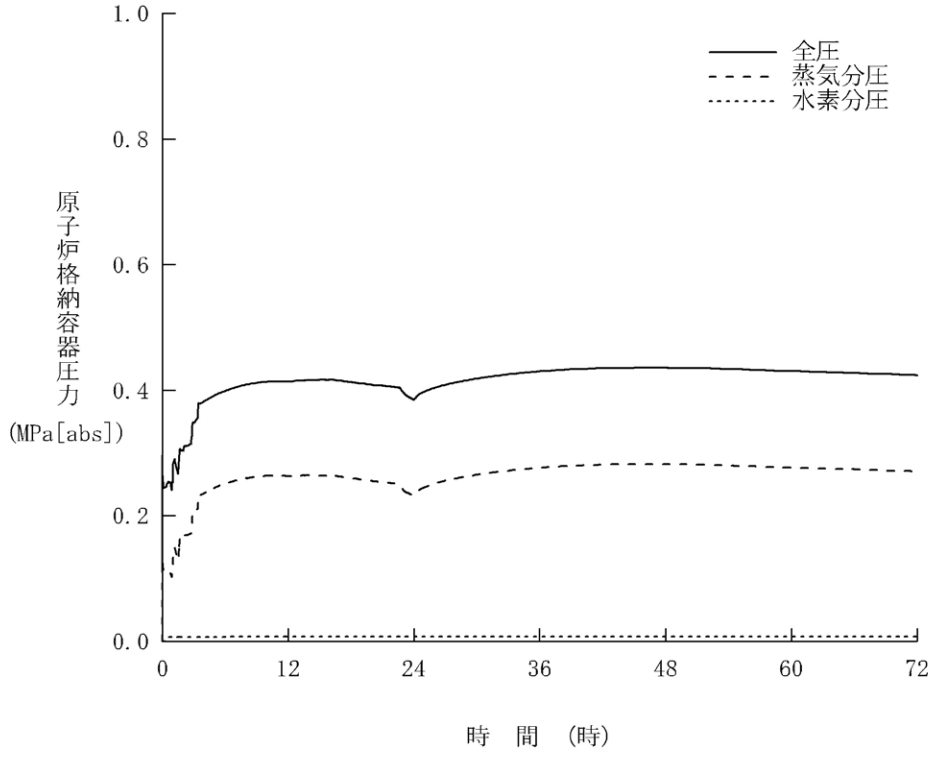
第 7.2.1.1.9 図　原子炉格納容器内温度の推移



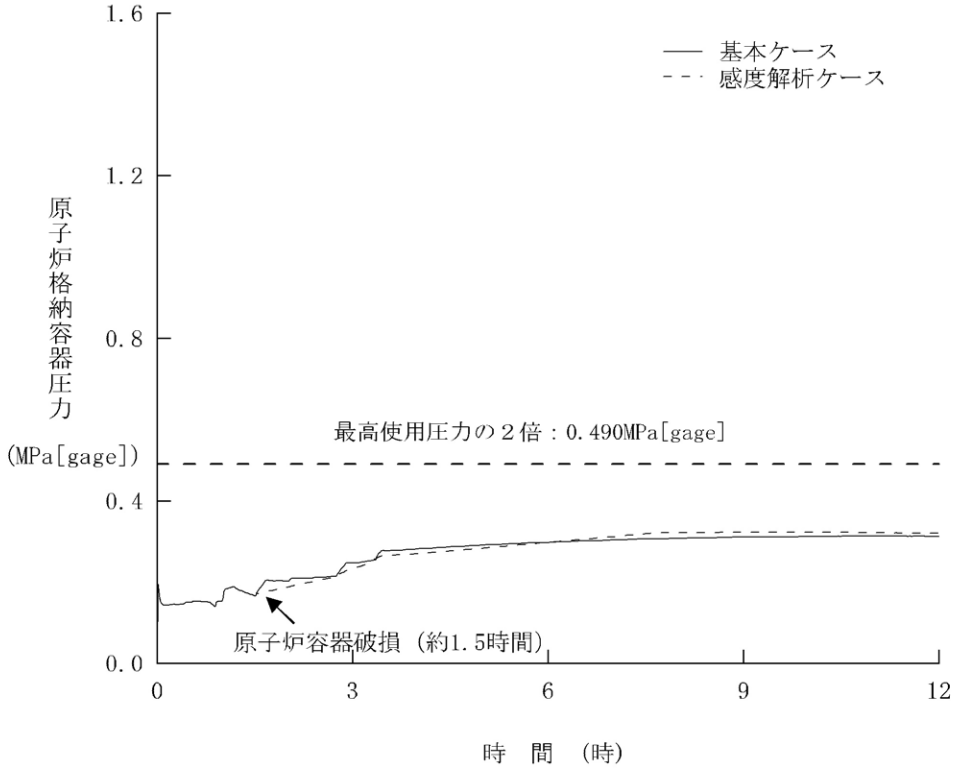
第 7.2.1.1.10 図　原子炉格納容器圧力の推移（～４時間）



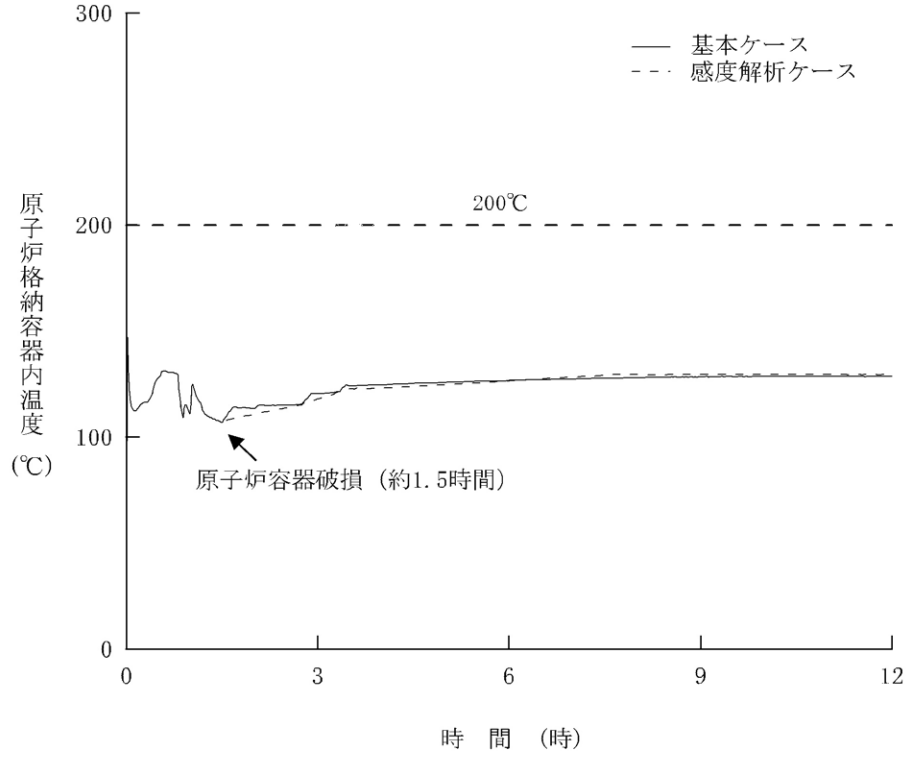
第 7.2.1.1.11 図　原子炉格納容器内温度の推移（～４時間）



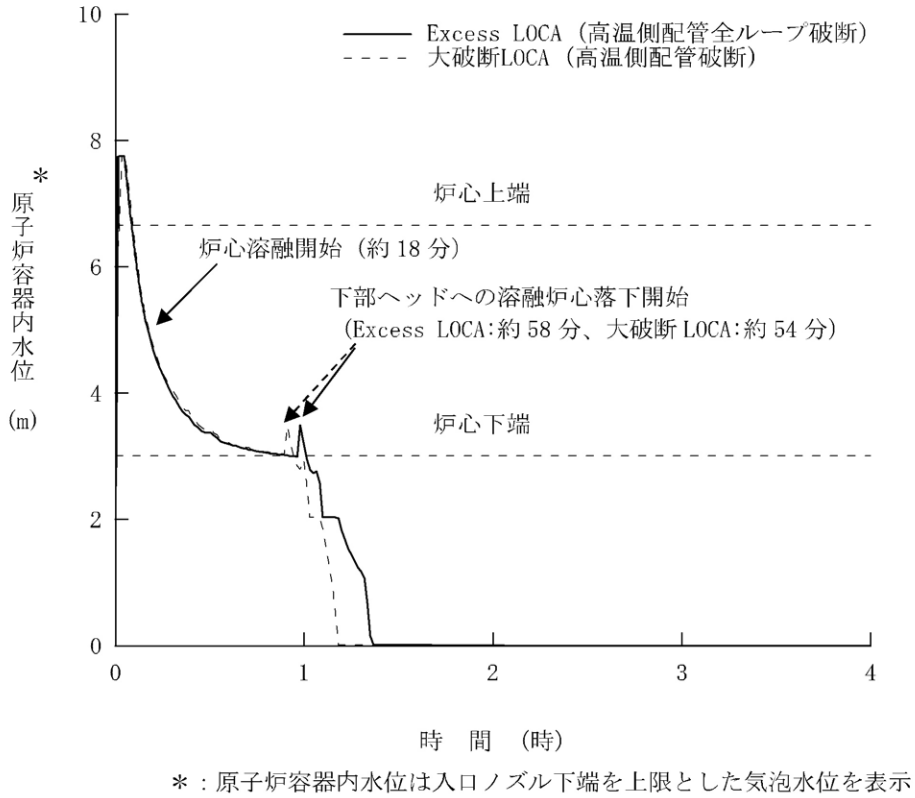
第 7.2.1.1.12 図　原子炉格納容器圧力に占める水蒸気及び水素の分圧（絶対圧）の推移



第 7.2.1.1.13 図　原子炉格納容器圧力の推移（溶融炉心・コンクリート相互作用による影響確認）

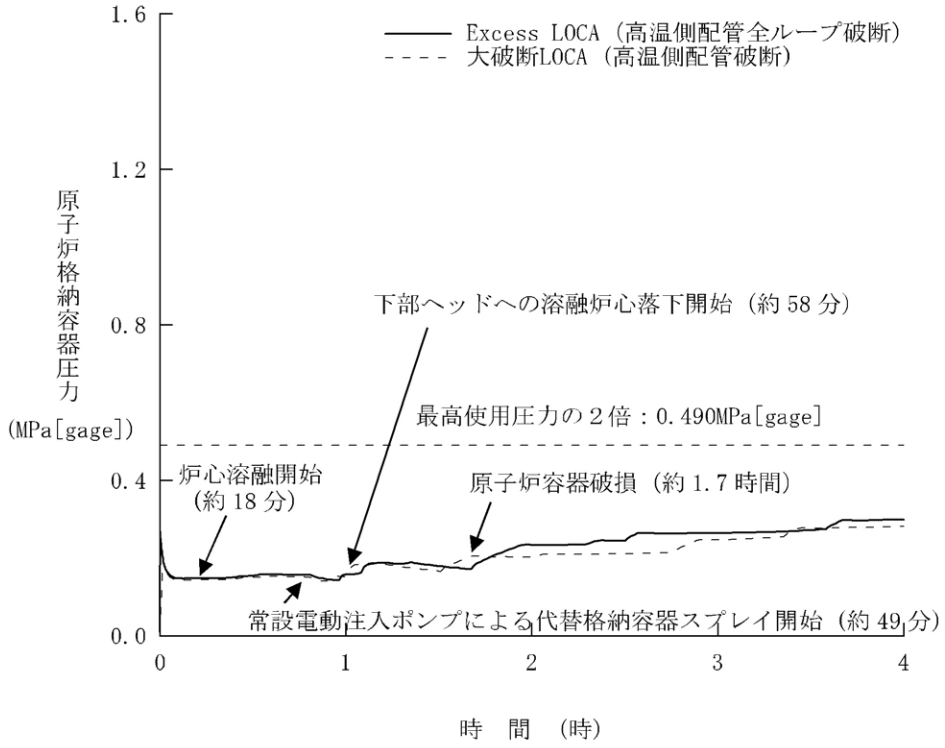


第 7.2.1.1.14 図　原子炉格納容器内温度の推移（溶融炉心・コンクリート相互作用による影響確認）

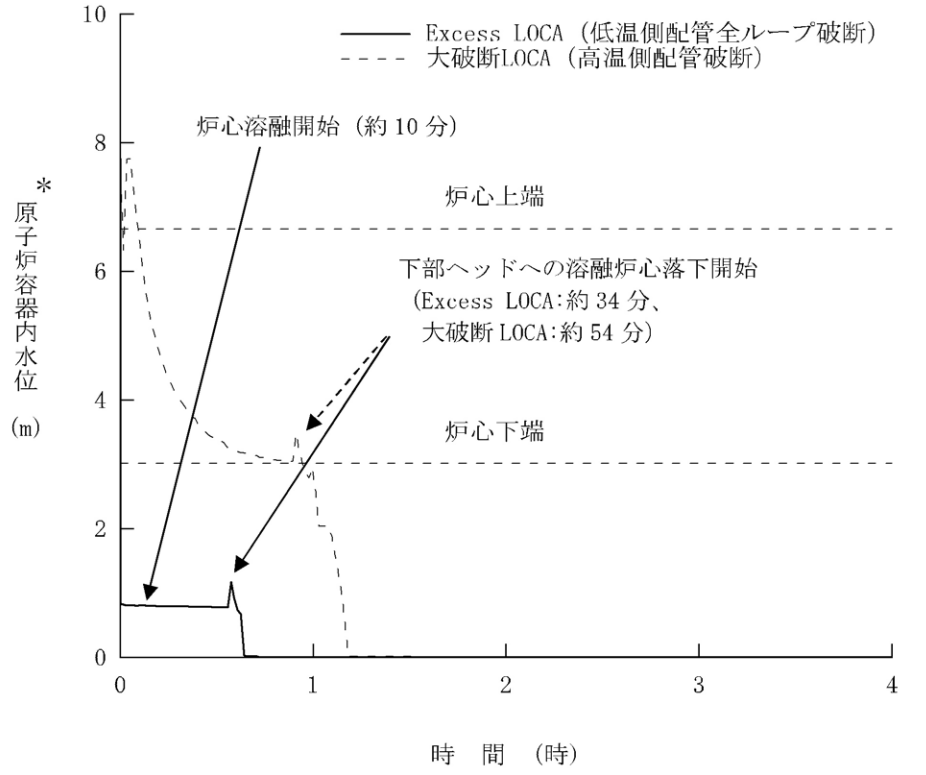


＊：原子炉容器内水位は入口ノズル下端を上限とした気泡水位を表示

第 7.2.1.1.15 図　原子炉容器内水位の推移
（高温側配管全ループ破断時の影響確認）

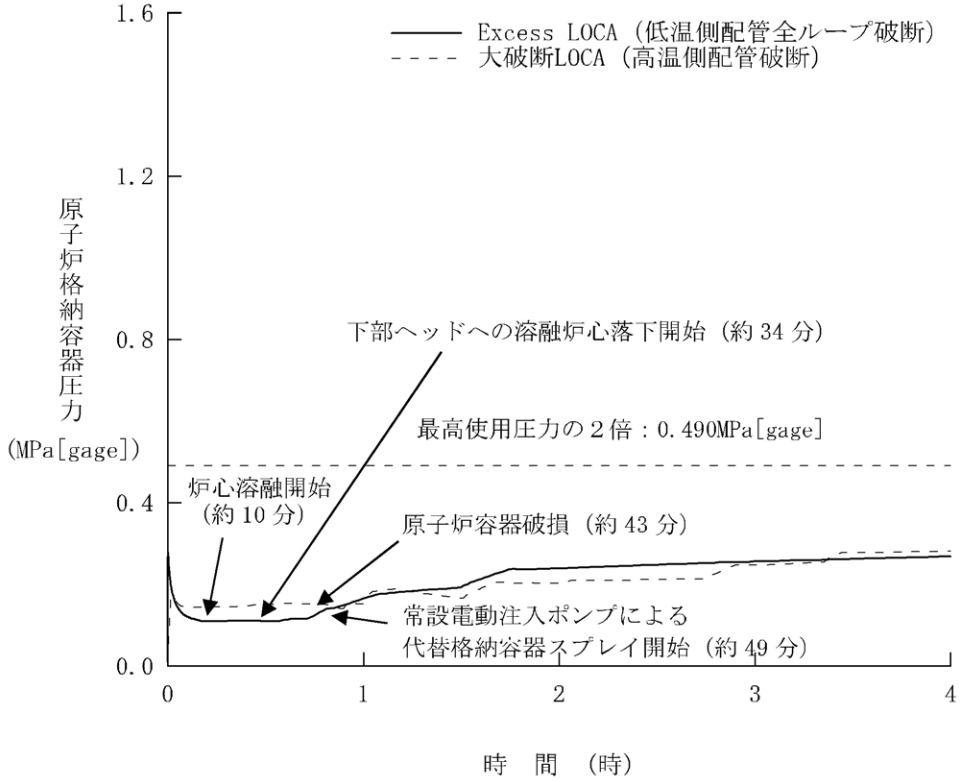


第 7.2.1.1.16 図　原子炉格納容器圧力の推移
（高温側配管全ループ破断時の影響確認）

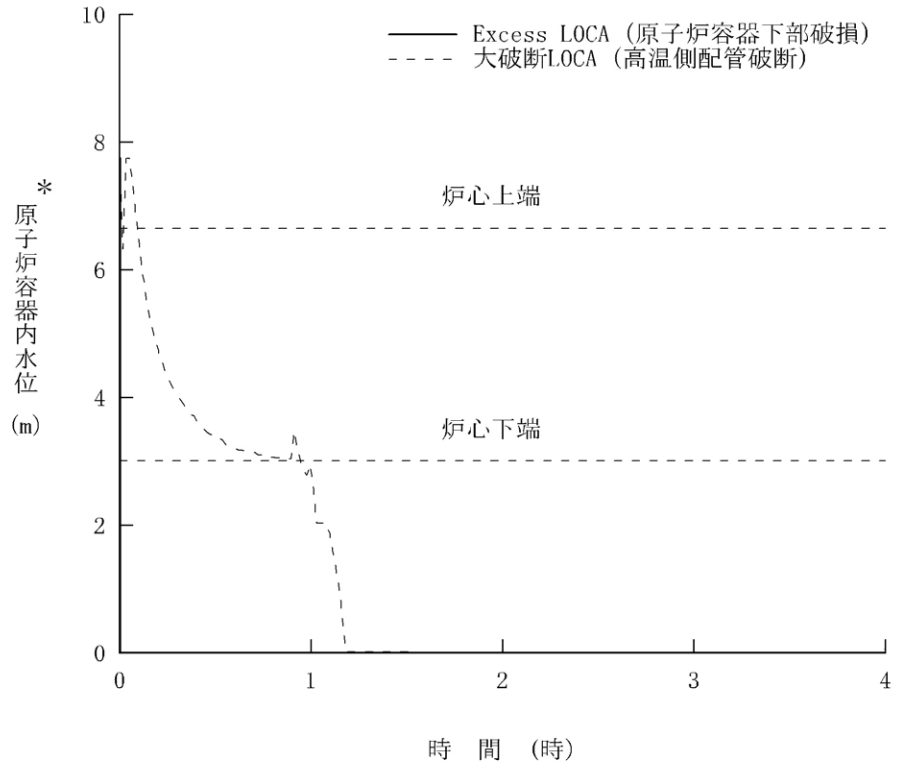


＊：原子炉容器内水位は入口ノズル下端を上限とした気泡水位を表示

第 7.2.1.1.17 図　原子炉容器内水位の推移
（低温側配管全ループ破断時の影響確認）

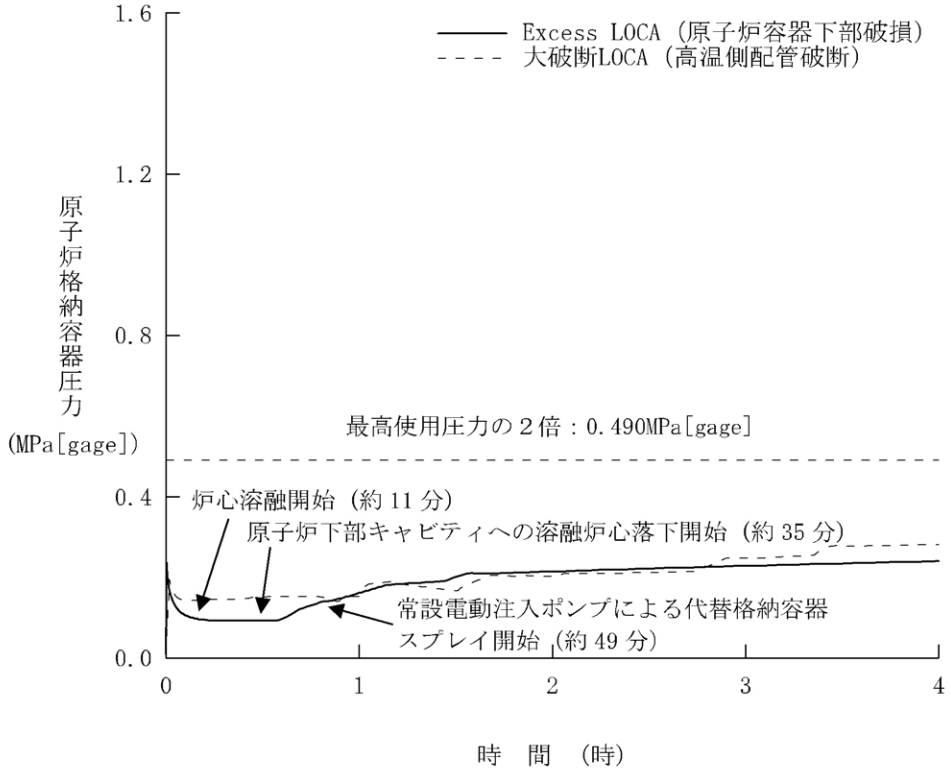


第 7.2.1.1.18 図　原子炉格納容器圧力の推移
（低温側配管全ループ破断時の影響確認）

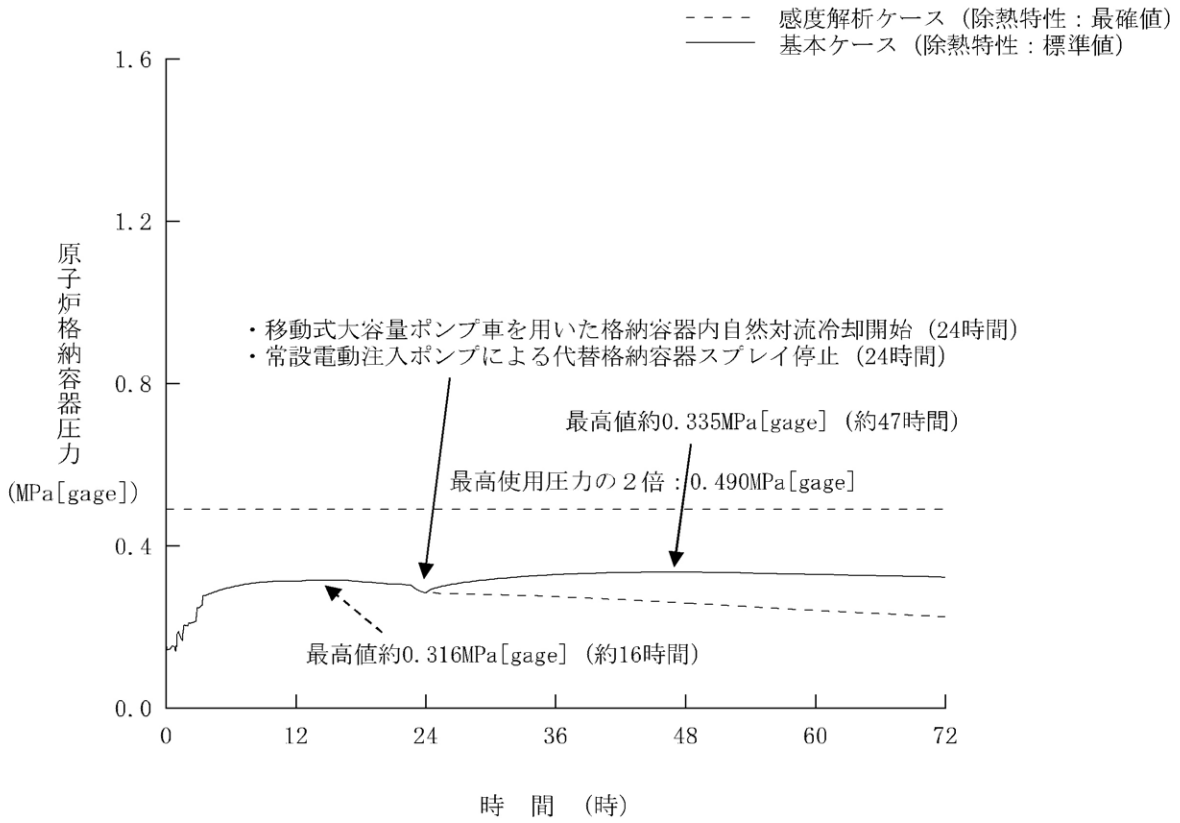


＊：原子炉容器内水位は入口ノズル下端を上限とした気泡水位を表示

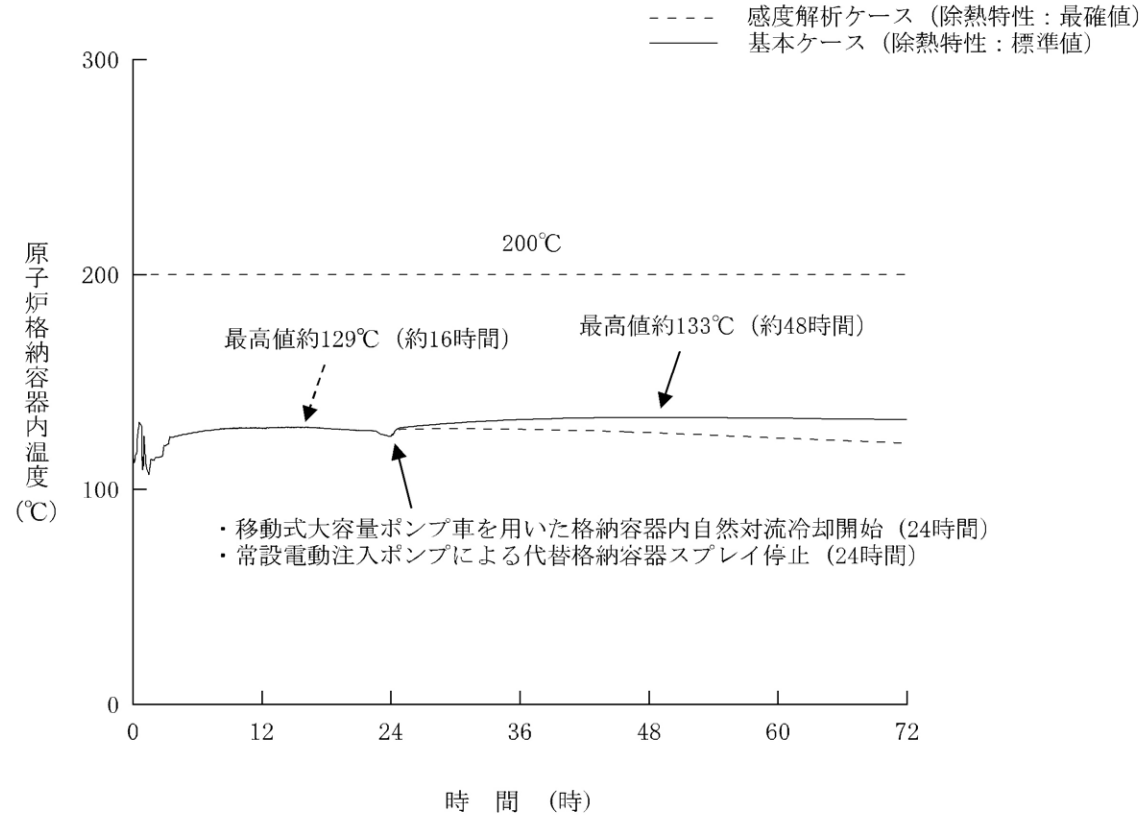
第 7.2.1.1.19 図　原子炉容器内水位の推移
（原子炉容器下端における破損時の影響確認）



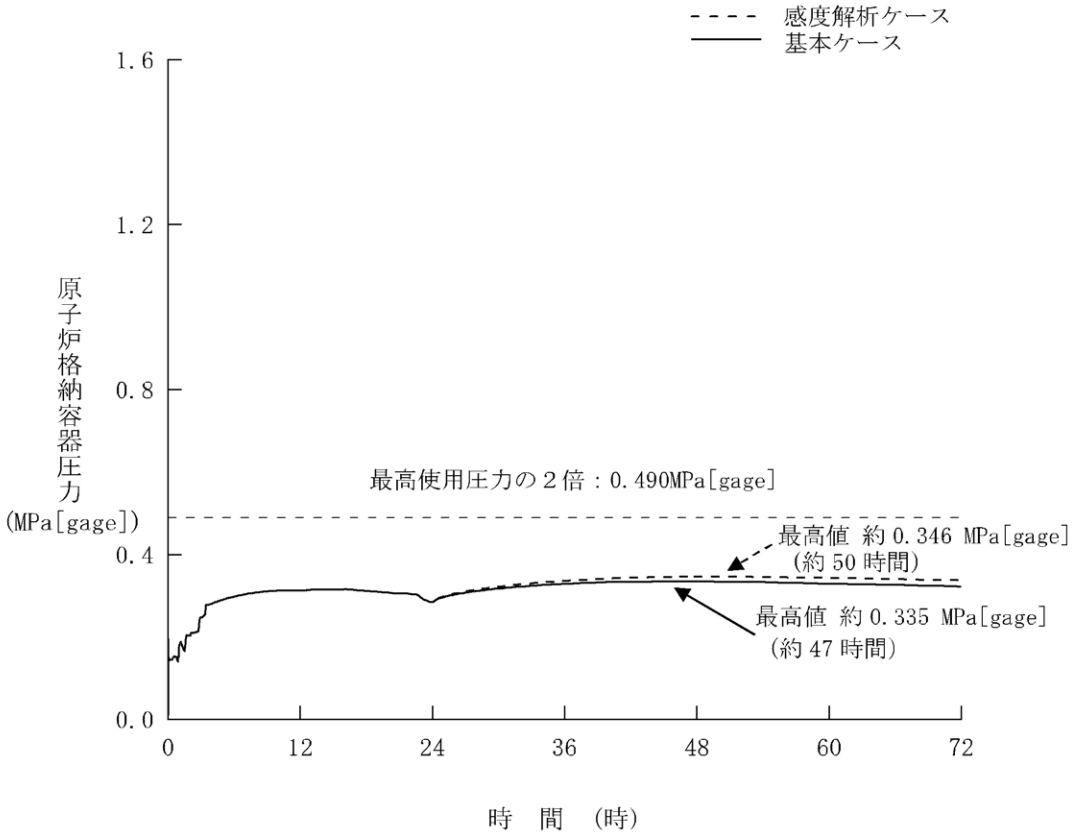
第 7.2.1.1.20 図　原子炉格納容器圧力の推移
（原子炉容器下端における破損時の影響確認）



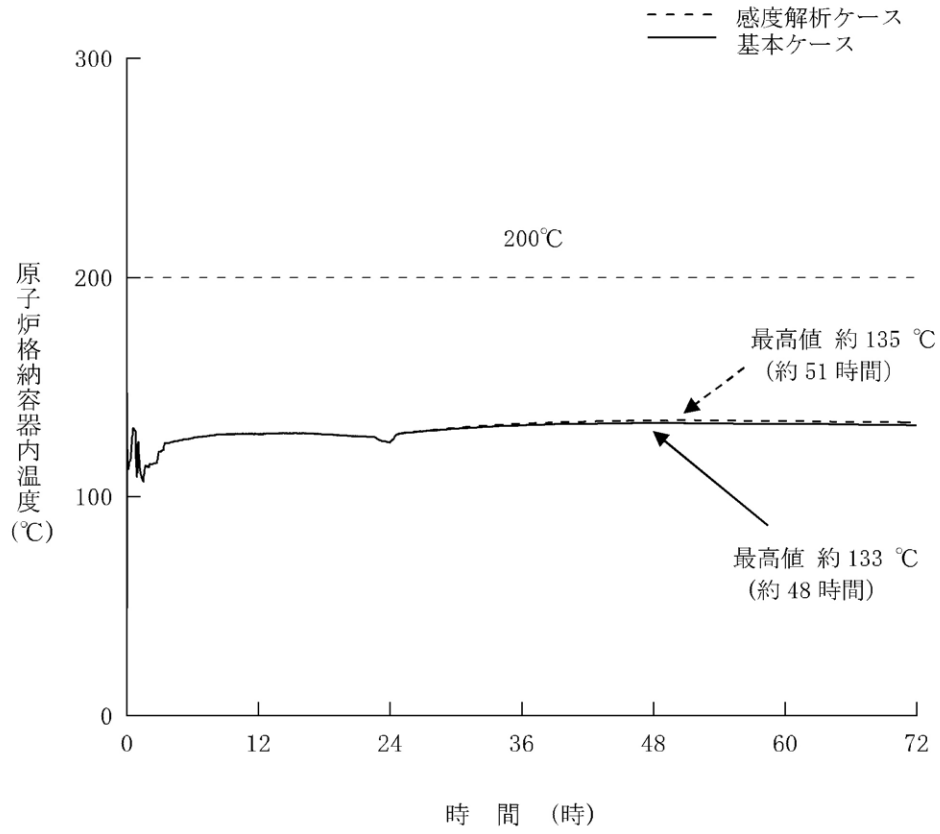
第 7.2.1.1.21 図　原子炉格納容器圧力の推移
（格納容器再循環ユニット除熱特性の影響確認）



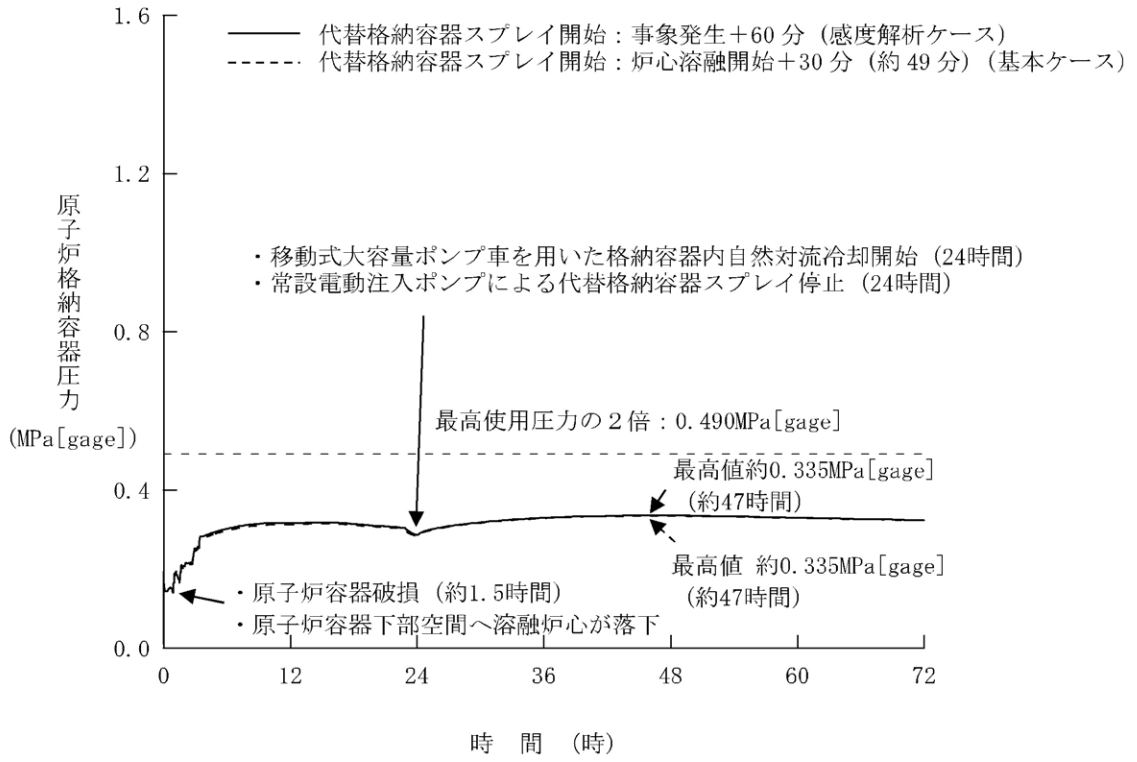
第 7.2.1.1.22 図　原子炉格納容器内温度の推移
（格納容器再循環ユニット除熱特性の影響確認）



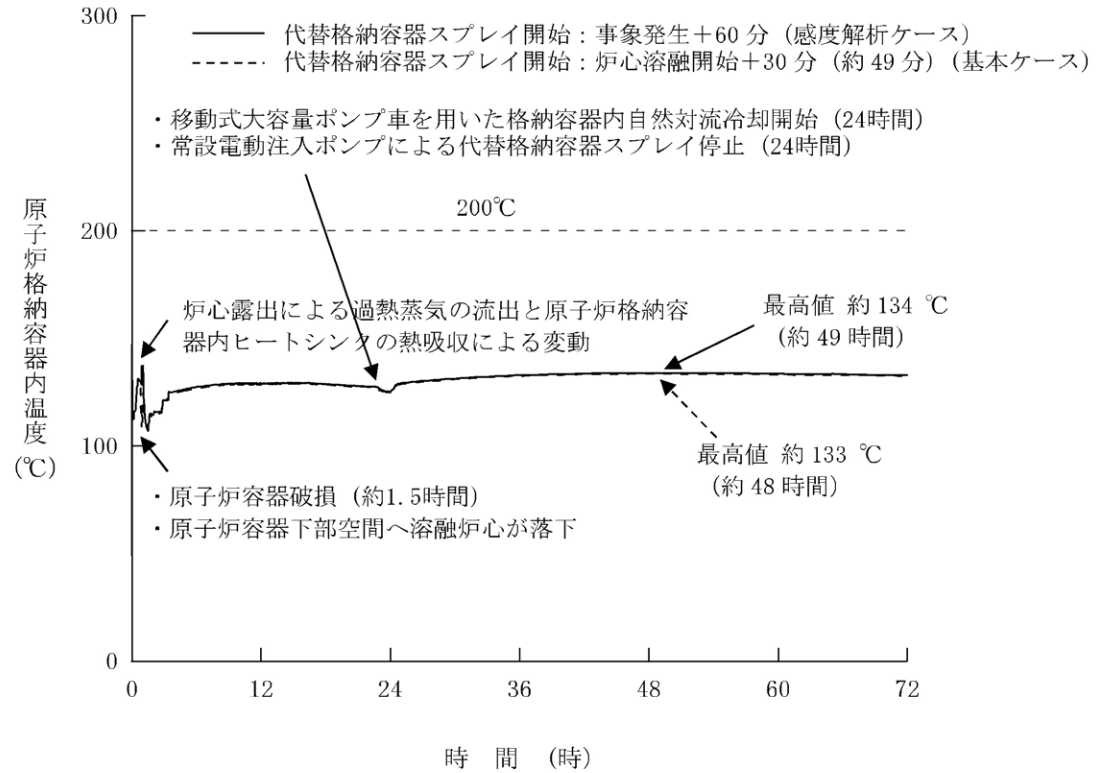
第 7.2.1.1.23 図　原子炉格納容器圧力の推移
(格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却の水素影響確認)
(ドライ換算 13%vol 水素が存在する場合)



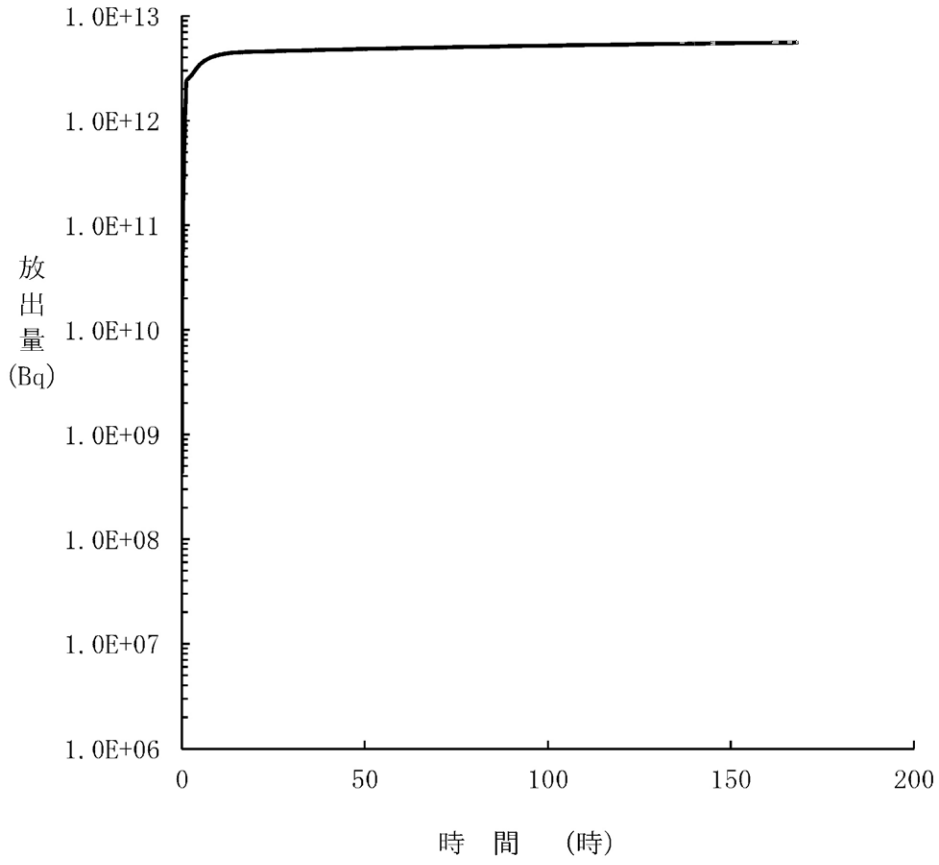
第 7.2.1.1.24 図　原子炉格納容器内温度の推移
(格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却の水素影響確認)
(ドライ換算 13%vol 水素が存在する場合)



第 7.2.1.1.25 図　原子炉格納容器圧力の推移
（代替格納容器スプレイ操作時間余裕確認）

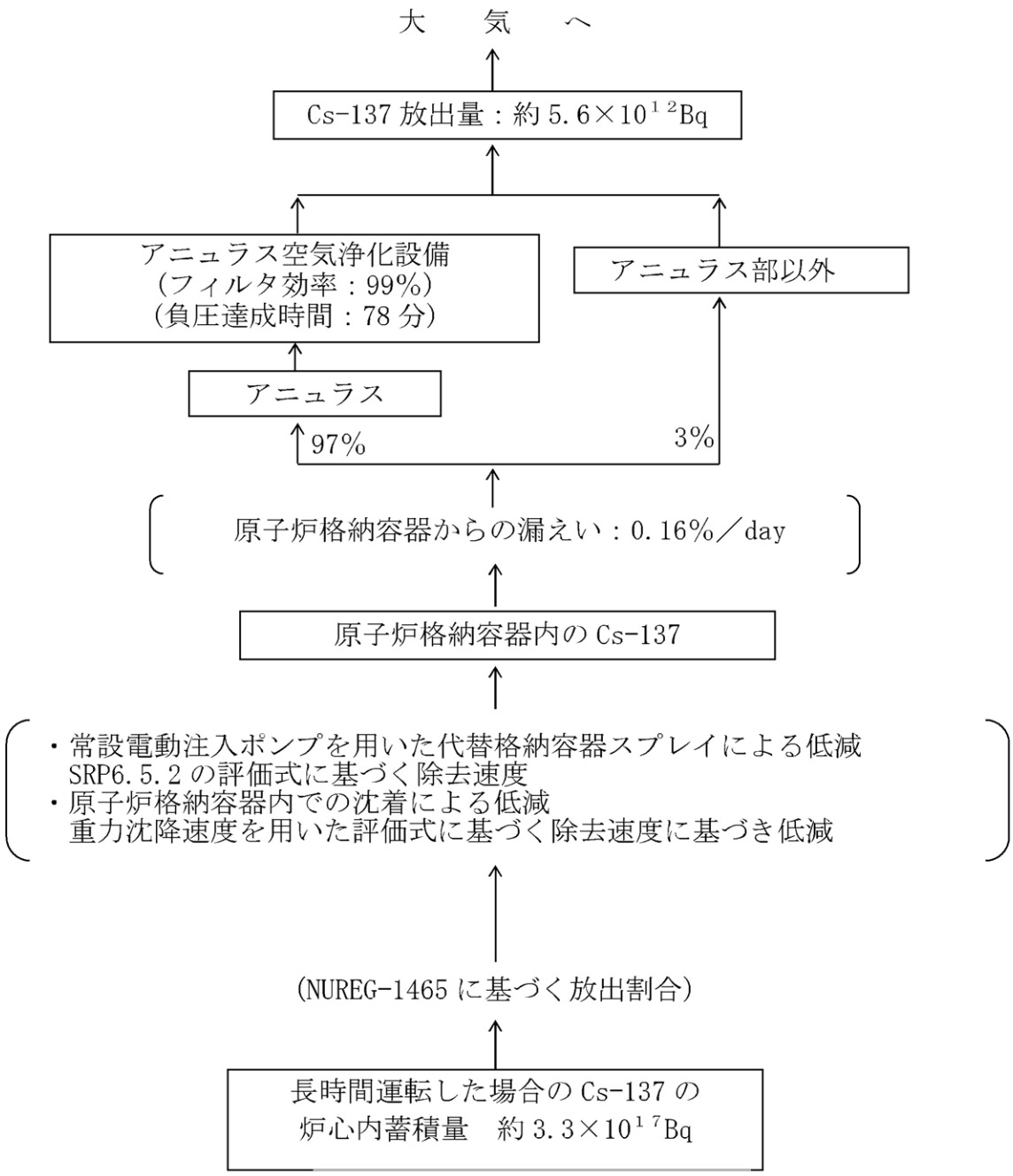


第 7.2.1.1.26 図　原子炉格納容器内温度の推移
（代替格納容器スプレイ操作時間余裕確認）

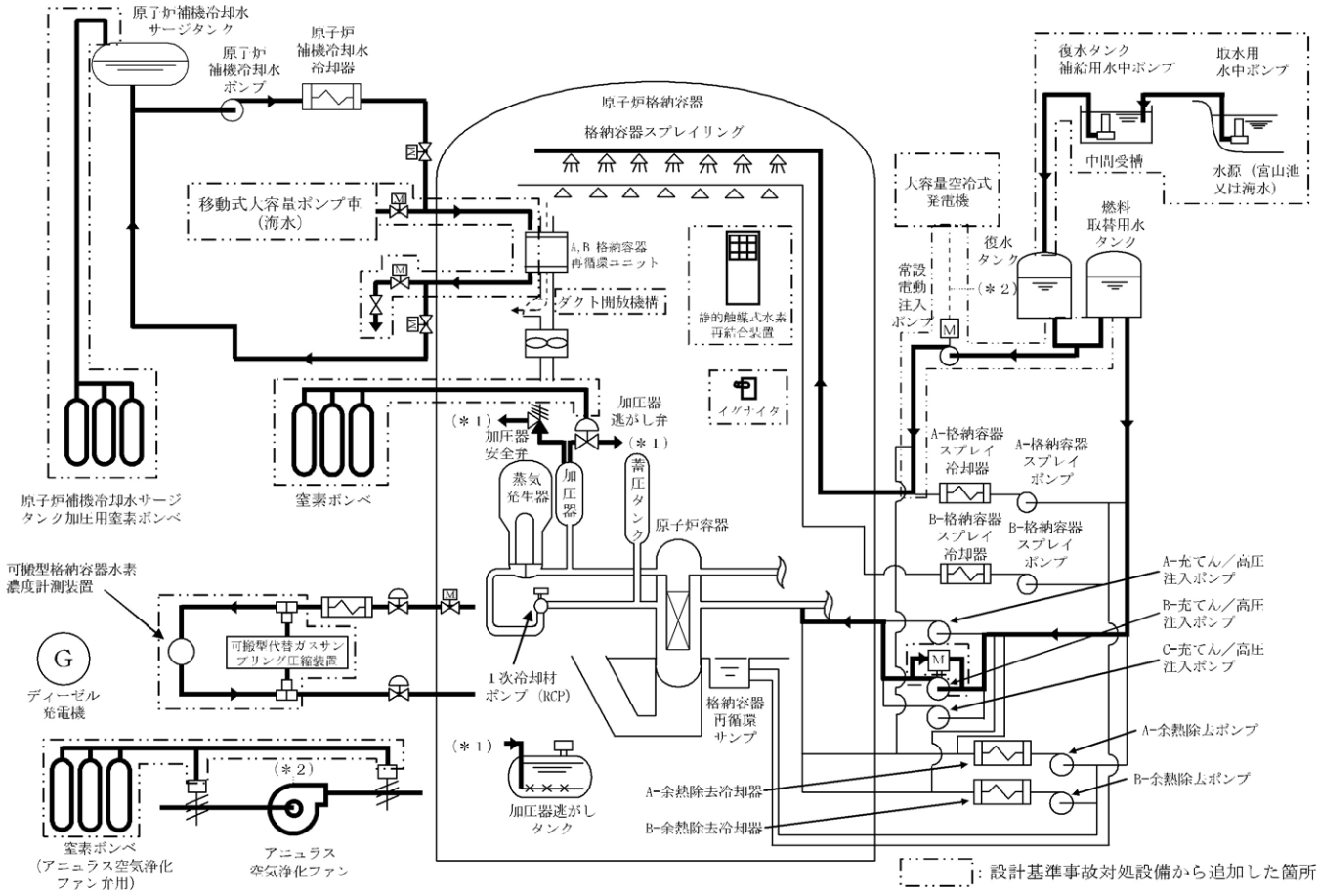


第 7.2.1.1.27 図　Cs-137 積算放出放射能量の推移

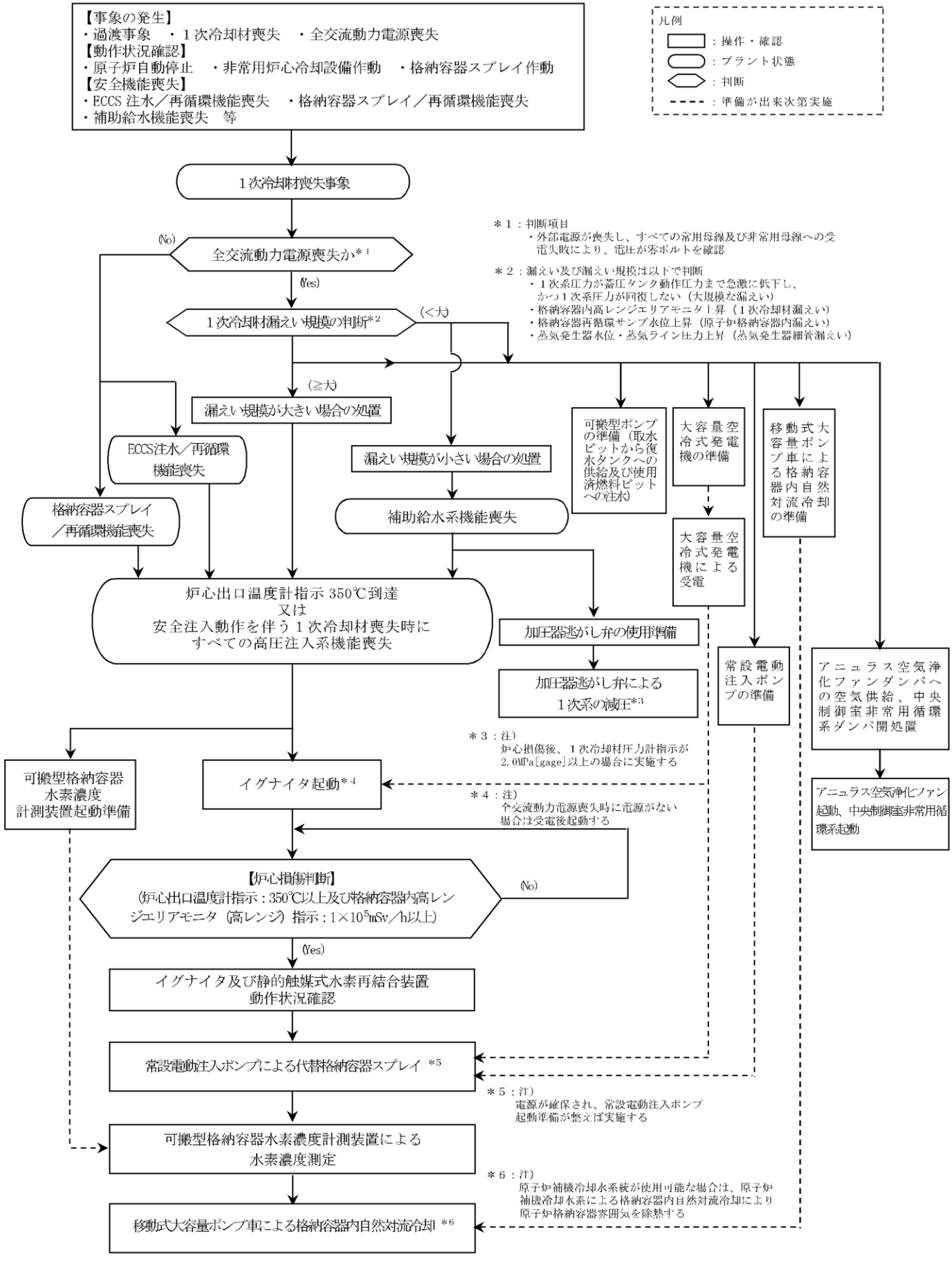
単位：Bq（GROSS 値）



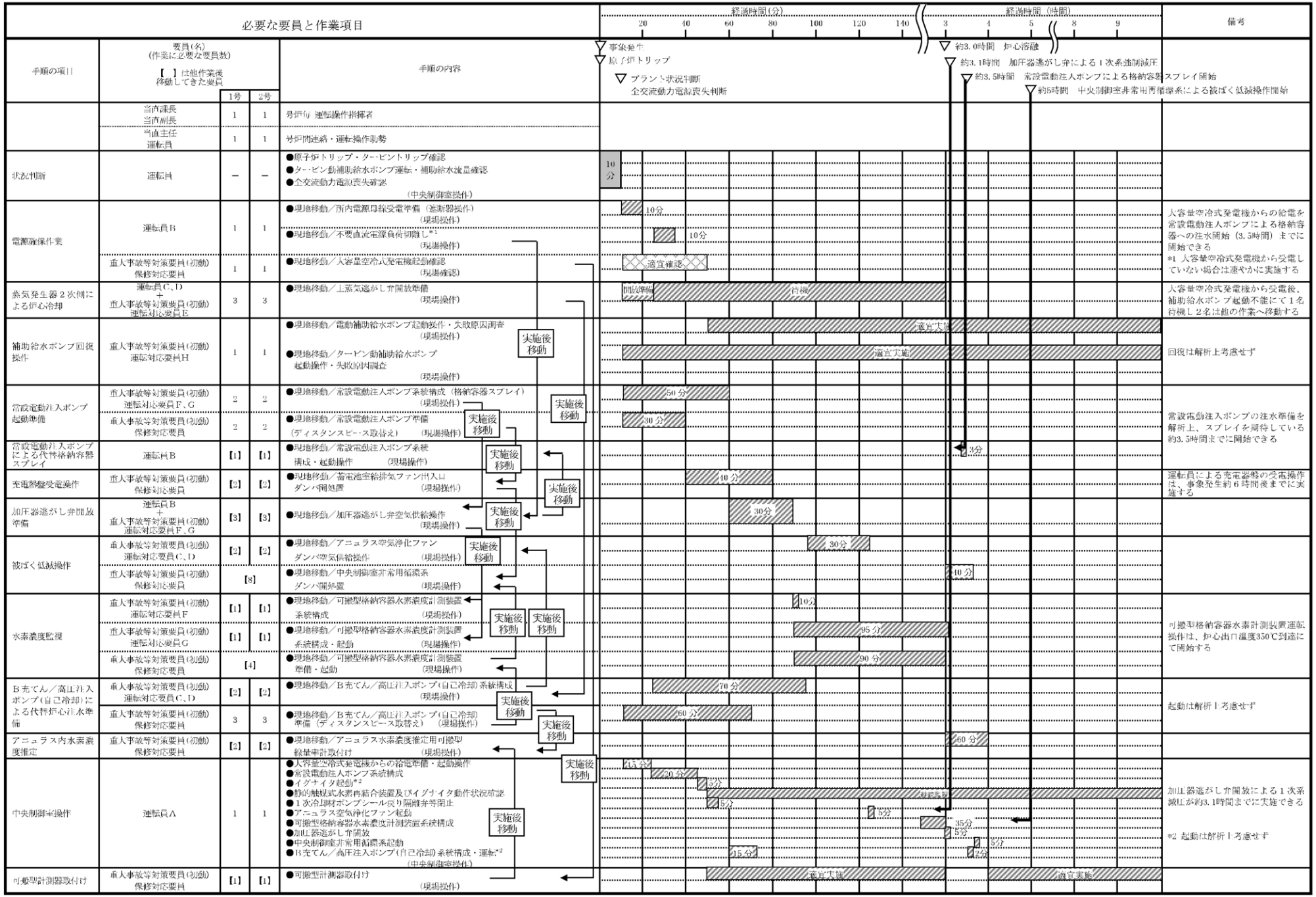
第 7.2.1.1.28 図　Cs-137 の大気放出過程



第7.2.1.2.1図　雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過温破損）モードでの
重大事故等対策の概略系統図



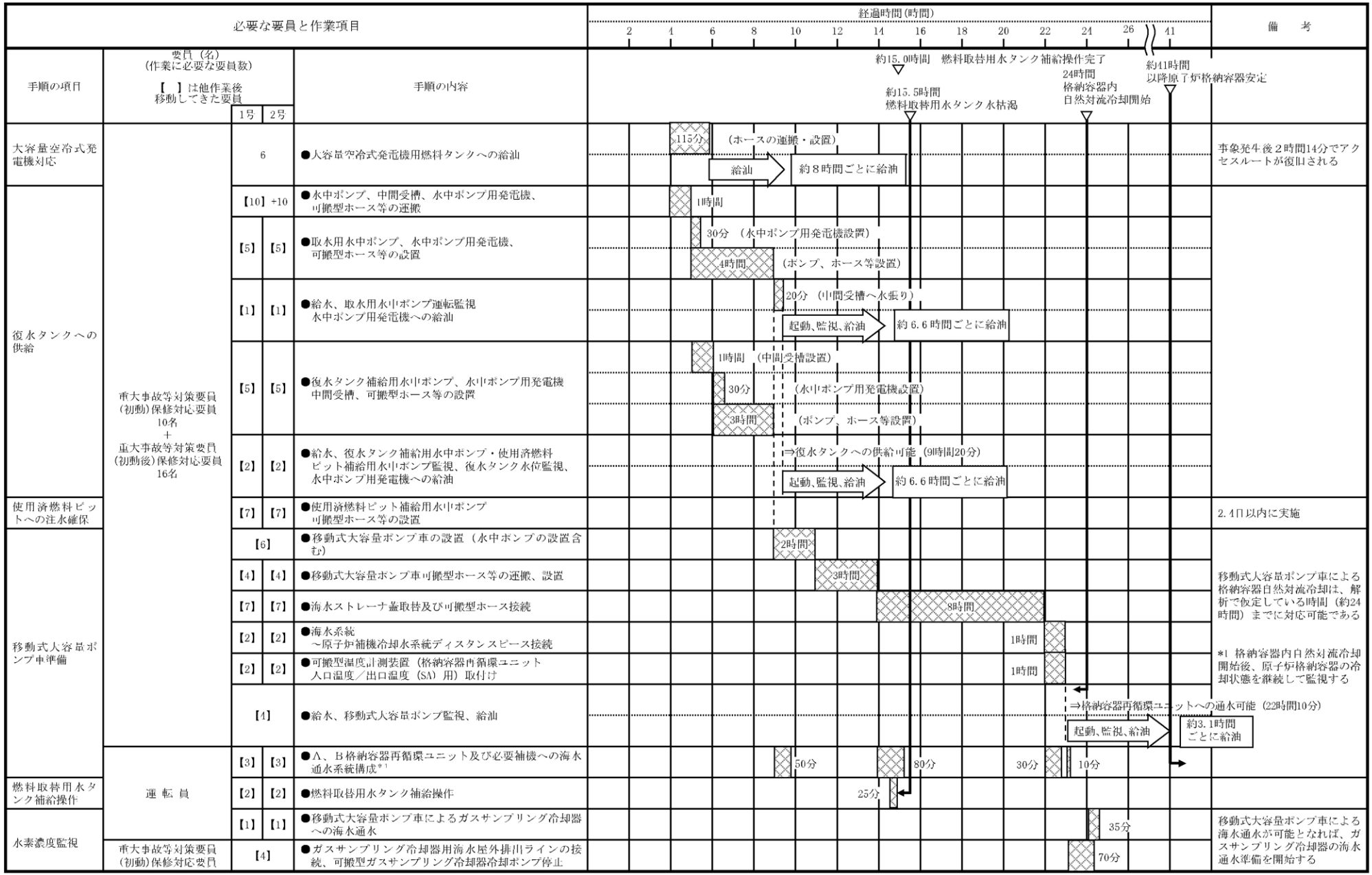
第7.2.1.2.2図　格納容器破損モードの対応手順の概要
(雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過温破損))



・各操作・作業の必要時間算定については、実際の現場移動時間又は作業時間を確認した上で算出している(一部、未配備の機器については想定時間により算出)
・緊急時対策本部要員は4名であり、全体指揮、通報連絡等を行う

汚染防護服(タイベック・ゴム手袋等)、全面マスク、ポケット線量計着用
放射線防護具着用なし
全面マスク、ポケット線量計着用

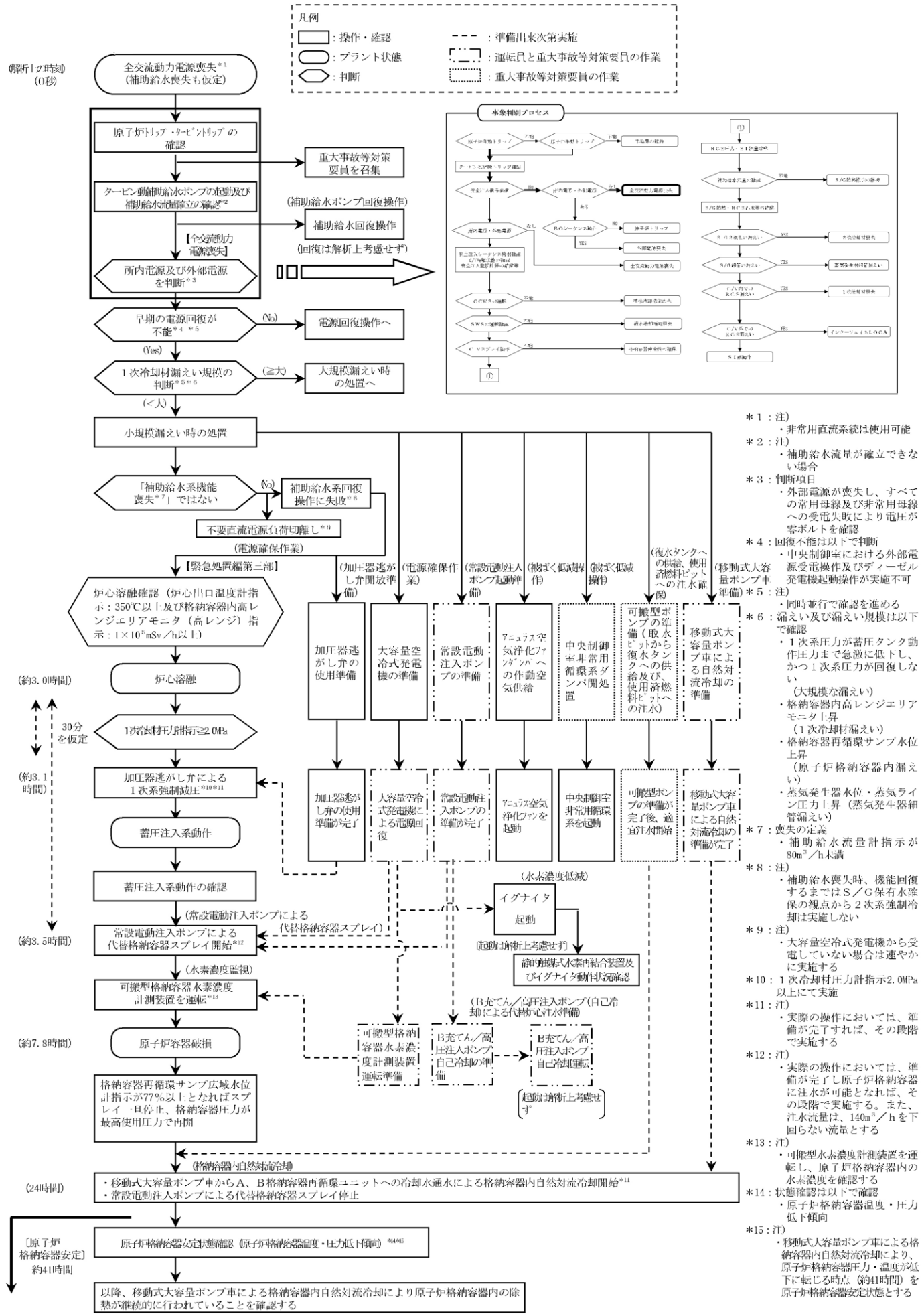
第7.2.1.2.3図　雰囲気圧力・温度による静的負荷(格納容器過温破損)　(全交流動力電源喪失＋補助給水失敗)時の作業と所要時間(1／2)



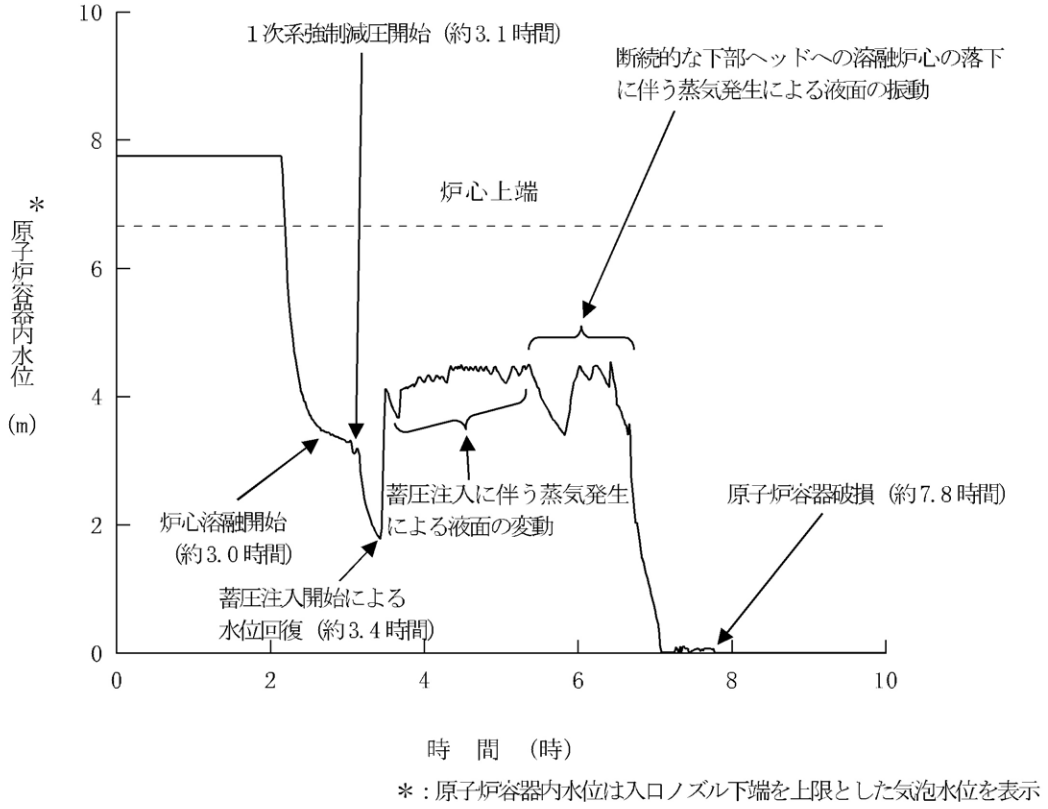
・給油間隔は発電機等定格負荷連続運転時の目安時間を記載
・炉心損傷が起きた場合は、作業員は一時退避する
・移動式大容量ポンプ車準備：ホース接続口を２ヶ所（海水ストレーナ側、ラプチャーディスク側）設けているが、ラプチャーディスク側のホース接続作業については、布設距離は長くなるもののホース展張回収車により容易に布設可能であり、またラプチャーディスクのフランジ取替が、海水ストレーナ蓋取替に比べ短時間で可能であるため、海水ストレーナ側の作業時間に包括されることから、海水ストレーナ側の接続を記載
・上記対応の他、緊急時対策所（指揮所）又は緊急時対策所（緊急時対策棟内）の電源確保対応者：４名（重大事故等対策要員（初動後）保修対応要員のうち４名が対応）

汚染防護服（タイベック・ゴム手袋等）、全面マスク、ポケット線量計着用

第 7.2.1.2.3 図　雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過温破損）（全交流動力電源喪失＋補助給水失敗）時の作業と所要時間（2／2）

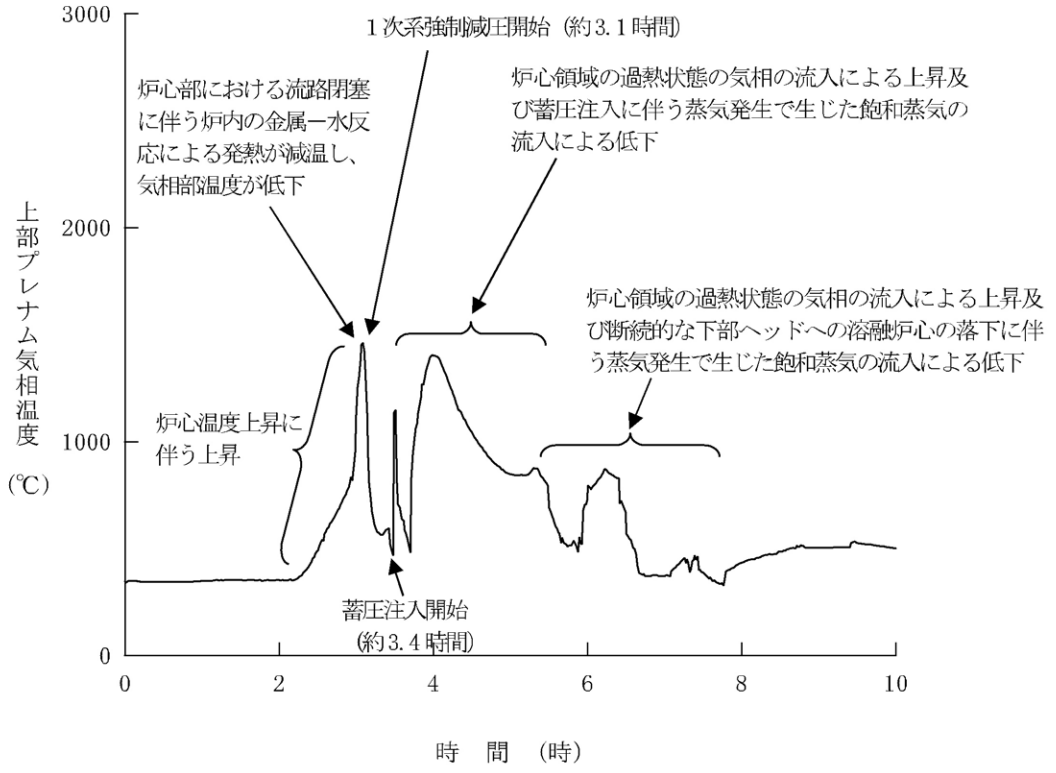


第7.2.1.2.4図　雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過温破損）（全交流動力電源喪失＋補助給水失敗）における事象進展の概要

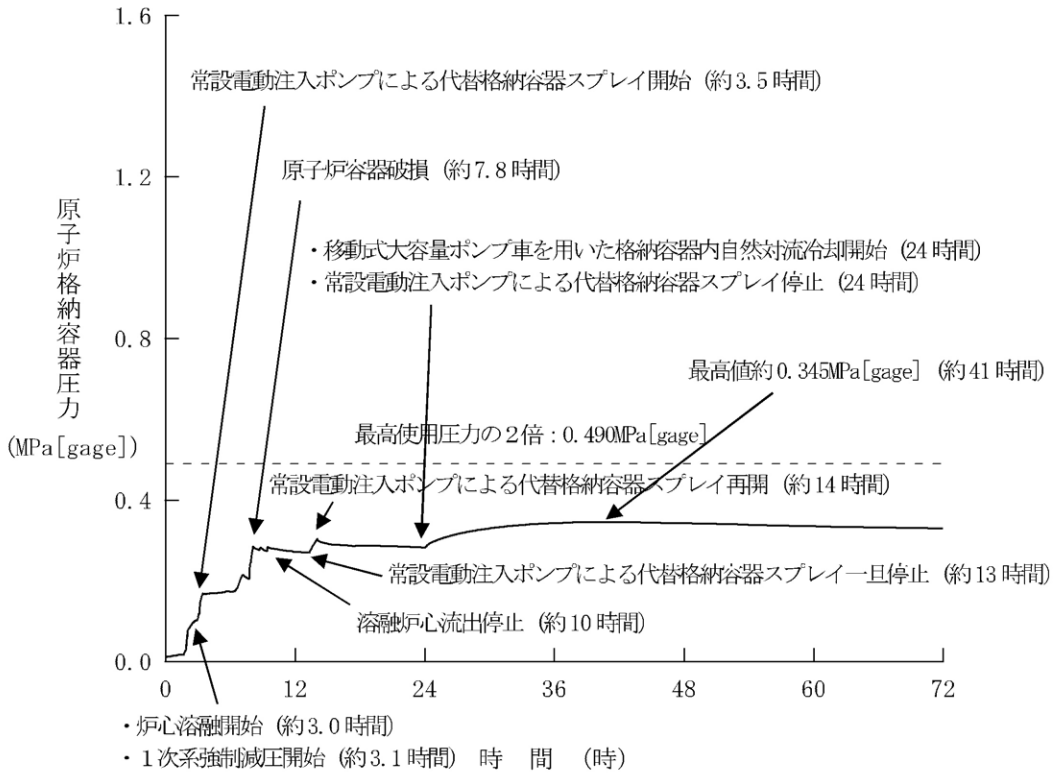


＊：原子炉容器内水位は入口ノズル下端を上限とした気泡水位を表示

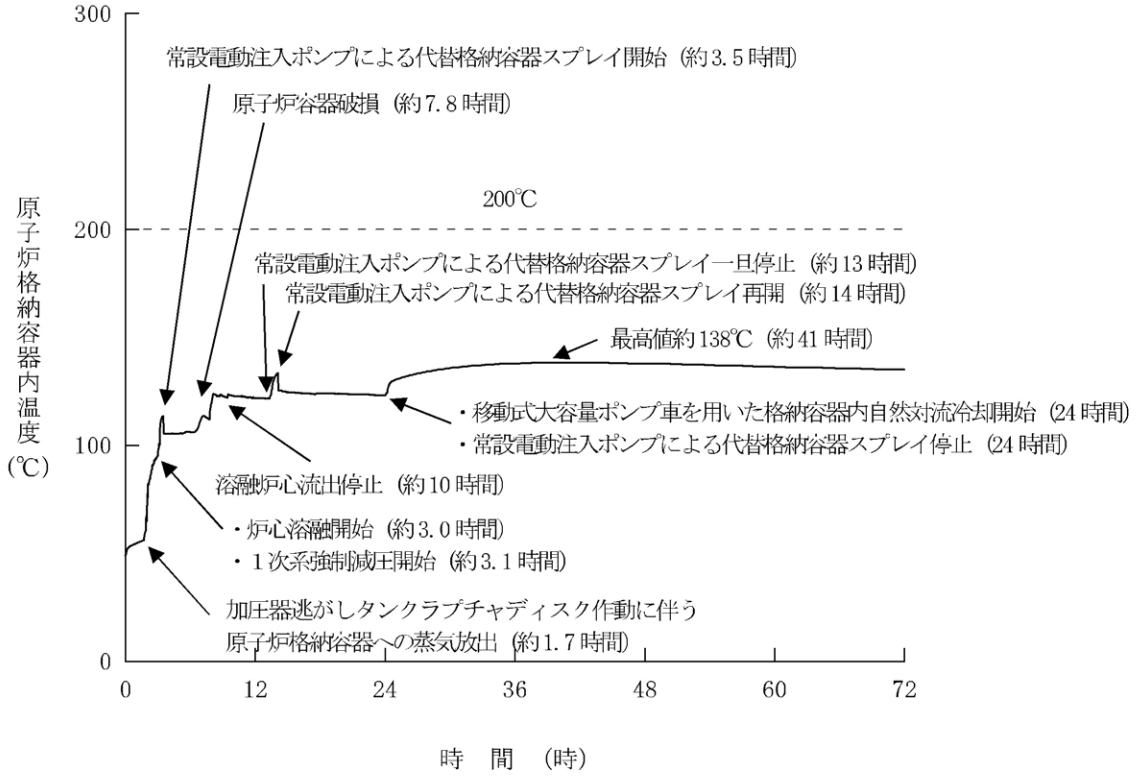
第7.2.1.2.5図　原子炉容器内水位の推移



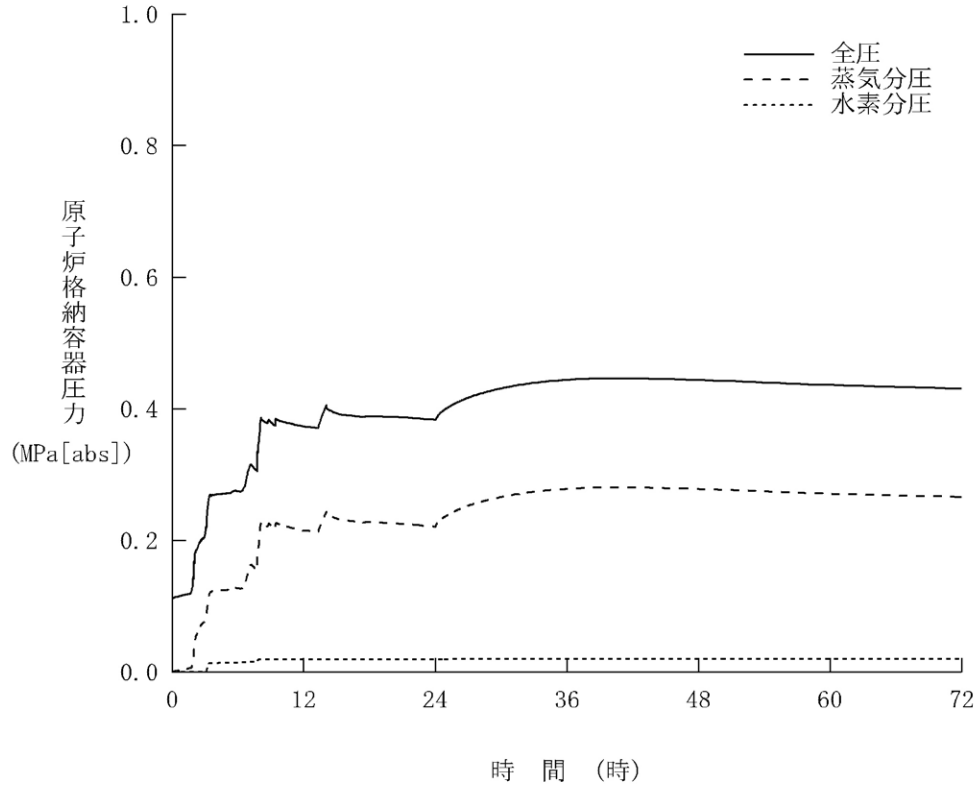
第7.2.1.2.6図　上部プレナム気相温度の推移



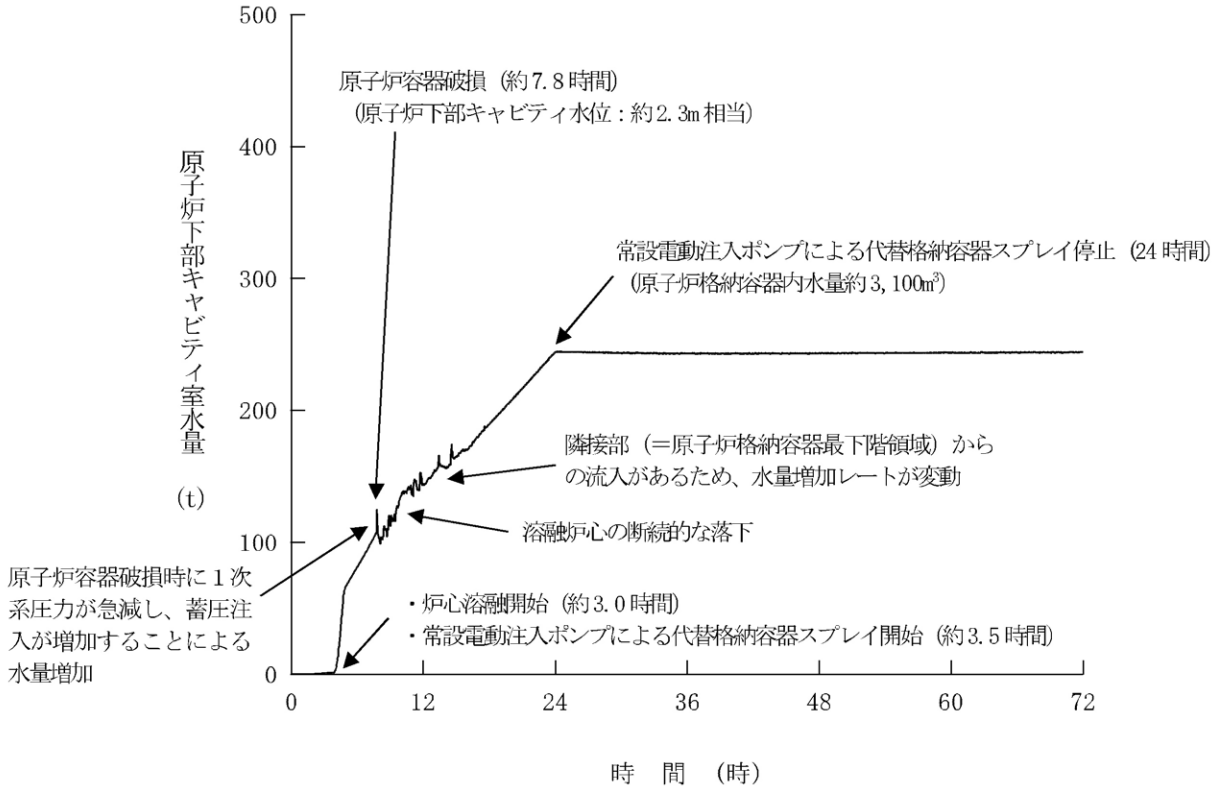
第7.2.1.2.7図　原子炉格納容器圧力の推移



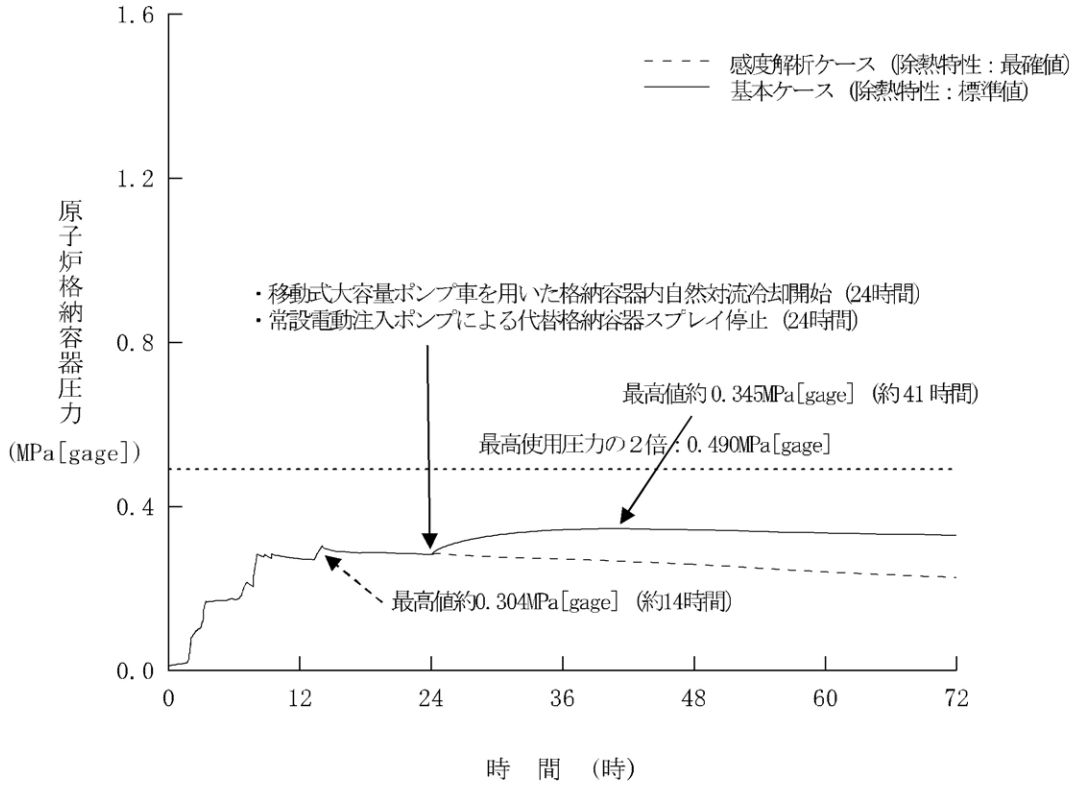
第7.2.1.2.8図　原子炉格納容器内温度の推移



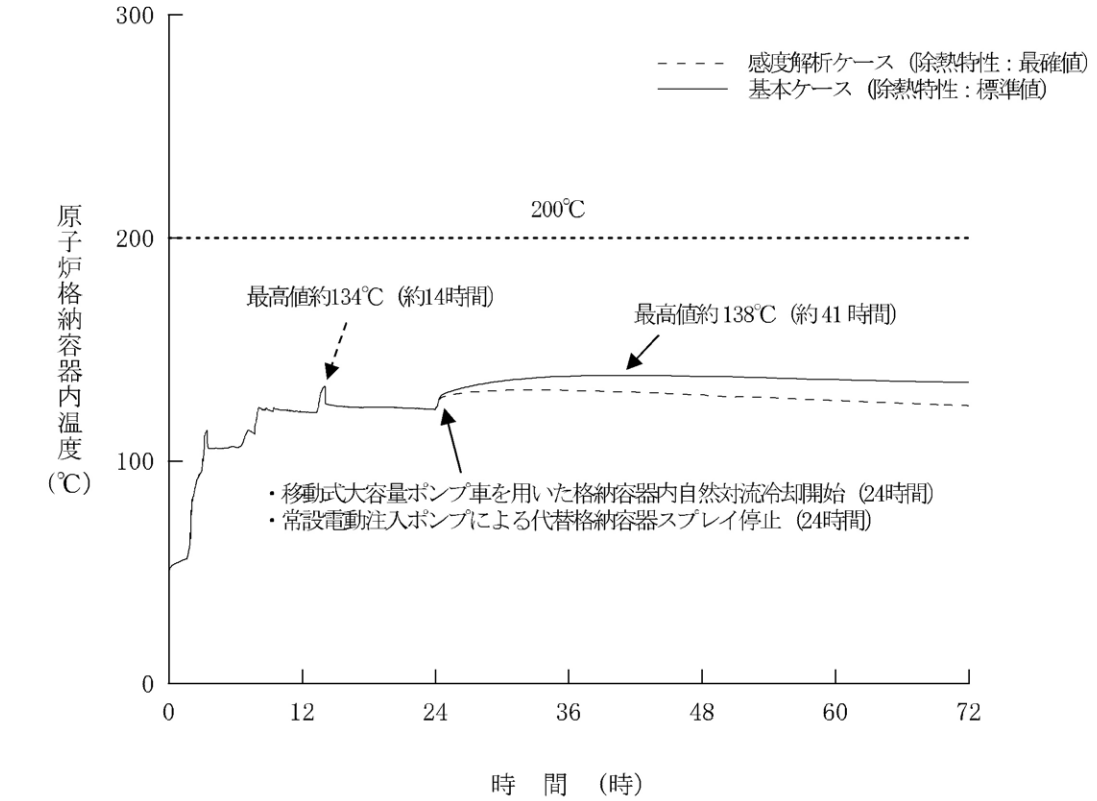
第7.2.1.2.9図　原子炉格納容器圧力に占める水蒸気及び水素の分圧（絶対圧）の推移



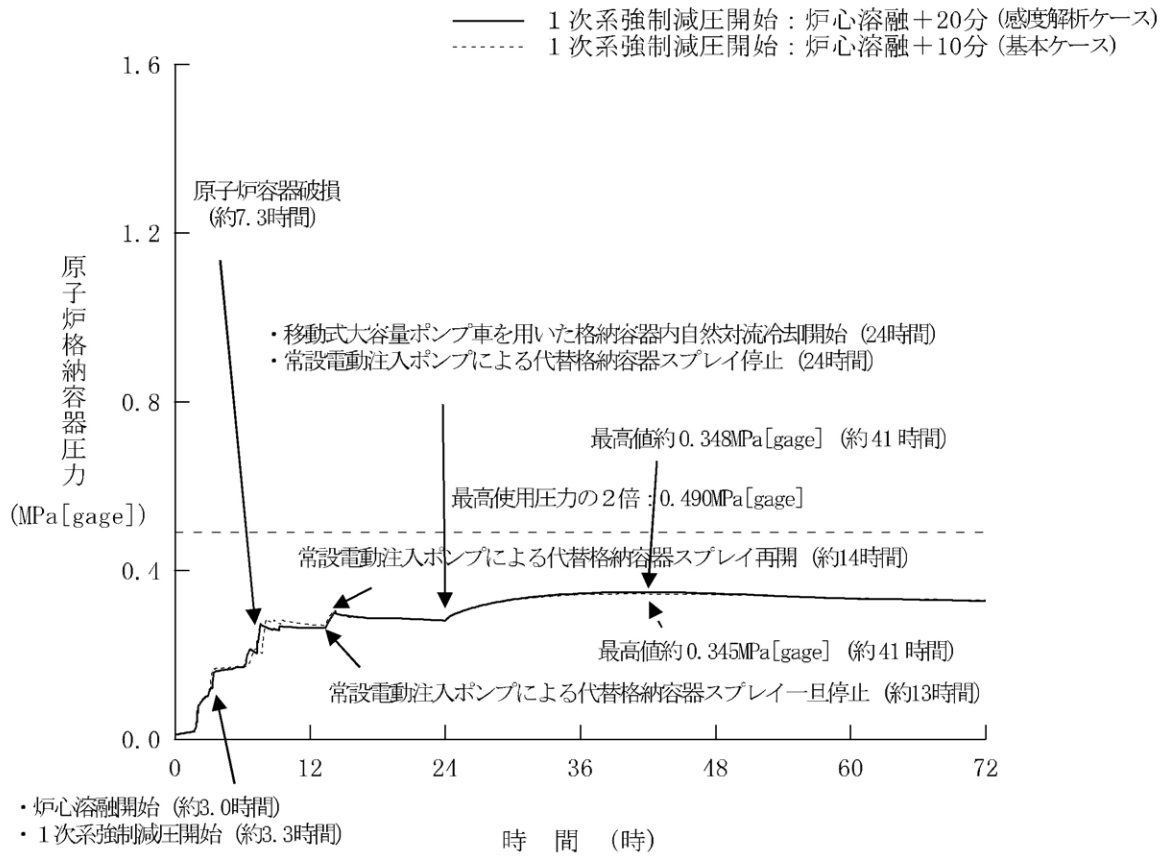
第7.2.1.2.10図　原子炉下部キャビティ室水量の推移



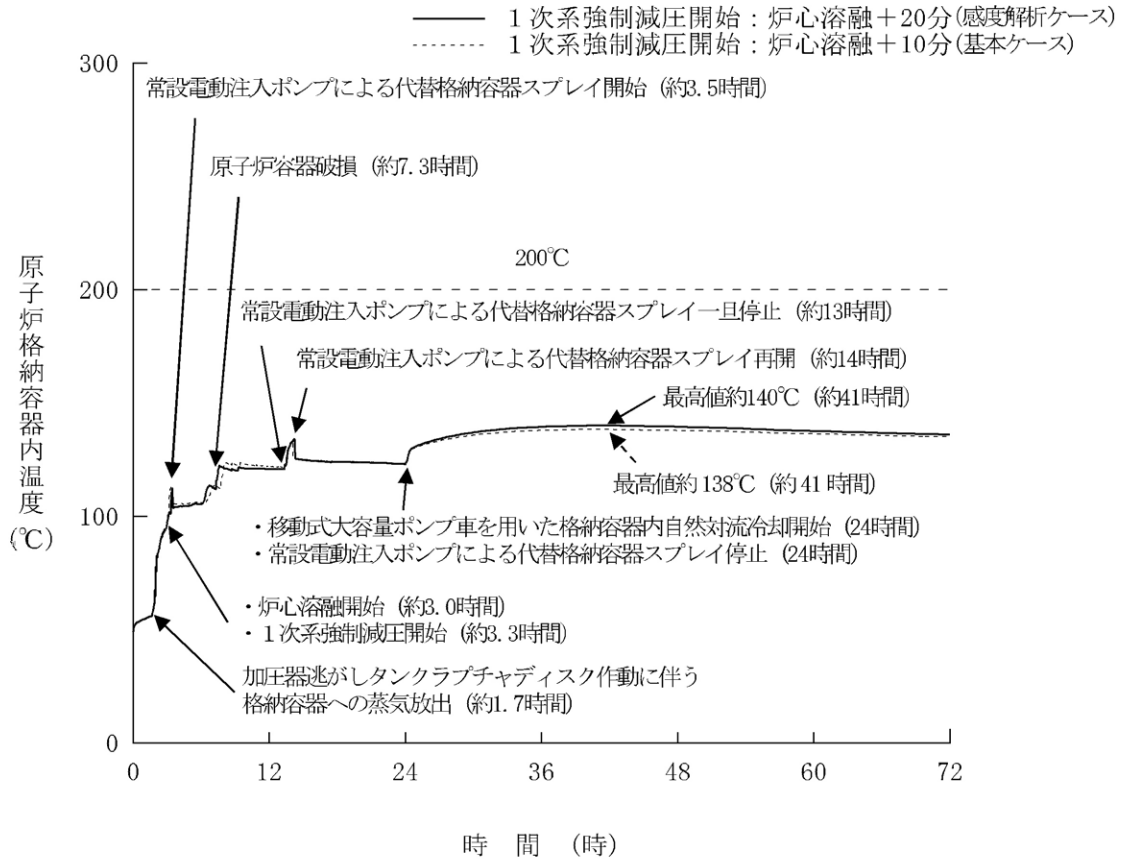
第7.2.1.2.11図　原子炉格納容器圧力の推移
(格納容器再循環ユニット除熱特性の影響確認)



第7.2.1.2.12図　原子炉格納容器内温度の推移
(格納容器再循環ユニット除熱特性の影響確認)

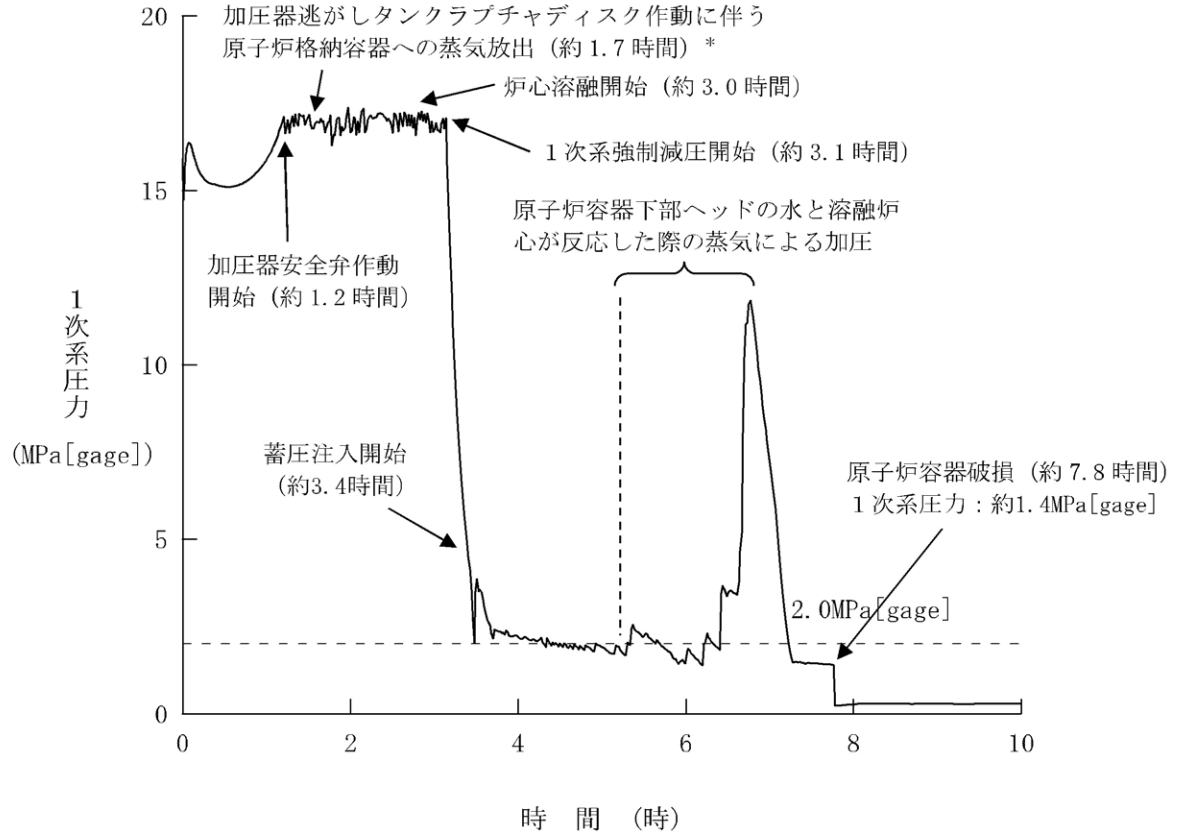


第7.2.1.2.13図　原子炉格納容器圧力の推移
（加圧器逃がし弁開放操作開始の時間余裕確認）

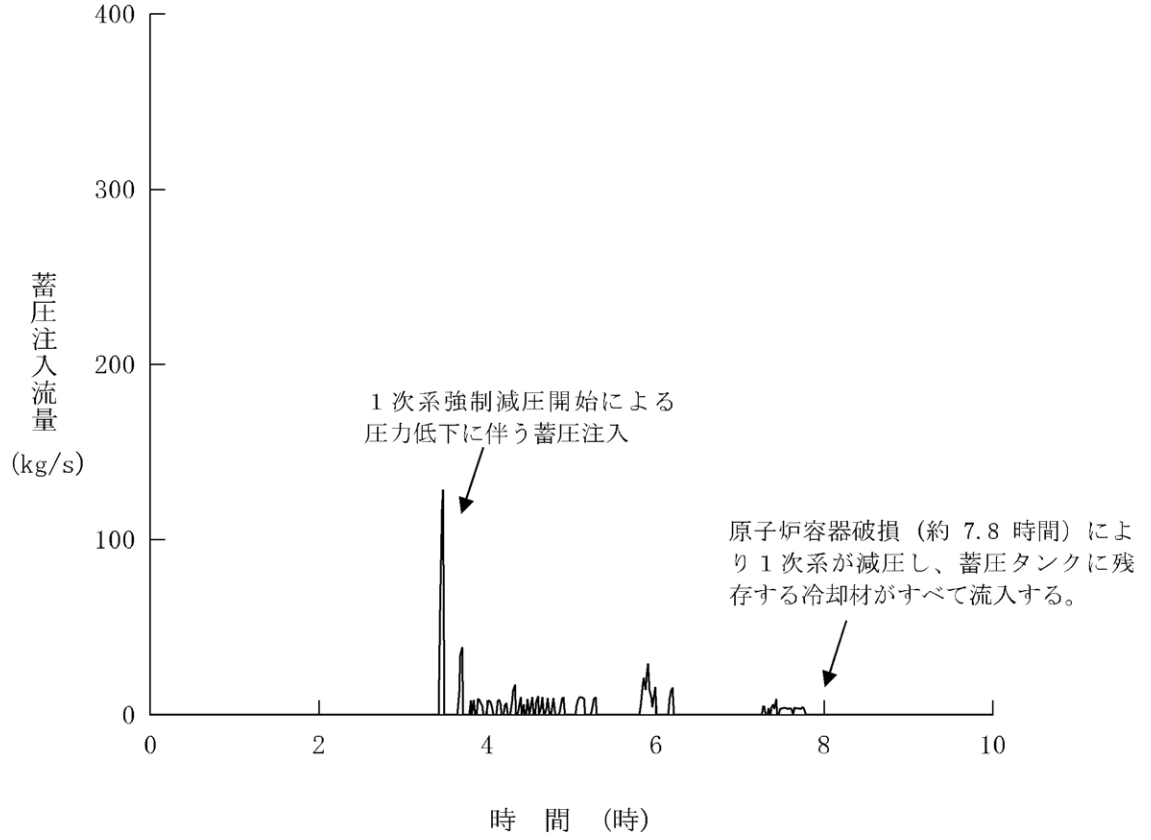


第7.2.1.2.14図　原子炉格納容器内温度の推移
（加圧器逃がし弁開放操作開始の時間余裕確認）

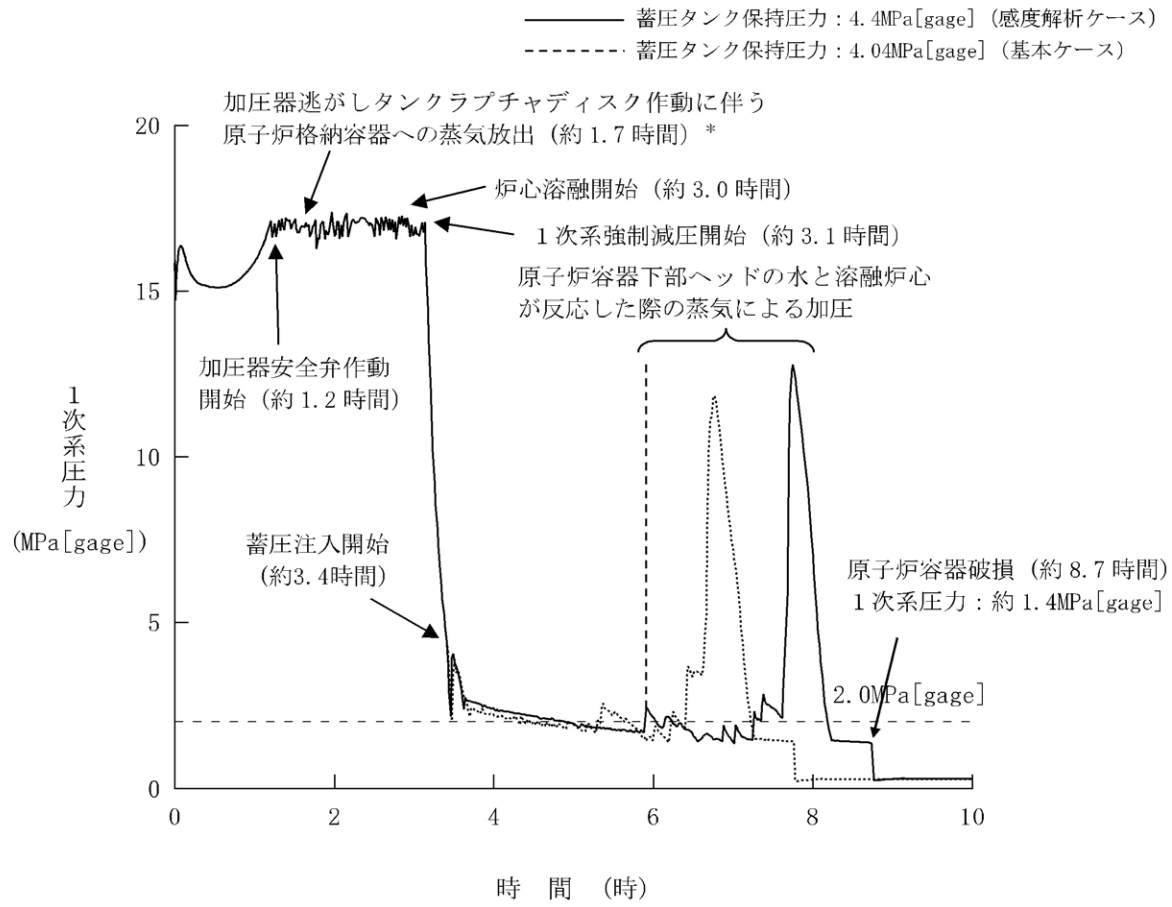
＊：加圧器逃がしタンク圧力（内圧）と、原子炉格納容器圧力（外圧）を監視し、ラプチャディスクの作動する内外圧の差に到達したときに原子炉格納容器へ蒸気が放出



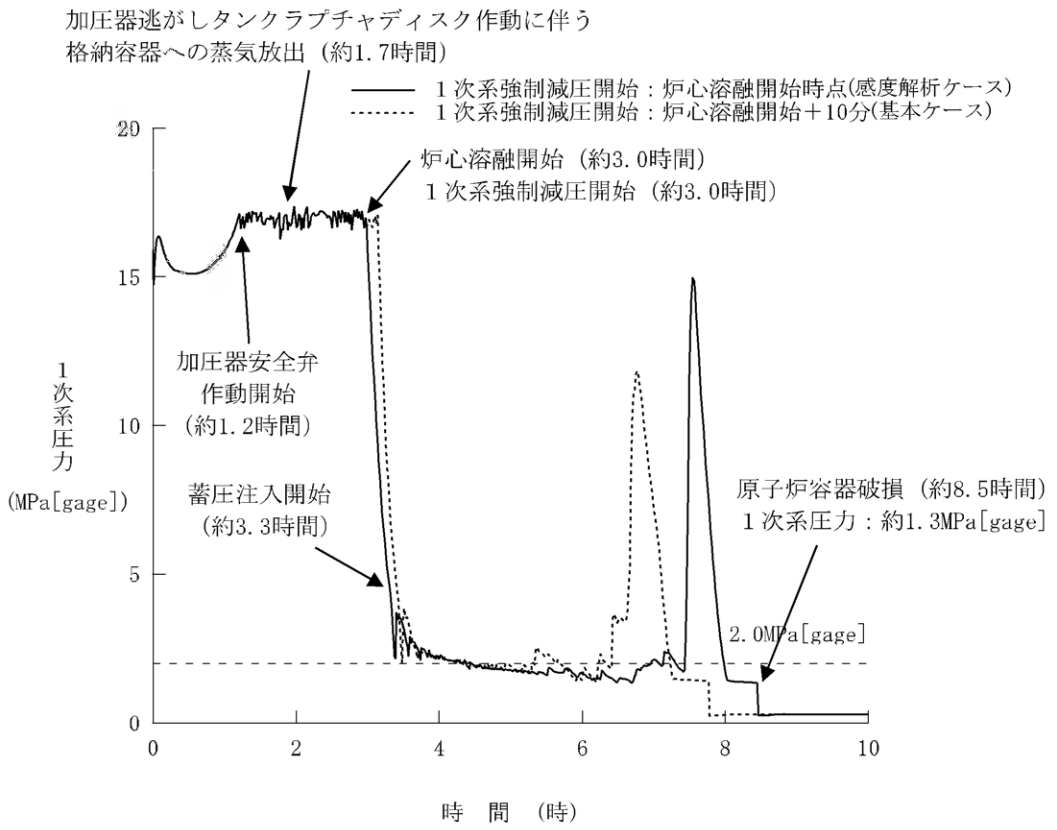
第 7.2.2.1 図　1 次系圧力の推移



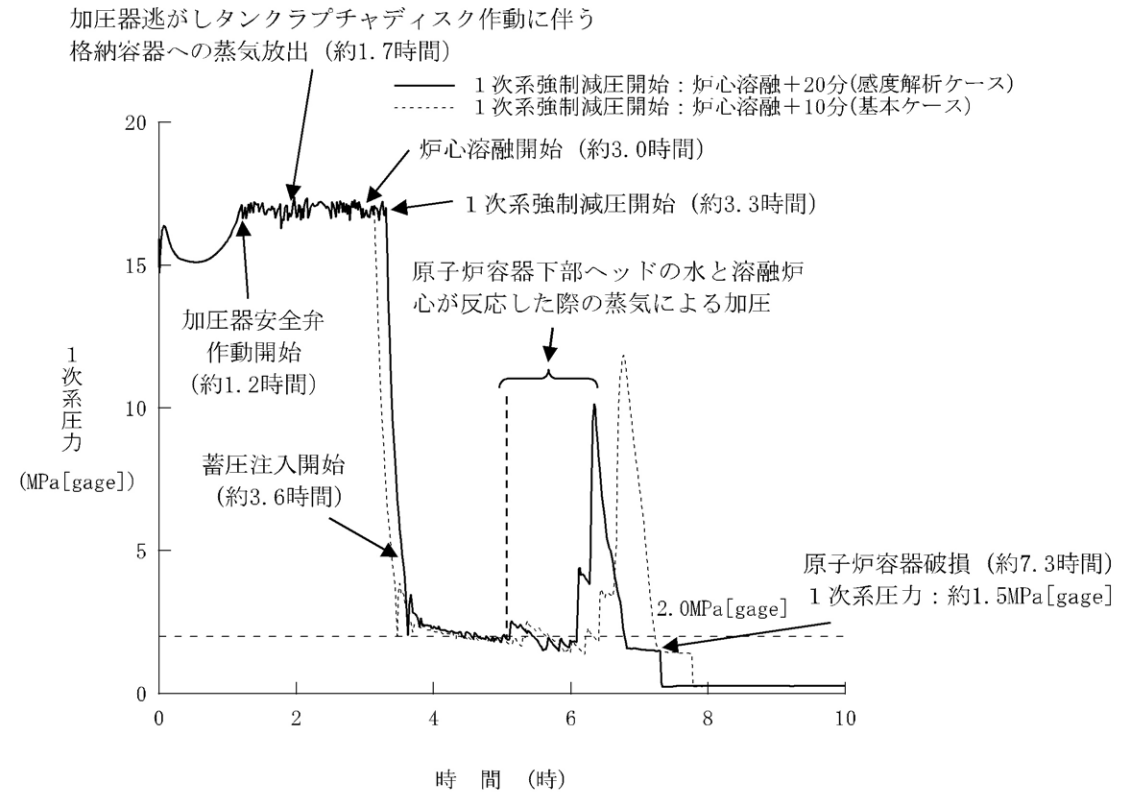
第 7.2.2.2 図　蓄圧注入流量の推移



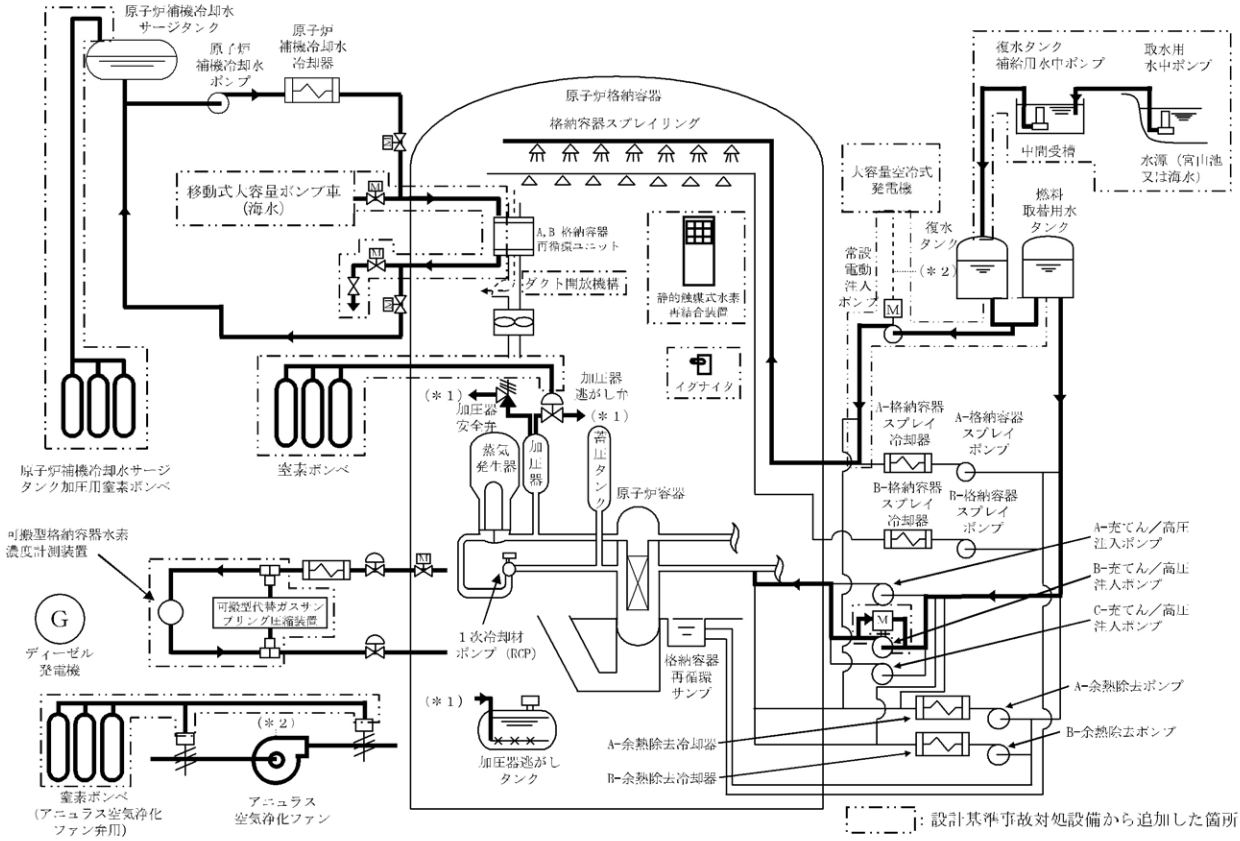
第 7.2.2.3 図　1 次系圧力の推移（蓄圧タンク保持圧力の影響確認）



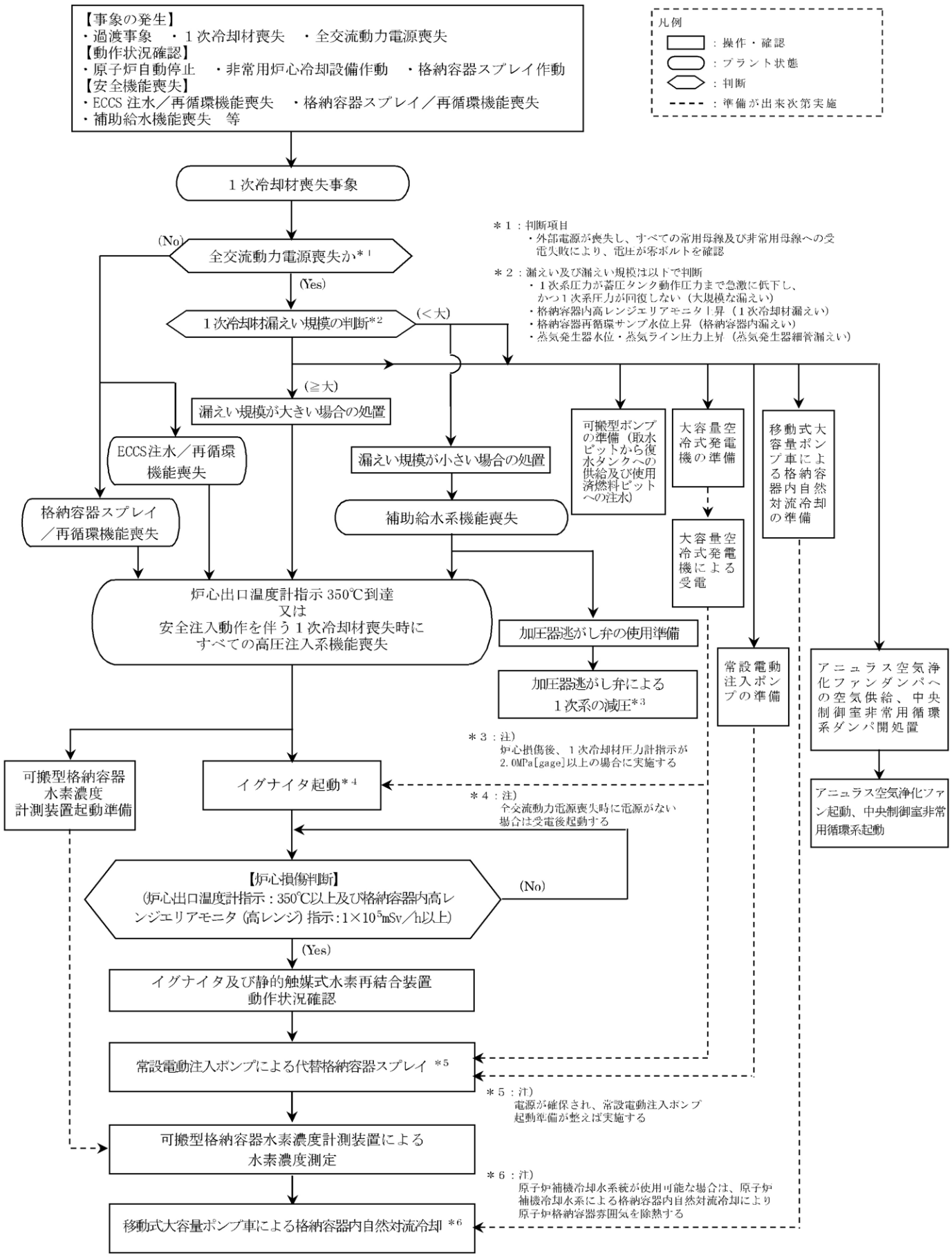
第 7.2.2.4 図　１次系圧力の推移（加圧器逃がし弁開放操作開始が早くなる場合）



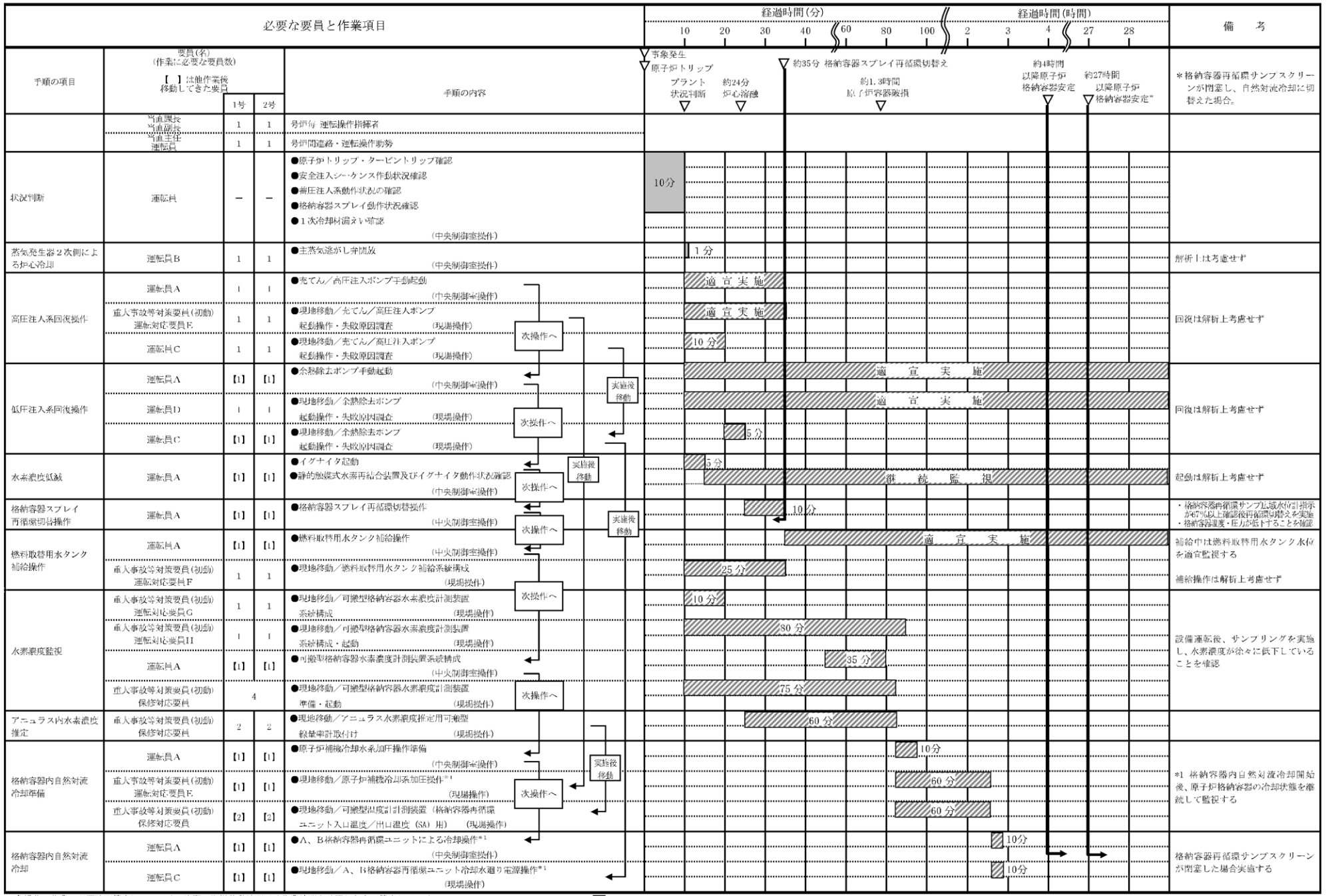
第 7.2.2.5 図　１次系圧力の推移（加圧器逃がし弁開放操作開始が遅くなる場合）



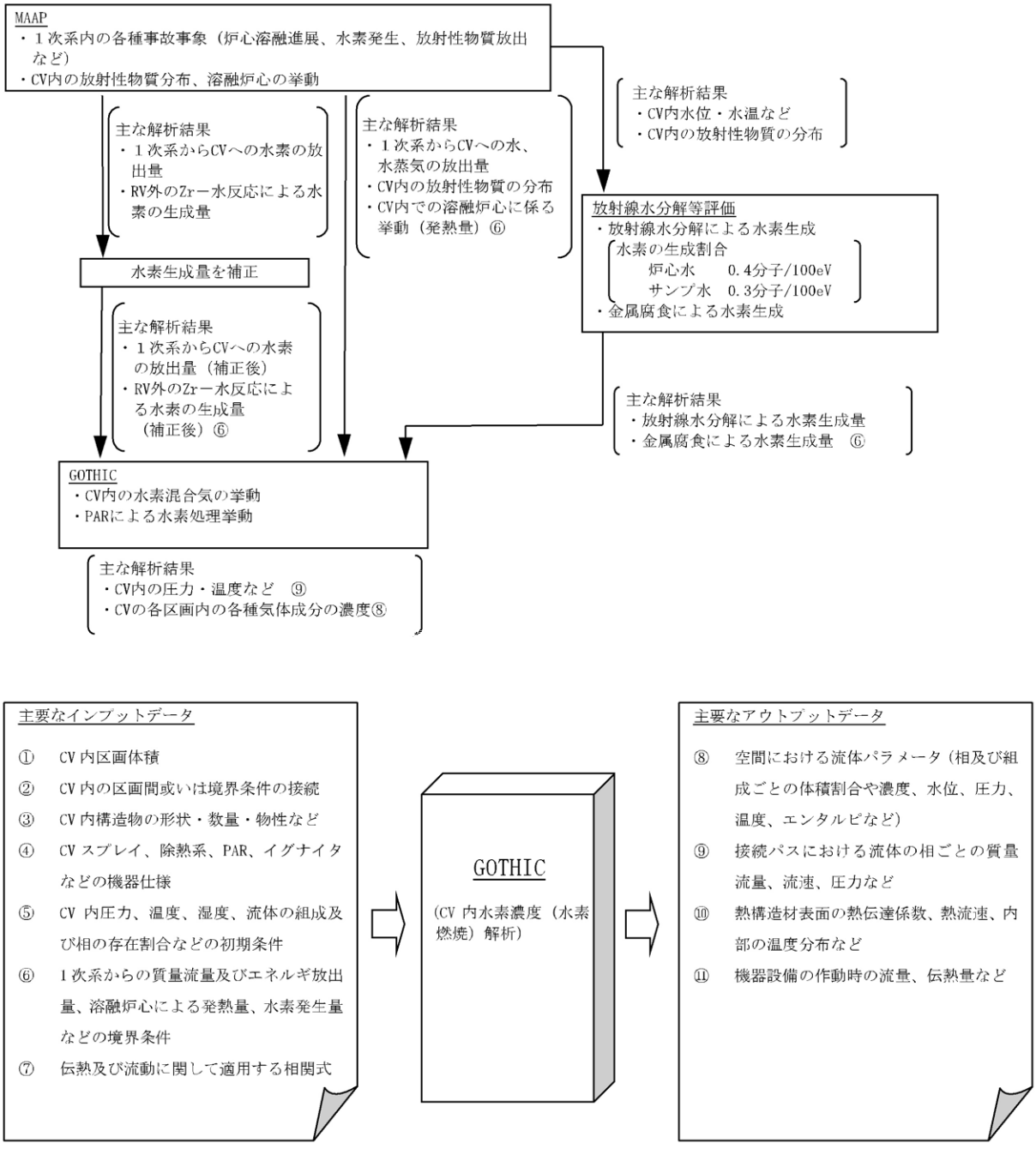
第 7.2.4.1 図　水素燃焼モードでの重大事故等対策の概略系統図



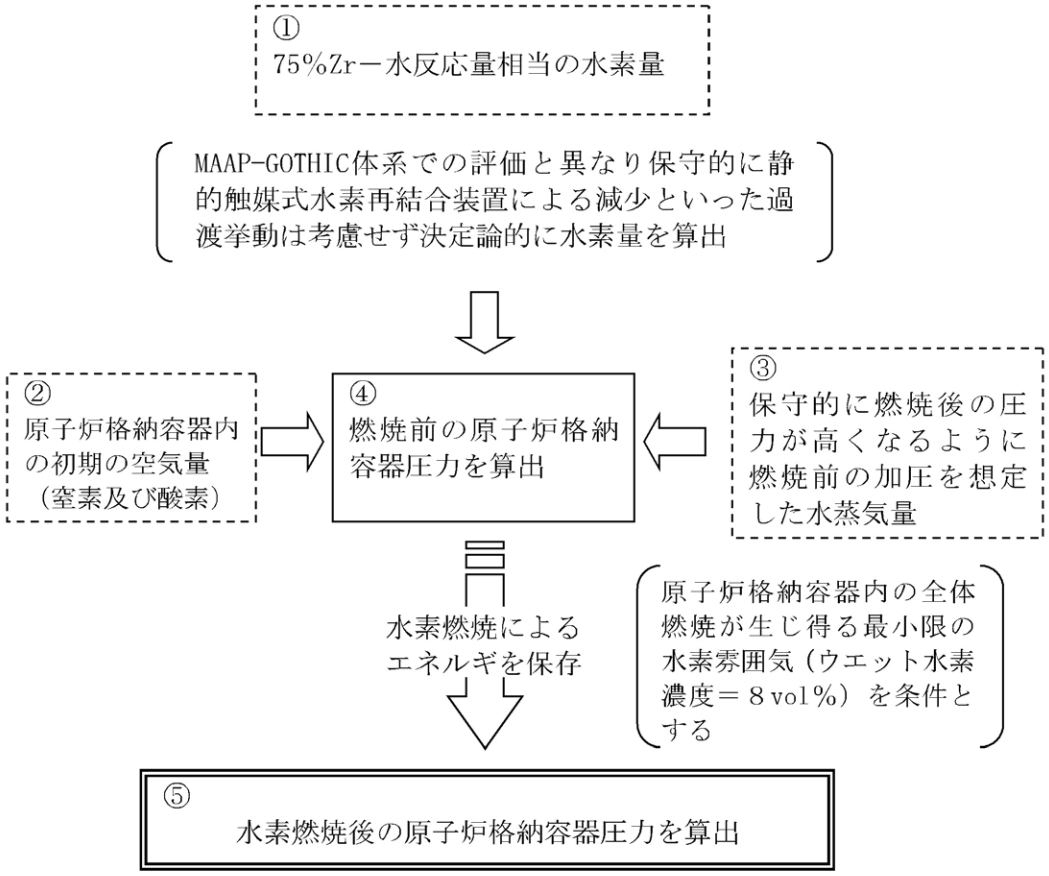
第 7.2.4.2 図　格納容器破損モードの対応手順の概要
（水素燃焼）



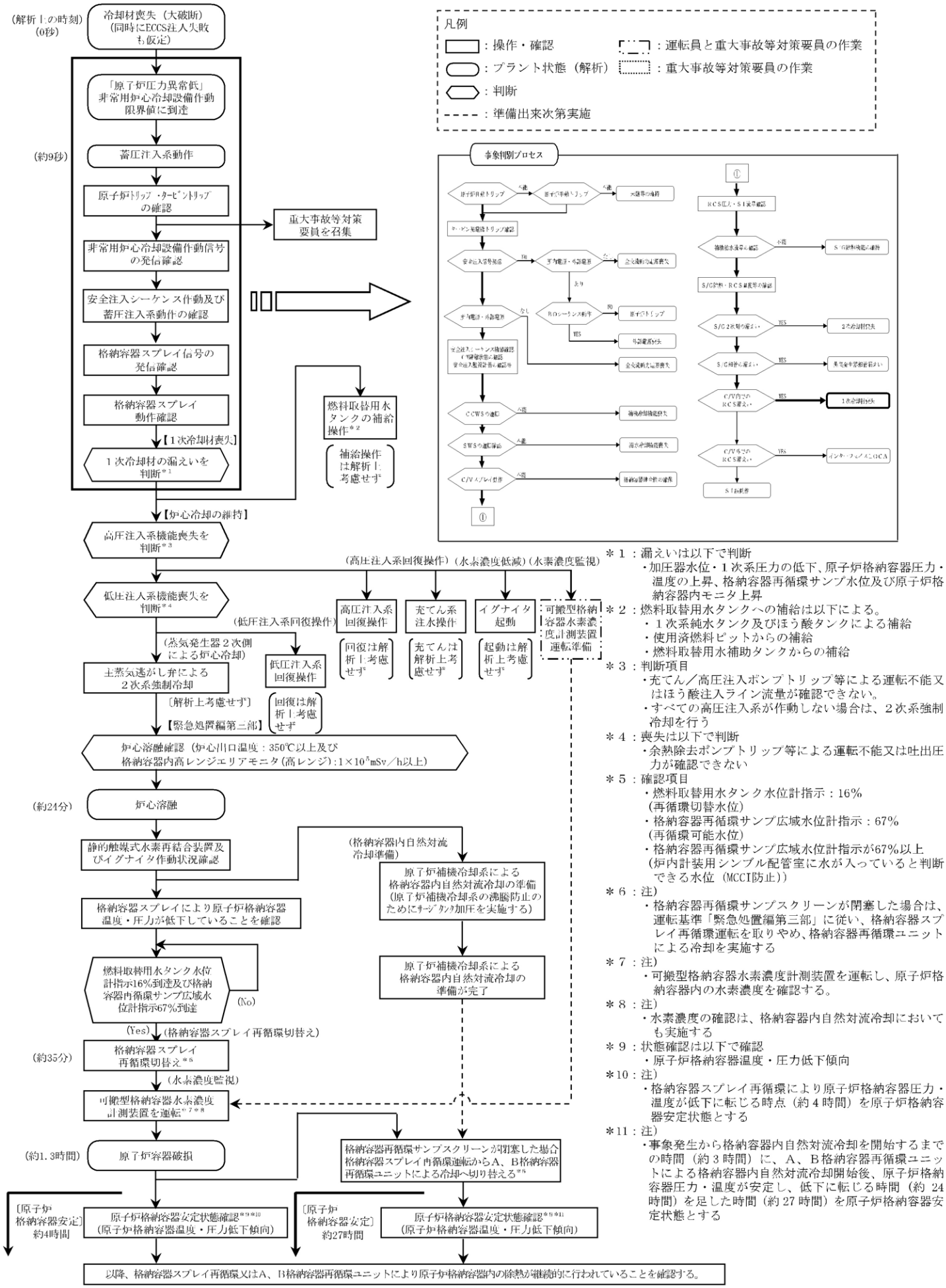
第 7.2.4.3 図　水素燃焼（大破断 LOCA＋ECCS 注入失敗）における作業と所要時間



第 7.2.4.4 図　水素濃度評価の概要



第 7.2.4.5 図　水素燃焼後の原子炉格納容器圧力評価の流れ



＊１：漏えいは以下で判断
・加圧器水位・１次系圧力の低下、原子炉格納容器圧力・温度の上昇、格納容器再循環サンプ水位及び原子炉格納容器内モニタ上昇

＊２：燃料取替用水タンクへの補給は以下による。
・１次系純水タンク及びほう酸タンクによる補給
・使用済燃料ピットからの補給
・燃料取替用水補助タンクからの補給

＊３：判断項目
・充てん／高圧注入ポンプトリップ等による運転不能又はほう酸注入ライン流量が確認できない。
・すべての高圧注入系が作動しない場合は、２次系強制冷却を行う

＊４：喪失は以下で判断
・余熱除去ポンプトリップ等による運転不能又は吐出圧力が確認できない

＊５：確認項目
・燃料取替用水タンク水位計指示：16%（再循環切替水位）
・格納容器再循環サンプ広域水位計指示：67%（再循環可能水位）
・格納容器再循環サンプ広域水位計指示が67%以上（炉内計装用シンブル配管室に水が入っていると判断できる水位（MCCI防止））

＊６：注）
・格納容器再循環サンプスクリーンが閉塞した場合は、運転基準「緊急処置編第三部」に従い、格納容器スプレイ再循環運転を取りやめ、格納容器再循環ユニットによる冷却を実施する

＊７：注）
・可搬型格納容器水素濃度計測装置を運転し、原子炉格納容器内の水素濃度を確認する。

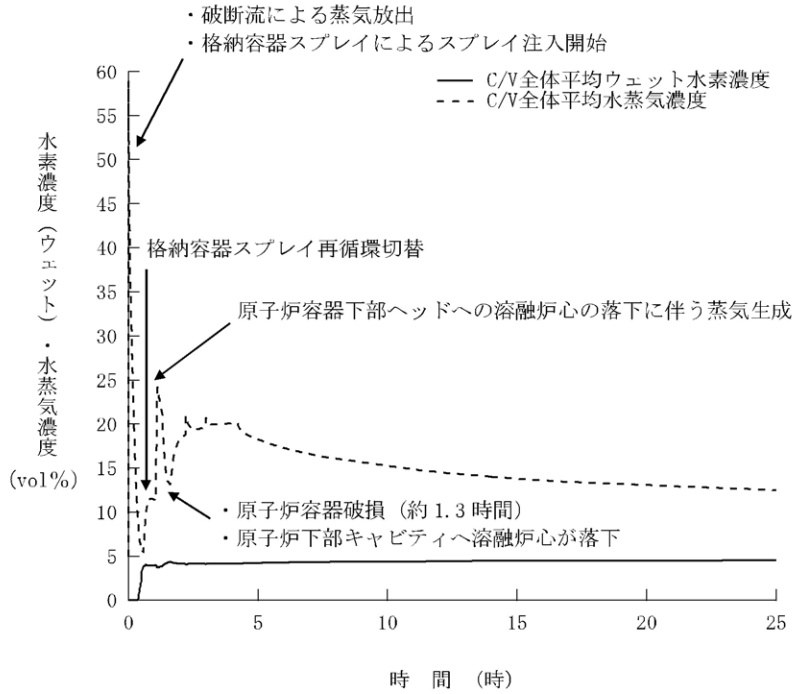
＊８：注）
・水素濃度の確認は、格納容器内自然対流冷却においても実施する

＊９：状態確認は以下で確認
・原子炉格納容器温度・圧力低下傾向

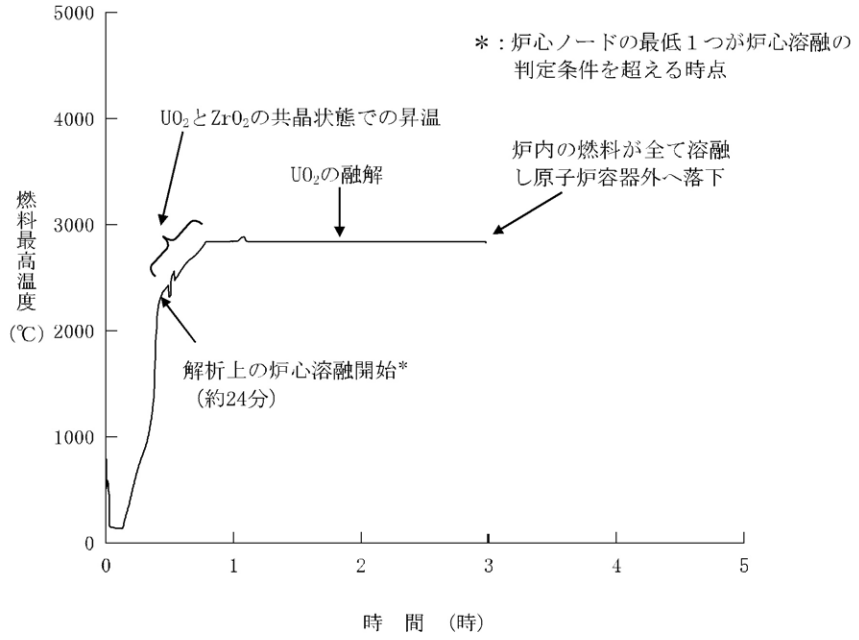
＊10：注）
・格納容器スプレイ再循環により原子炉格納容器圧力・温度が低下に転じる時点（約４時間）を原子炉格納容器安定状態とする

＊11：注）
・事象発生から格納容器内自然対流冷却を開始するまでの時間（約３時間）に、A、B格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却開始後、原子炉格納容器圧力・温度が安定し、低下に転じる時間（約 24 時間）を足した時間（約 27 時間）を原子炉格納容器安定状態とする

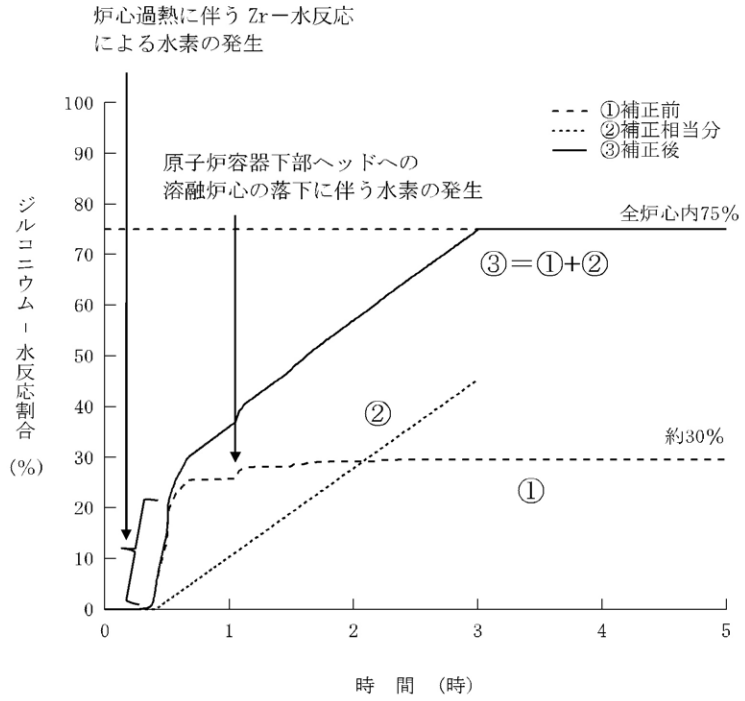
第7.2.4.6図　水素燃焼（大破断LOCA＋ECCS注入失敗）における事象進展の概要



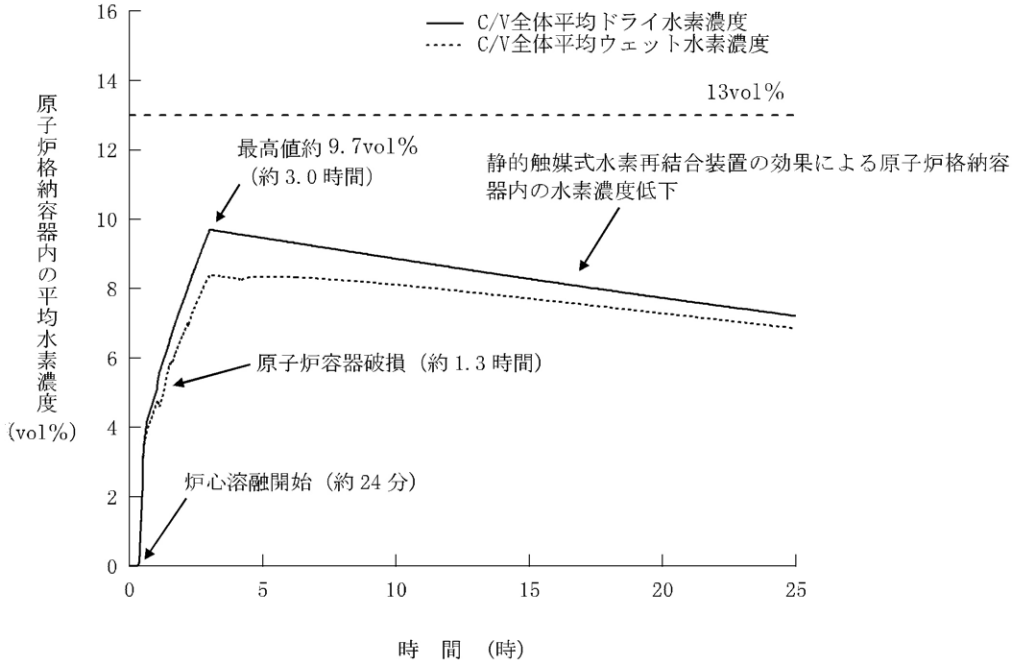
第 7.2.4.7 図　原子炉格納容器内の水素・水蒸気濃度の推移（MAAP コード）



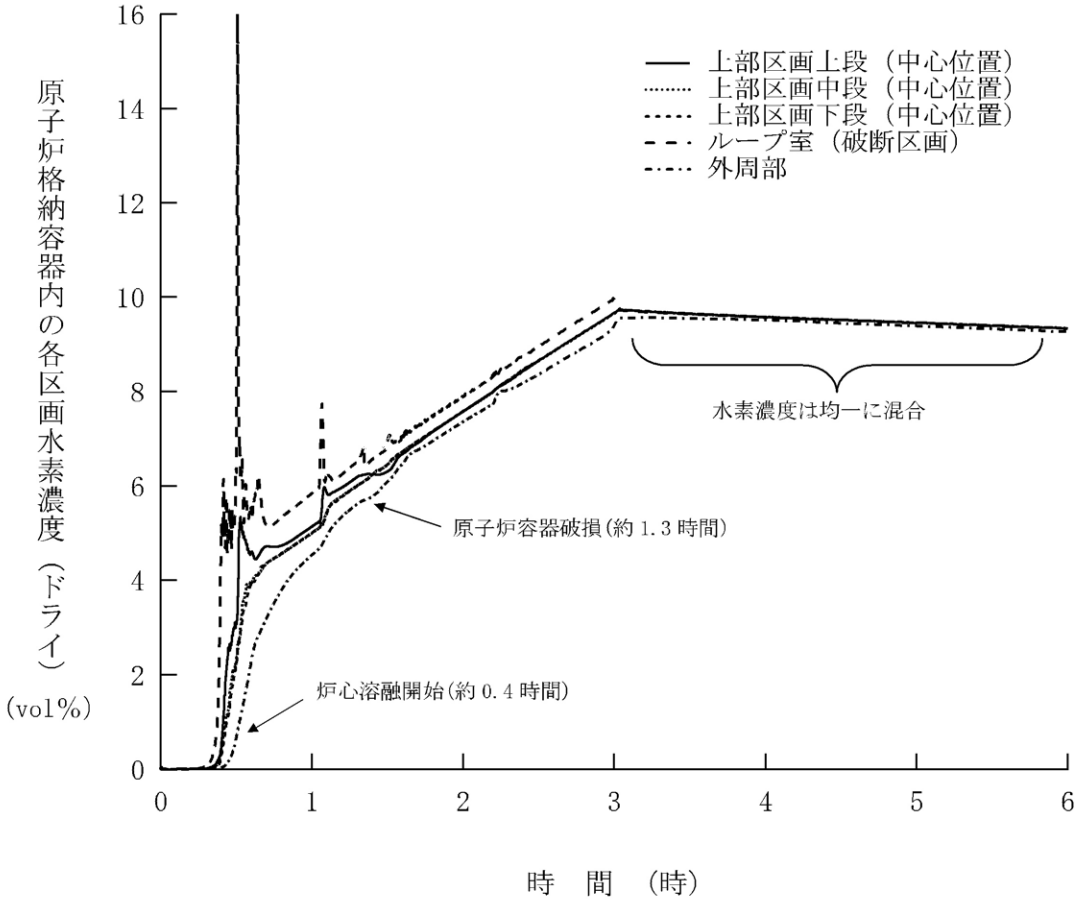
第 7.2.4.8 図　燃料最高温度の推移



第 7.2.4.9 図　ジルコニウム－水反応割合の推移



第 7.2.4.10 図　原子炉格納容器内の平均水素濃度の推移（GOTHIC コード）



第 7.2.4.11 図　原子炉格納容器内の各区画水素濃度（ドライ）の推移
(GOTHIC コード)